# 2014年上期の業種別部会長シンポジウム

# SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS DEPARTAMENTOS SETORIAIS

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

司会

上野　秀雄　　総務委員長

APRESENTADOR

Presidente da Comissão
de Coordenação Geral:

Hideo  Ueno

# 挨拶

## 藤井　晋介　会頭

## Palavras do Presidente da Câmara:

## Shinsuke  Fujii

# 基調講演＆質疑応答

# 第一回日伯 ICT ラウンドテーブル へ向けて

高地圭輔
総務省情報通信国際戦略局
国際経済課長

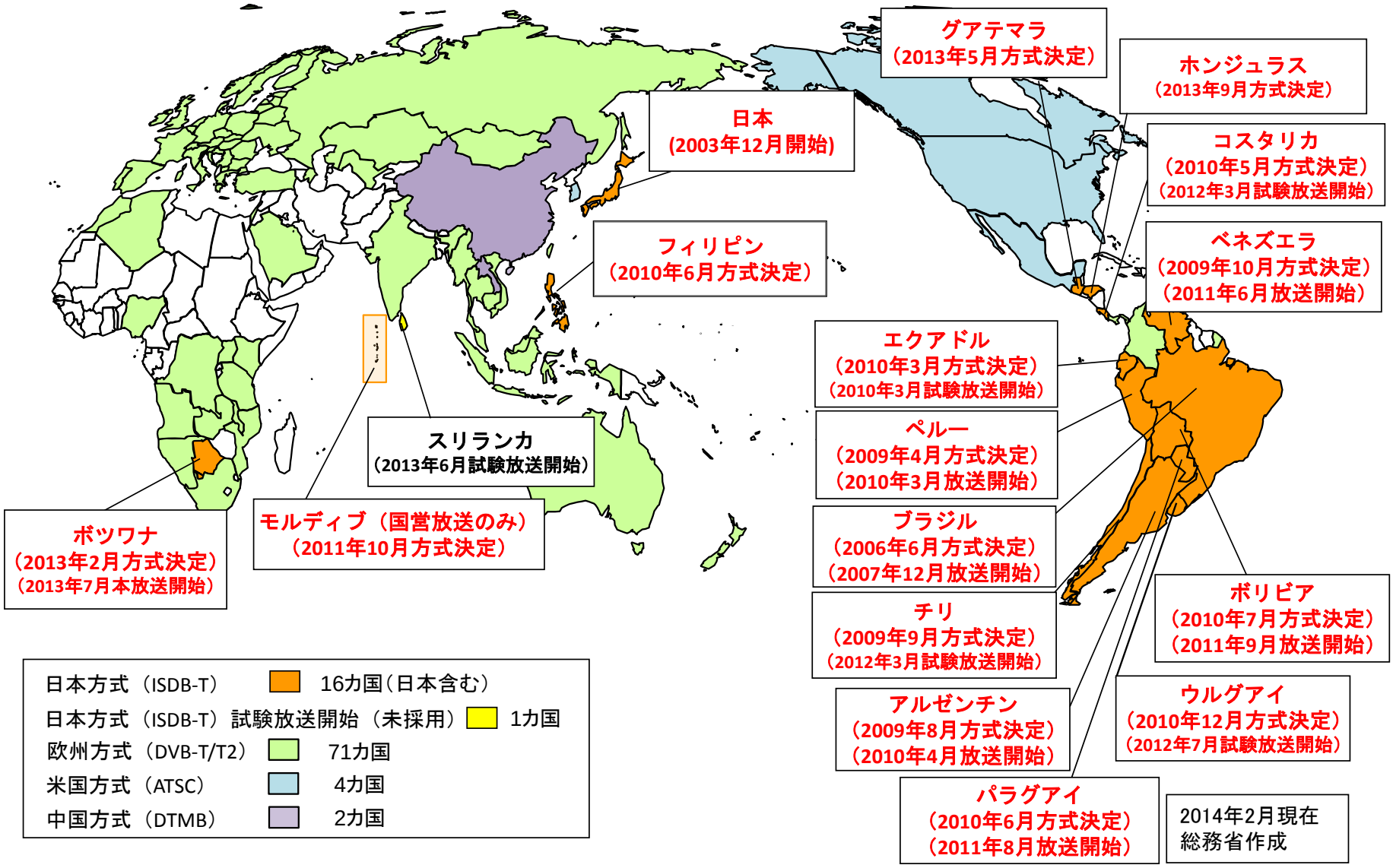
Palestra

Keisuke Takachi

# 第一回日伯ICTラウンドテーブルへ向けて

総務省
情報通信国際戦略局
国際経済課
高地圭輔

# 地デジ日本方式の展開状況



# 地デジからICTへ

成功モデル → 今後の展開

## 地デジ日本方式の国際展開

（2006）
日本方式
採用1カ国
1.2億人

（2013）
日本方式
採用16カ国
6.1億人

【技術の強み】
ワンセグ
緊急警報放送
データ放送

＋

【国のサポート】
技術支援パッケージ
（専門家派遣・研修）

地デジで培った
協力関係を拡大

＜関連市場への進出＞

**送信システム**
（2020年迄に南米で累計1兆円）

**放送コンテンツ**
（番組、遠隔教育、データ放送）

**ソリューション**
（防災、気象、教育、交通等）

## ＩＣＴ分野全体への拡大

**社会的課題の解決×ＩＣＴ**
- 教育×ＩＣＴ⇒　遠隔教育
- 道路×ＩＣＴ⇒ ITS
- 農業×ICT ⇒ トレーサビリティ
- G空間×ICT ⇒防災ICTシステム
- 労働×ICT⇒ テレワーク

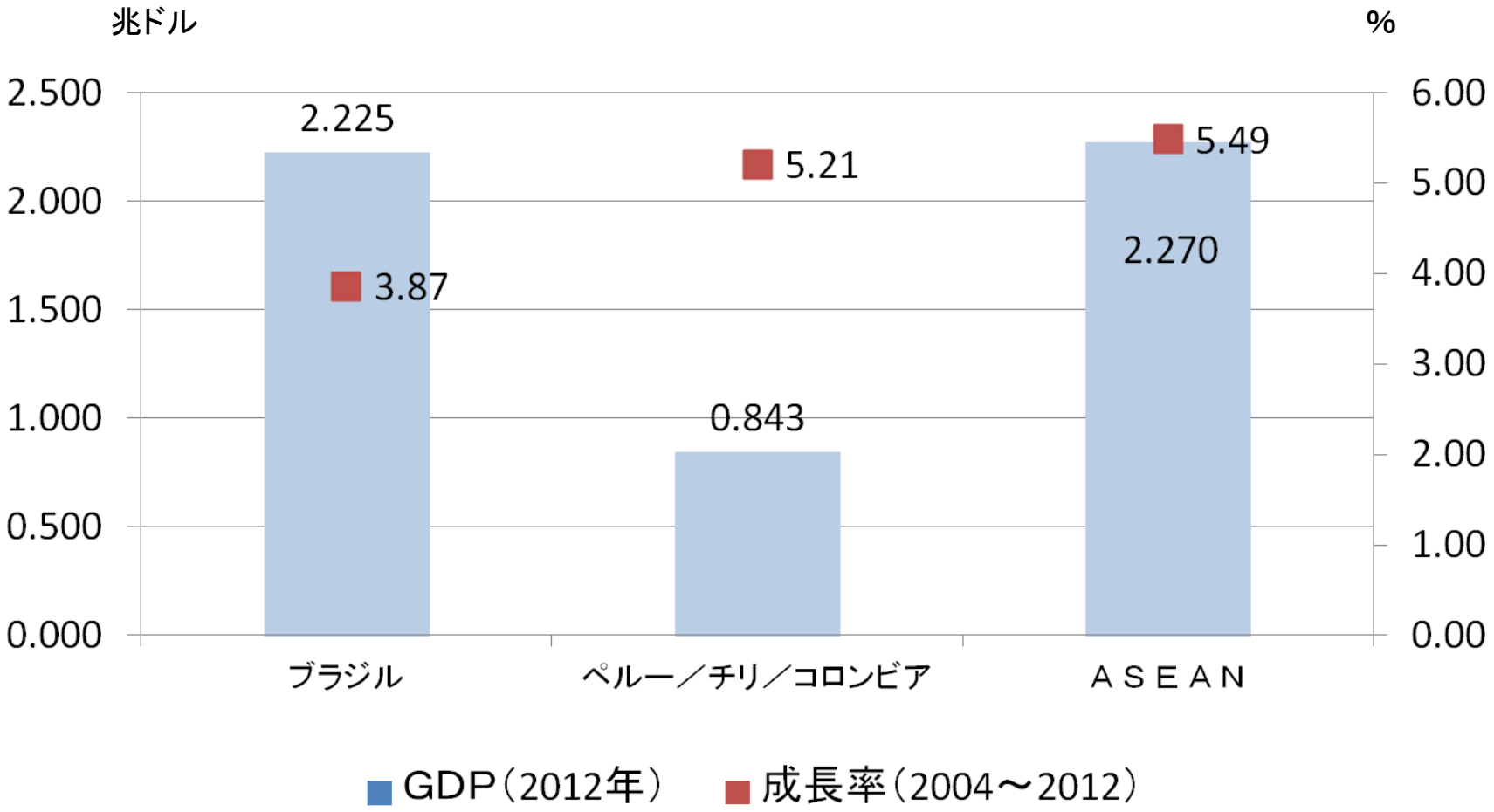
ブラジル、スリランカ、フィリピンと幅広いICT分野での包括的な協力に合意

**国家の安定と発展**
- 格差是正
- 貧困撲滅
- 国土管理

日本を立て直し、世界に貢献

「戦略的なＯＤＡの活用」と「積極的なトップセールス」

# 名目GDPとGDP成長率




出典：世界銀行資料、ブラジル以外の成長率は期間の各国の平均成長率を2012年のGDP比率で加重平均、ASEANはGDP非公表のミャンマーを除く9カ国分

# 南米諸国への今後のICT展開

**日本方式採用国に対する地デジ展開支援を進めつつ、ICTでの協力拡大を模索していく**

## 1. ブラジル→社会課題解決に資する協力強化

・中間層拡大→社会課題を解決するためのICT利活用が進展する可能性
・経済規模大（伯GDP/南米GDP ＝ 22,526億ドル（54.8%）/ 41,091億ドル）出展：2012年W B

## 2. 太平洋岸諸国→軸となるプロジェクトを起点に関係深化

・市場開放傾向（太平洋同盟のメンバー国、ペルー、チリは日本とFTA協定締結済、コロンビアは日本と投資協定締結済）
・成長率高（2012年GDP成長率 ： ペルー：6.3% チリ：5.6% コロンビア：4.0%）
・有望市場 （3カ国GDP/南米GDP ＝ 8,382億ドル（20.4%）/ 41,091億ドル） 出展：2012年WB
・共通する自然環境（太平洋に面しており山がちな地形）

### 主要国における取組例

**ブラジル：ICT分野協力拡大**
・・・ブラジルで成功事例を創出し、南米諸国へ横展開
（第2の地デジ日本方式化）

**ペルー ： 緊急警報放送（EWBS）の実用化**

**チリ：チリ政府による通信衛星調達**

**コロンビア：FTTH網の拡充の動き**

# 新藤総務大臣－ベルナルド通信大臣間の合意（2013年7月）

- 地デジにおける協力関係を広げ、ICT分野での協力関係を強化することに合意
- 震災時の協力に御礼、日伯方式の展開の連携に感謝
- アナログ停波に関し経験を共有することで合意
- 日伯方式を活用した防災ICT、遠隔教育・医療の意義を共有
- ICTを活用した農業・インフラ管理・海洋資源探査や8K等の将来の技術に関する研究開発の協力強化に合意
- 4k/8kのW杯、オリンピックでのデモを提案するとともにベルナルド大臣を日本に招待、同大臣は関心を表明

# 日伯ICT分野協力の具体化へ向けた進め方（案）

## ― 「日伯ICTラウンドテーブル（仮称）」の実施 ―

**2006年12月**
ブラジルにて、地デジ日本方式を採用
（海外で初の地デジ日本方式採用）

地デジ分野で協力
（定期会合 等）

**2013年 7月**
新藤総務大臣－ベルナルド通信大臣間で、地デジ協力強化及びICT分野への協力拡大覚書署名

**2013年10月**
●日伯事務方間で、ICT分野協力拡大の覚書内容の具体化へ向け協議
●伯でビジネス展開する日本企業との意見交換を実施

### 2014年

**2月**
ICTラウンドテーブル（仮称）実施への調整
- ブラジルの関連セクターと調整等

**3月**
【地デジ共同作業部会】
- アナログ終了への協力

**5月**
【ICTラウンドテーブル】
於：サンパウロ
- 日伯ICTフレームワークの提案

8/24-27
テレビエンジニアリング機器・サービス技術国際見本市（SET2014）

**10月**
ブラジル大統領選挙

－日伯ICT共同プロジェクト開始－

### 2015年

**3月**
- 共同プロジェクトフォロー
- 次回ラウンドテーブル実施へ向けた調整

**5月**
【ICTラウンドテーブル】
（第2回）
※年1回ペースで定例化

# 第一回「日伯ICTラウンドテーブル」
# ーDraft Agendaー

1．場　所　：
　ブラジル　サンパウロ市内ホテル

2．日　程　：
　2014年4月25日（金）

3．議　題　：
　①ブラジルにおけるICTの現状
　②ブラジルにおける社会的課題を解決するICTニーズ
　③協力が見込まれる分野
　（超高精細テレビ（4K、8K）、FTTH、情報セキュリティ技術、モバイルペイメント、G空間）
　④日伯ICT共同プロジェクト実施へ向けた今後の展望

4．出席者　：
　官民のExecutiveが参加するクローズドセミナーとして実施（予定）
　日本側　　：総務省、JICA、JETRO　企業（ブラジル側の意向も考慮し決定）
　ブラジル側：通信省、国家通信庁（ANATEL)、地方政府
　　テレブラス、ブラジル工業連盟、放送事業者、通信事業者、大学等研究機関

6．ラウンドテーブルのアウトプット　：
- ✓ 日伯ICTフレームワークの推進
  伯の社会的課題解決に資する事業内容を協議し、双方合意した事業に関して「日伯ICT共同プロジェクト」として事業化
- ✓ 日伯それぞれのファイナンススキームも活用検討
- ✓ 「ICTラウンドテーブル（仮称）」の定例化（年1回ペース）

# 日伯ICTフレームワークのイメージ

**日伯「ICTラウンドテーブル」で協議（年1回）**
**― 伯の社会的問題に対応 ―**

（考慮事項）
・伯関連セクターの意向・状況
・導入コスト／将来のビジネスモデル

例1：光ファイバ網整備の日本のノウハウ提供／光ファイバを活用したソリューション技術展開
（例：インフラ劣化管理技術強化）
→ 強靭なインフラ整備構築、・・・

例2：モバイルペイメント（ブラジル版Suica）を活用した交通網改善の仕組み作り
→ 交通の改善、治安の向上、・・・

例3：デジタル放送のデータ放送機能 （Ginga）を活用した教育分野の活用/ アナログ放送終了実験
→ 教育向上、電波を活用した新たなビジネスチャンス創出・・・

例4：・ ・ ・ ・

**≪伯の社会的課題≫**

インフラ整備　治　安
（道路交通、港湾、光ファイバ等）
医　療　関税障壁
教　育　労働者保護
etc

**≪日本企業活動支援≫**

ブロードバンド技術
地デジシステム／4K・8K
SI事業　セキュリティ技術
第一次産業（農業・鉱業）

**≪伯通信省の関心≫**

地デジ／超高精細TV
データセンター設置
光ファイバ網整備
サイバーセキュリティ
インフラ劣化維持管理技術
etc

**≪伯側関連セクター≫**

（伯通信省と連携・調整）
例：
・ブラジル政府（連邦・地方）/公社
・放送事業者
・通信事業者
etc

**日伯双方の意見一致**

**日伯ICT共同プロジェクトとして事業化**

# 日伯ICT共同プロジェクト支援パッケージ（案）

- 双方が合意したプロジェクトを日伯ICT共同プロジェクトとして以下の支援を通じて推進

- 財政支援
  - 日伯政府によるプロジェクトに対する支援

- 官民連携支援
  - JICAによる支援
    （伯政府と本邦企業によるPPP事業の形成支援）

- 技術移転・人材育成
  - プロジェクトに関係するVIPの招へい・視察
  - プロジェクトに知見を有する専門家の紹介・派遣
  - 人材育成プログラムの提供

４月に再びお会いしましょう！

# 金融 部会

## 酒井　浩一郎　部会長

## Departamento Financeiro

## Presidente: Koichiro  Sakai

# 2013年の回顧と2014年の展望

ー金融部会ー

2014年2月20日（木）

# 2013年の回顧

金融部会

**経済停滞・インフレ、レアル安進行・政治面でも不安定要因発生**
**ブラジルにとり厳しい1年**

【GDP】
工業生産・・政府補助（BNDES、減税）に支えられたトラック、農機、自動車がけん引。資本財が、消費財の低迷をカバーし全体では微増
個人消費・・インフレ進行による実質所得減少に伴い減速

【インフレ】食品価格発インフレサイクルは収束も、レアル安に伴う輸入インフレ発生

【金利】　13年4月以降、インフレ防止のため段階的に引上げ、13年末SELIC10％

【財政】　景気対策に伴う政府支出拡大によりプライマリー黒字幅縮小

【為替】　中銀による介入、外為規制緩和にもかかわらず、レアル安進行
低調な貿易収支　→　経常収支赤字拡大
米国金融緩和縮小決定→資金の流れ変化、新興国・コモディティから先進国へ

【失業率】　公的セクターが下支えし、引き続き歴史的な低水準

# 主要マクロ経済指標推移

金融部会

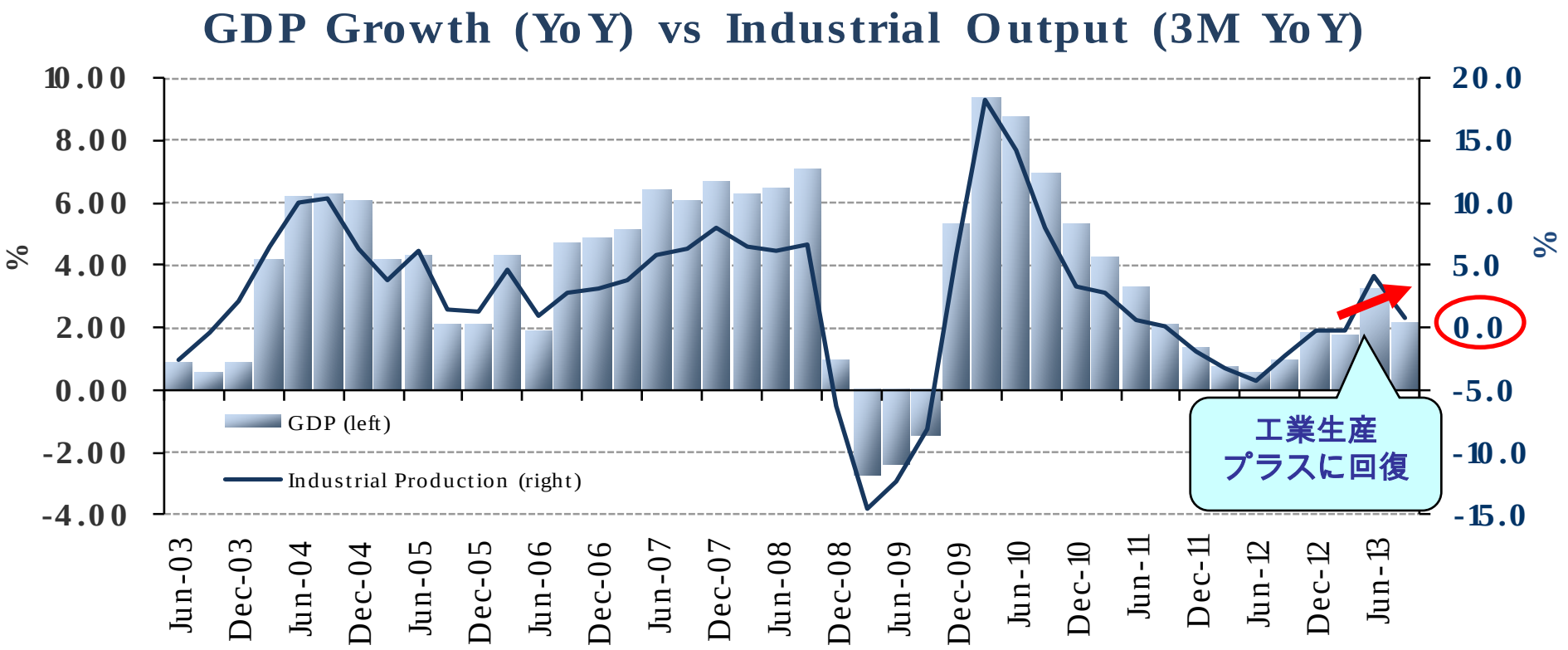
| 項目 | 単位 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 注記 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| GDP成長率 | % | 7.5 | 2.7 | 0.9 | 2.3 | 2013年は予測値 |
| 名目GDP | BRL/Bi | 3 770 | 4 143 | 4 392 | 4 758 | 2013年は予測値 |
| | USD/Bi | 2 144 | 2 475 | 2 247 | 2 205 | 2013年は予測値 |
| 一人当たりのGDP | USD | 11 094 | 12 532 | 11 278 | 10 969 | 2013年は予測値 |
| 貿易収支 | USD/Bi | 20.1 | 29.8 | 19.4 | 2.6 | |
| 経常収支 | USD/Bi | ▲47.3 | ▲52.5 | ▲ 54.2 | ▲79.6 | |
| 外貨準備高 | USD/Bi | 288.6 | 352.0 | 378.6 | 375.8 | |
| 株価指数（BOVESPA) | Point | 69 304 | 56 754 | 60 952 | 51 507 | 2/11時点　48,463 |
| BRAZIL CDS USD | Point | 111 | 161 | 108 | 193 | 2/11時点　188 |
| 政策目標金利Selic | % | 10.75 | 11.00 | 7.25 | 10.00 | 2014年2月　10.50 |
| 拡大消費者物価指数IPCA | % | 5.91 | 6.50 | 5.84 | 5.91 | |
| 失業率（年平均） | % | 6.7 | 6.0 | 5.5 | 5.6 | |
| 最低賃金 | BRL | 510 | 545 | 622 | 678 | |

出所：ブラジル中央銀行、Bloomberg、IBGE

# GDP成長率・工業生産

金融部会

YoY: 前年同期比




**Source:** IBGE, Mizuho

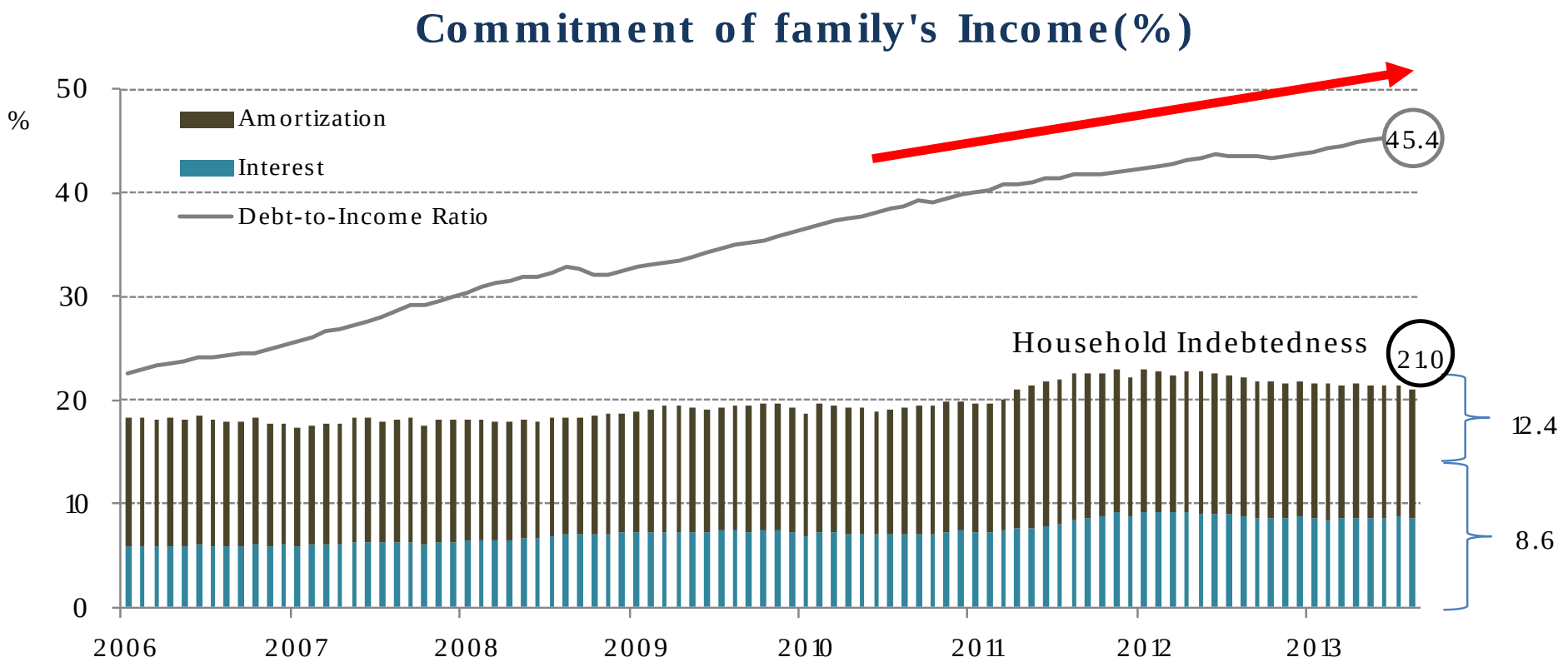
# 小売売上高

金融部会

**Source:** IBGE, Mizuho

# 家計に占める借入比率

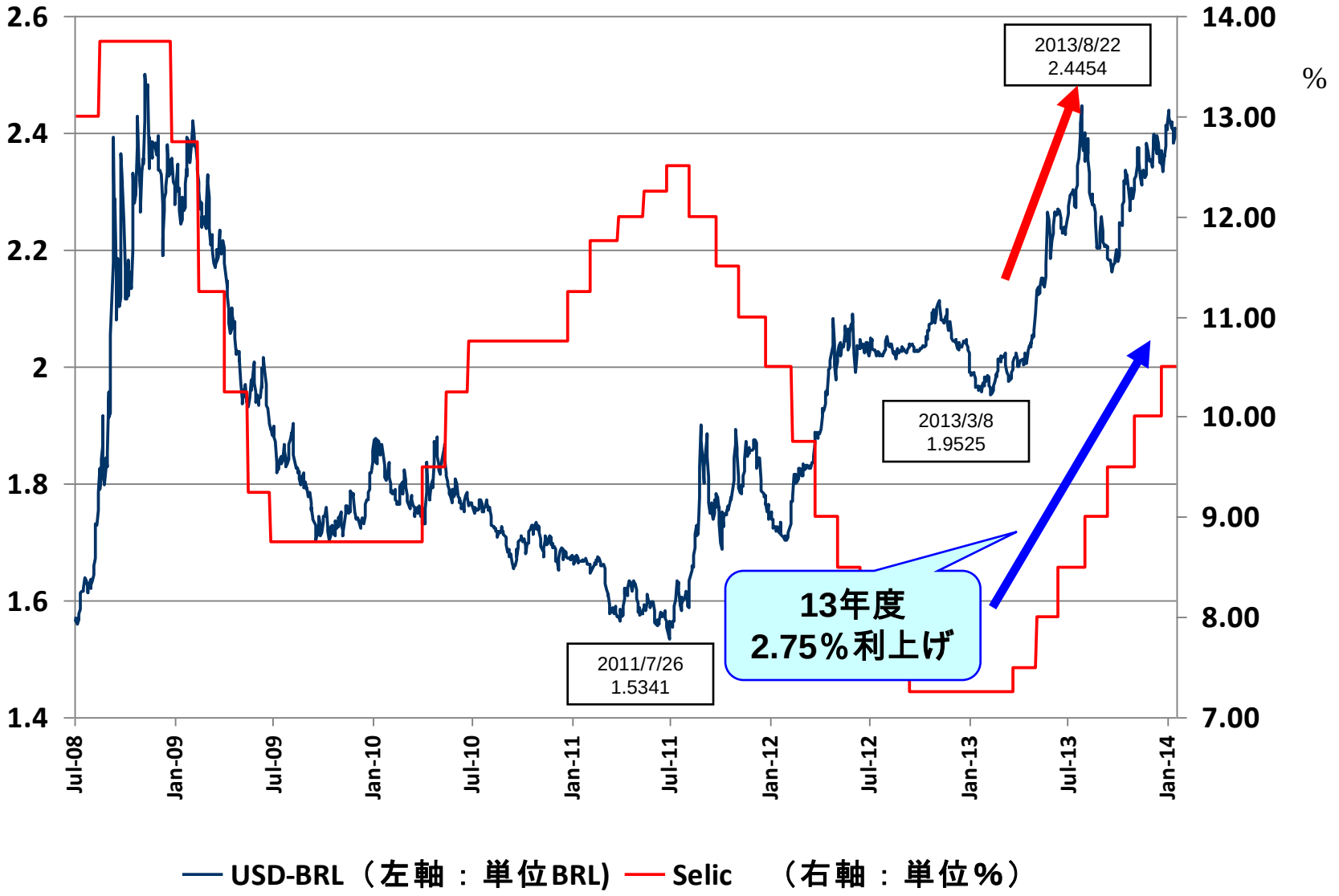
金融部会




**Source:** BCB, Mizuho

# 金利・為替レート推移

金融部会

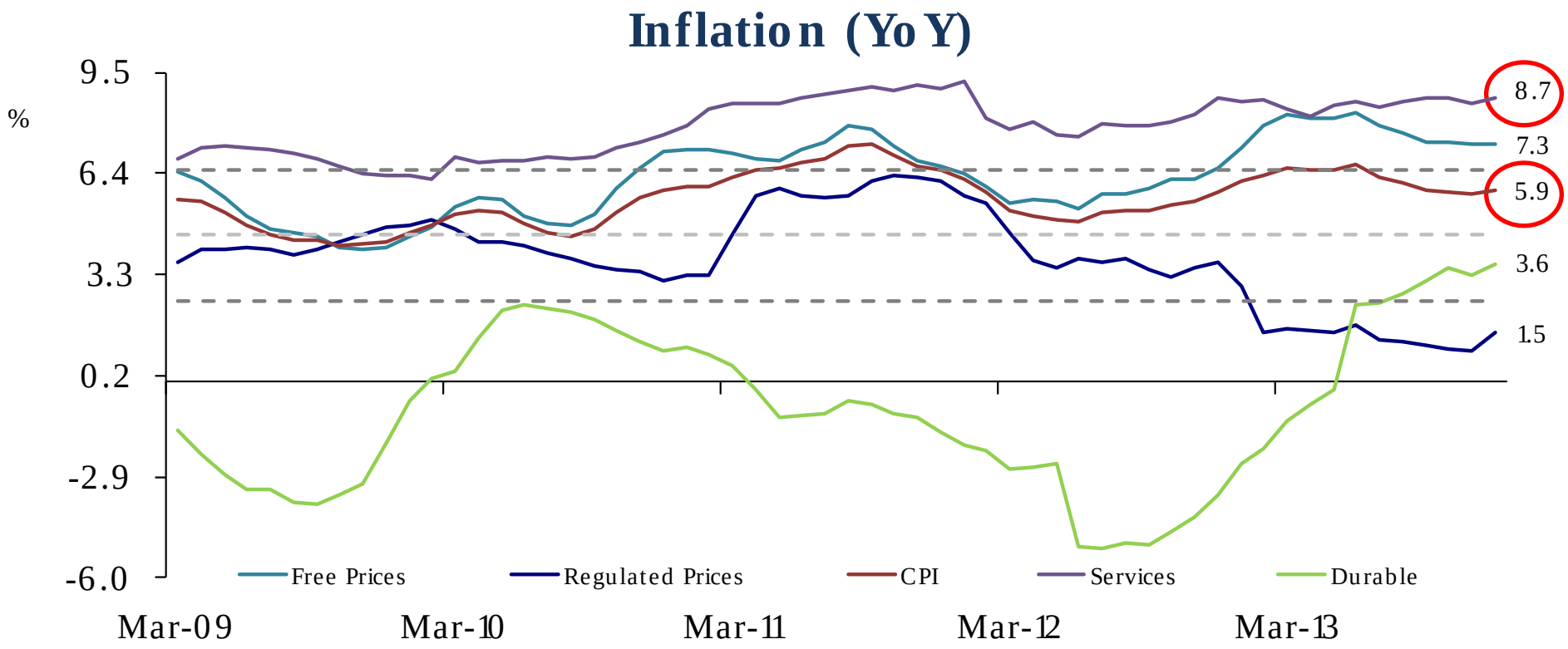



出所:ブラジル中央銀行

# インフレ（セクター別）

金融部会

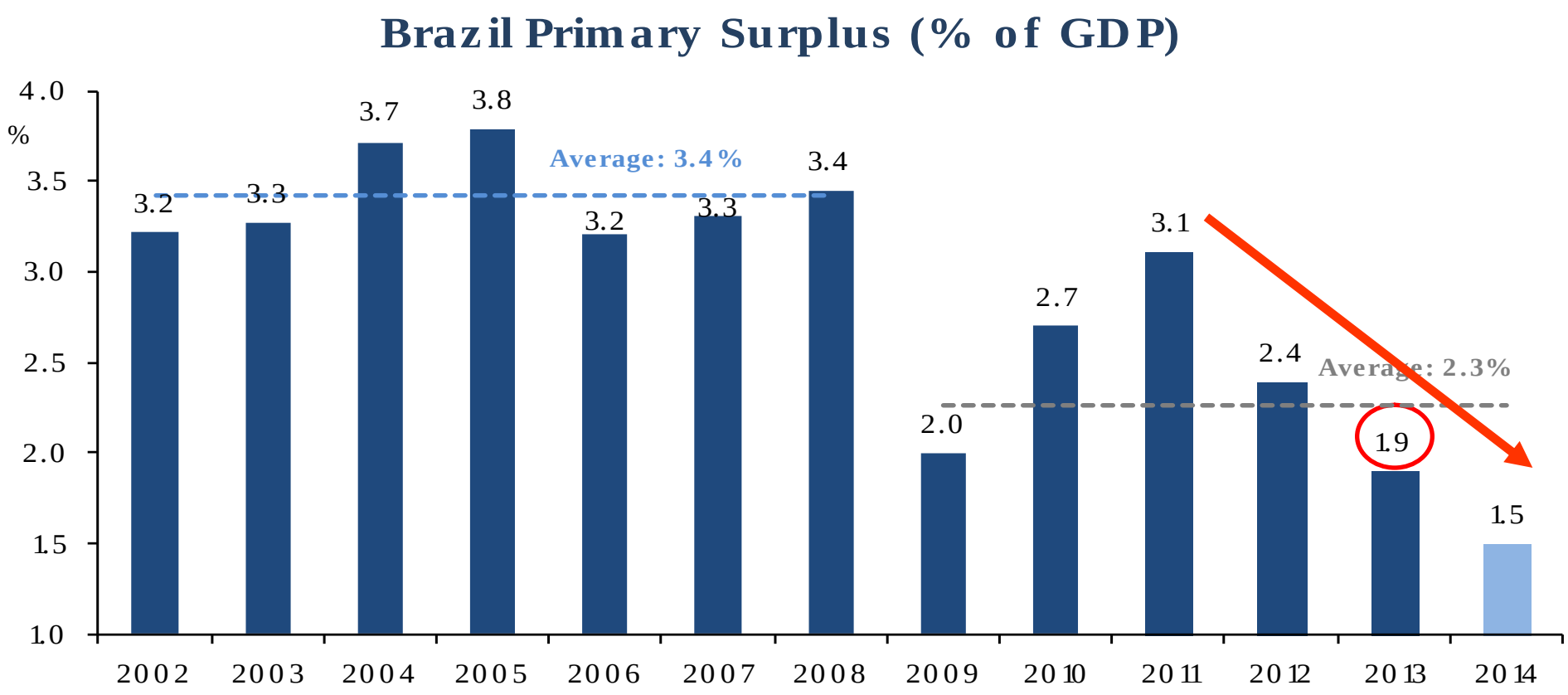
YoY: 前年同期比




**Source:** IBGE, Mizuho.

# プライマリー収支(対GDP)

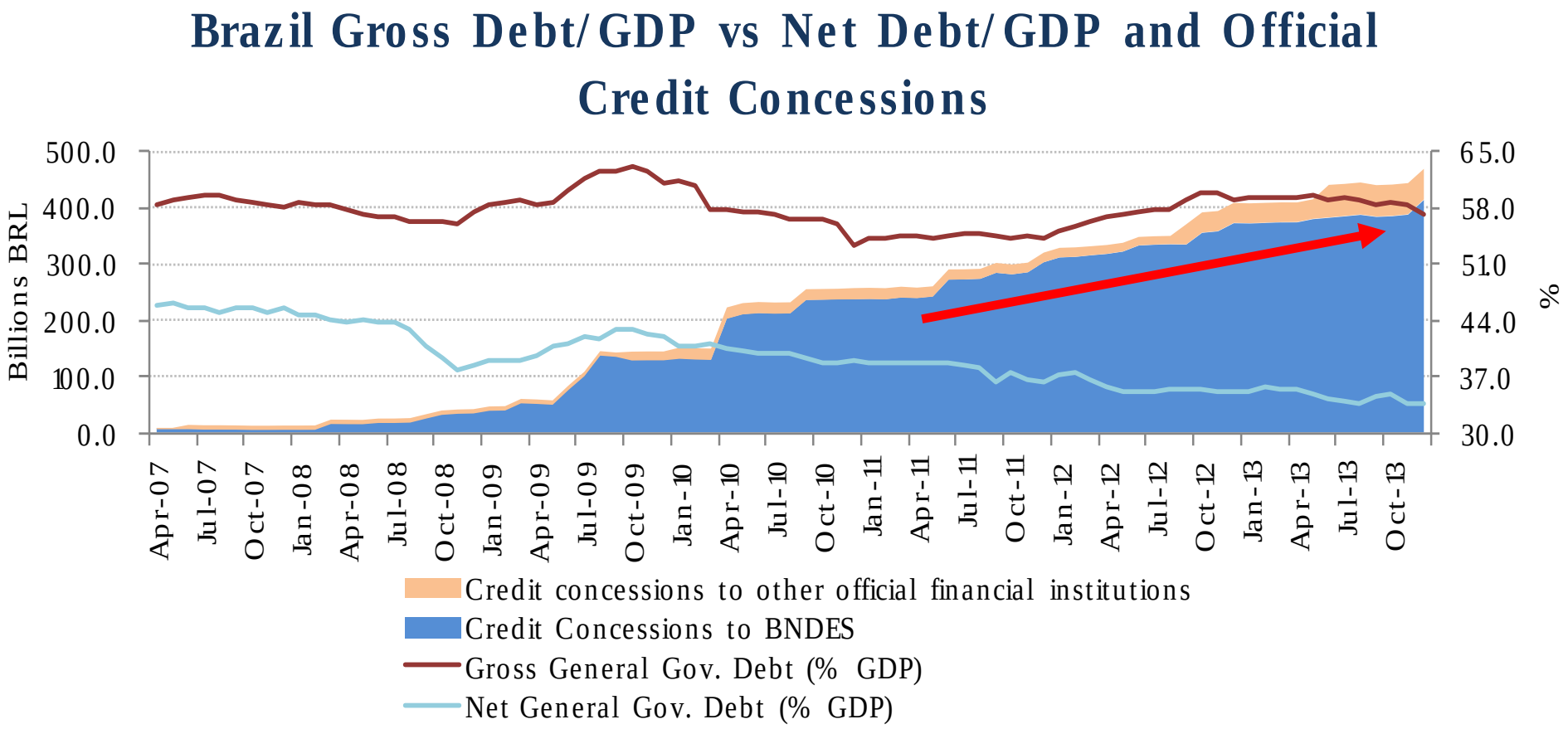
金融部会




**Source:** Bloomberg, Mizuho

# 政府債務･公的金融機関向け拠出

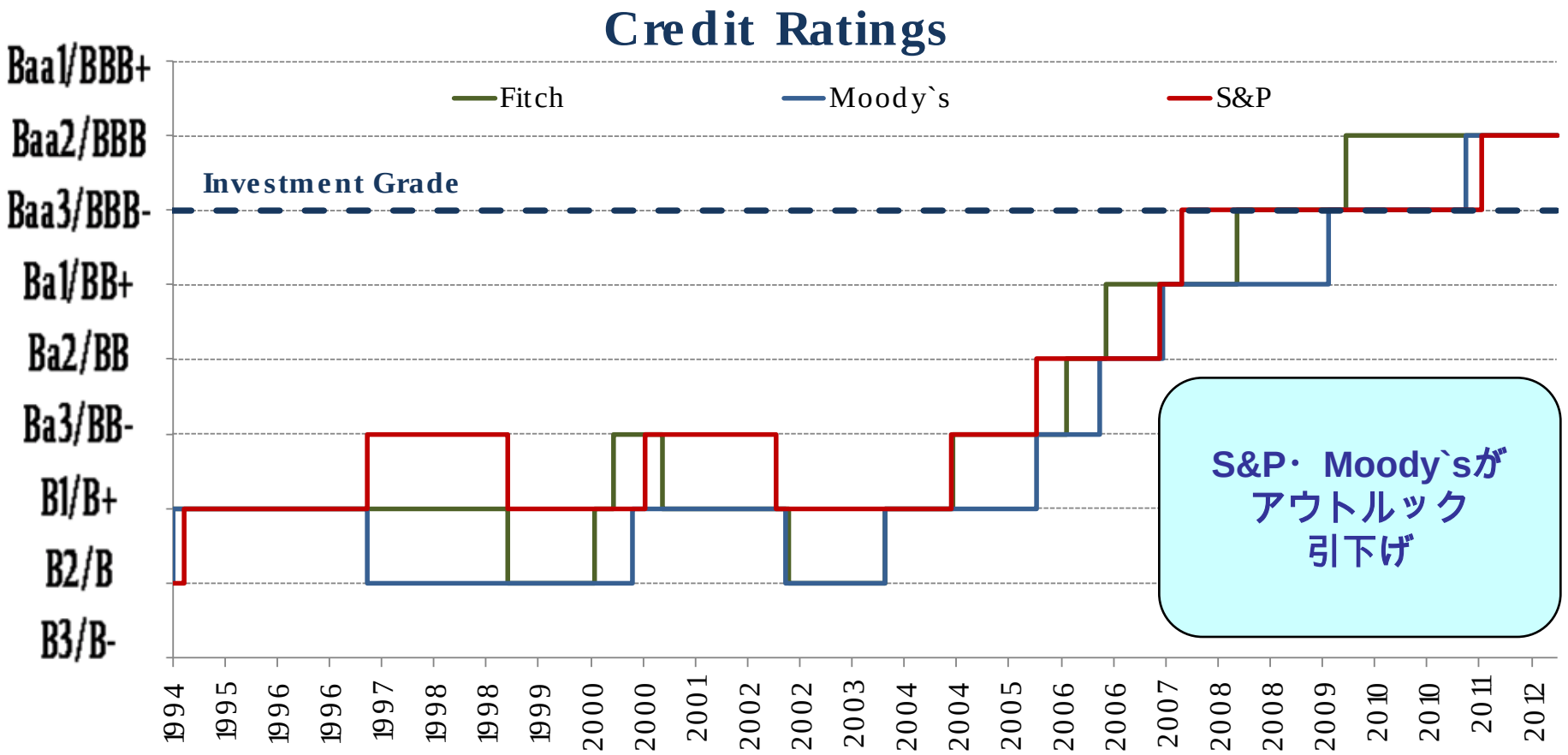
金融部会




**Source:** BCB, Mizuho.

# ソブリン格付

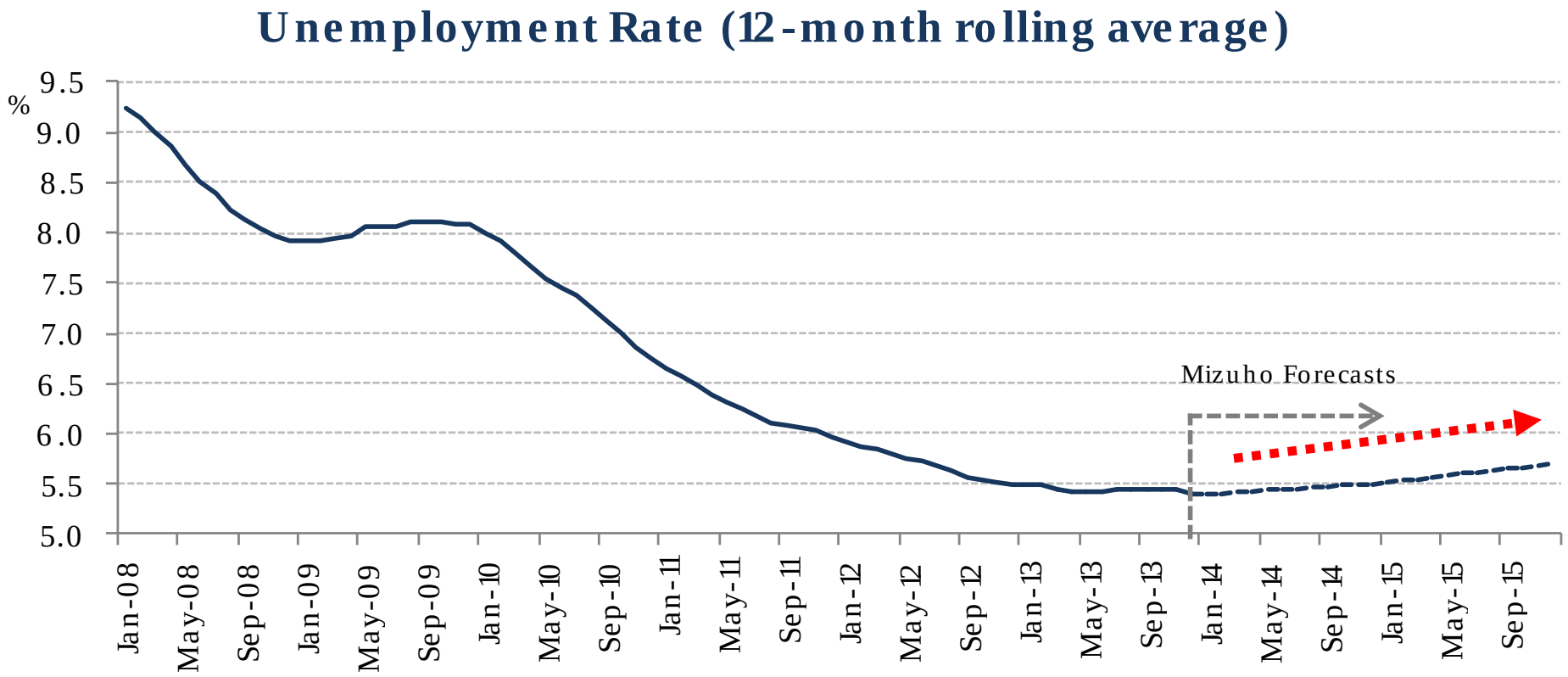
金融部会




**Source:** Bloomberg, Mizuho

# 失業率

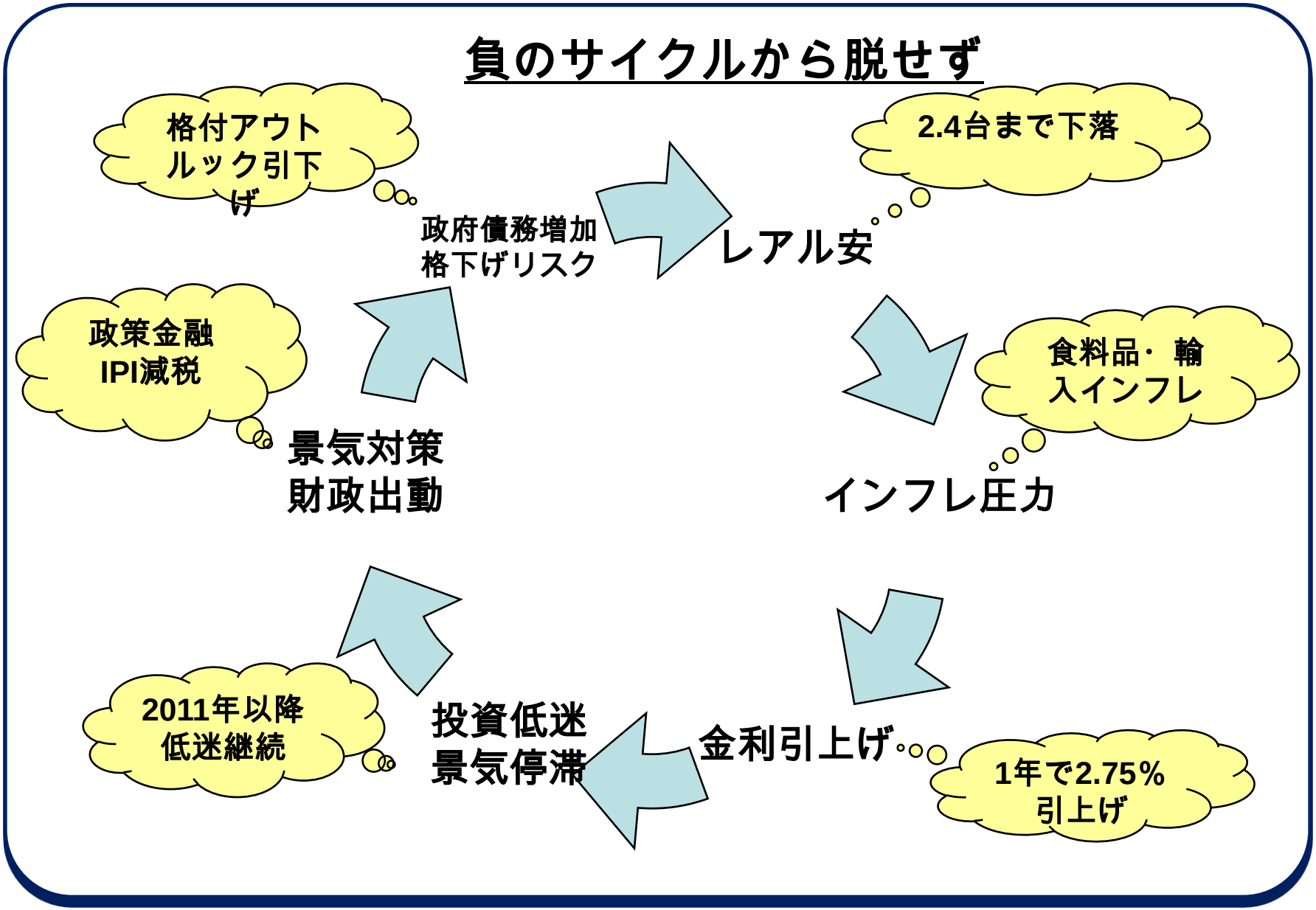
金融部会




**Source:** IBGE, Mizuho

# 2013年の回顧②

金融部会



# 2014年の展望

金融部会

**景気低迷は継続**
**大統領選挙までは大きな動き期待できず→選挙後の変化に期待**

【GDP】　成長阻害要因により景気停滞継続、1%半ばから2%前半の成長率を予想
・景気刺激策の終了、利上げ継続、投資不足

【インフレ】レアル安に伴うインフレ圧力により、レンジ上限に近い6%近辺で推移か

【金利】　インフレ抑制のため、更なる金利引上げの可能性

【財政】　大統領選挙に伴う財政支出増加によりプライマリー収支は悪化見込み

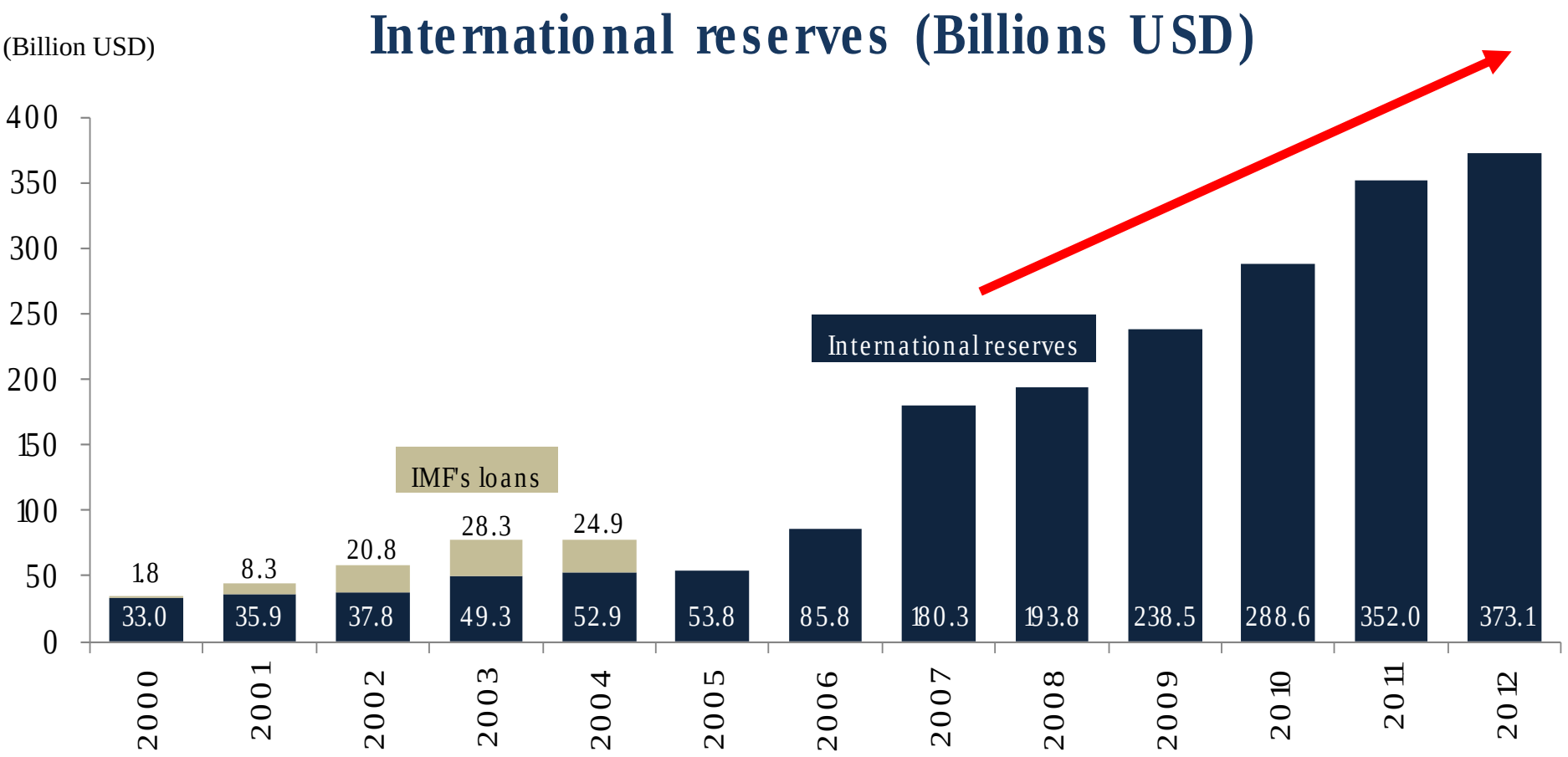
【為替】　格下げリスク・QE3終了・新興国通貨不安により弱含み

【失業率】　供給増は限定的で、引き続き低水準を維持

＜プラス要因＞
世界経済（先進国）の回復　→　輸出増加・貿易収支改善
＜マイナス要因＞
資金流出圧力　①アルゼンチンに端を発する新興国通貨不安
②米国量的金融緩和縮小
③格下げリスク

# 外貨準備高

金融部会




**Source:** BCB, Mizuho

# 主要指標各行予想(五十音順)

金融部会

| | 指標 | 2014年 | 2015年 | コメント |
|---|---|---|---|---|
| イタウ | GDP成長率 | 1.4 | 2.0 | ブラジル経済はここ数ヵ月で勢いを一層失っている。設備投資と在庫調整の状況が、足下の景気動向が従来想定よりも弱まっていることを示している。また、少雨と電力価格の上昇が新たなリスク要因として浮上しており、今後の天候次第で成長率が大きく変動しよう。1月に発生したアルゼンチンペソの動揺を受け、今年のブラジルの貿易黒字の予想を従来の70億ドルから60億ドルへと引き下げると同時に、経常赤字の対GDP比予想を従来の3.5%から3.6%へと引き上げる。 |
| | インフレ率 | 6.2 | 6.0 | |
| | 為替レート | 2.55 | 2.55 | |
| | 政策目標金利 | 11.0 | 12.0 | |
| ブラデスコ | GDP成長率 | 2.1 | 3.0 | 2013年の好調な農業生産のようなプラス要素なく、また自動車減税等の景気刺激策の終了から成長は減速。加えて利上げの影響で消費・投資も減速。インフレは利上げにより抑制。同時にレアル安進行による物価上昇も抑制。金利はこれまでの利上げにより一定のインフレ抑制効果が得られたことから現状の水準にて推移。為替は過去7ヶ月の大幅な変動の後、現状より若干のレアル安水準にて安定推移 |
| | インフレ率 | 5.87 | 5.60 | |
| | 為替レート | 2.40 | 2.45 | |
| | 政策目標金利 | 10.75 | 10.75 | |
| みずほ | GDP成長率 | 1.8 | 1.5 | 2014年は、①利上げによる投資・消費への悪影響 ②昨年工業生産を牽引した資本財のスローダウン(景気刺激策の縮小・農業生産伸率低下)等のマイナス要因により、低成長が続くと予想。新大統領が就任する2015年は、緊縮財政に入る可能性が高く、景気低迷が続く見込み。 |
| | インフレ率 | 5.8 | 5.7 | |
| | 為替レート | 2.55 | 2.60 | |
| | 政策目標金利 | 11.0 | 12.0 | |
| 三井住友 | GDP成長率 | 2.2 | 1.5 | 2014年も構造的インフレを抑えるため金利引き上げを続けざるを得ず成長鈍化が続くでしょう。それでもほぼ完全雇用状態が続くため内需が極端に落ち込むことはなく、レアル安によって貿易収支が改善されれば2013年を若干上回る成長も可能と思われますが、選挙によって誕生する新政権が投資主導型の成長モデルを確立できるとは思えないため、2015年は更に厳しい環境になると予想します。 |
| | インフレ率 | 6.2 | 5.5 | |
| | 為替レート | 2.60 | 2.80 | |
| | 政策目標金利 | 11.5 | 10.0 | |
| 三菱東京UFJ | GDP成長率 | 2.5 | 3.0 | 経済成長は、家計消費の成長がやや減速する一方で、インフラ投資及び海外景気回復にサポートされよう。購買力増加、低失業率、レアル安に加え、電力価格の値上げもあり、インフレはターゲット上限の6.5%近辺での推移が続く。米国の資産購入ペース減速、ブラジル格下げリスク等で為替はレアル安傾向。インフレ懸念の燻る中、中銀は11.5%まで利上げを継続。 |
| | インフレ率 | 6.0 | 5.5 | |
| | 為替レート | 2.50 | 2.55 | |
| | 政策目標金利 | 11.5 | 11.5 | |

✓GDP成長率＝年率 前年比（%）
✓インフレ率 ＝年率IPCA （%）
✓為替レート ＝年末レアル為替レート（レアル/ドル）
✓政策目標金利＝年末SELIC META金利 （%）

出所:各行

# W杯・大統領選影響各行コメント

金融部会

| | W杯・大統領選の影響 |
|---|---|
| イタウ | W杯によって旅行、運輸、ホテル、外食、メディアは無論、食品・飲料、繊維・アパレルといった業界が恩恵を受けよう。また、選挙戦もメディアのほか、飲料の売り上げ増に寄与しよう。大統領選について一部の候補者がまだ決まらないなど不確定要素はあるが、現時点ではルセフが第1回投票で勝利し、スムースな選挙戦となるものと見込む。 |
| ブラデスコ | W杯は、ホテルや飲食産業へのプラス効果に加えて雇用創出効果が期待できるものの、一方で稼働日数の減少から、工業生産、自動車販売、小売業へのマイナス効果も見込まれ、総じてGDPへの影響は軽微。大統領選については、従来同様、政府支出の拡大が見込まれる。 |
| みずほ | Wカップは、旅行・ホテル業界等の一部セクターに対し恩恵があるものの、波及は限定的でブラジル経済全体に与える影響は軽微。大統領選は14年は財政支出増加が予想され、経済に対してはプラス。新大統領就任後の15年度は財政立直しのため財政緊縮の可能性が高い。 |
| 三井住友 | W杯の影響はブラジルの経済規模を考慮し且つ単年度に均せば殆ど誤差の範囲と見ています。ブラジル優勝なら消費が促進される可能性はありますが一時的需要喚起のみでは持続的成長に寄与しません。経済への影響は大統領選の方がはるかに大きな影響力があり、市場フレンドリーな投資誘導型へ改革を断行できれば供給面強化によって持続的成長の基盤が作られますが、どの政権でも労働者過剰保護等非効率性は取り除けず現在のような低成長が続く可能性が高いでしょう。 |
| 三菱東京UFJ | W杯は、観光や小売、サービス関連セクターにはポジティブではあるが、輸送設備増強プロジェクトには延期、もしくはキャンセルされているものもあり、概して景気への影響は小幅に留まる。<br>大統領選挙は、変革を求める候補者に欠け、政治的ノイズは生じない見込み。但し、過去に見られるように、多少の政府支出増加は避けられず、財政緊縮は来年以降になる。 |

# 貸出残高推移

金融部会

## 貸金残高推移

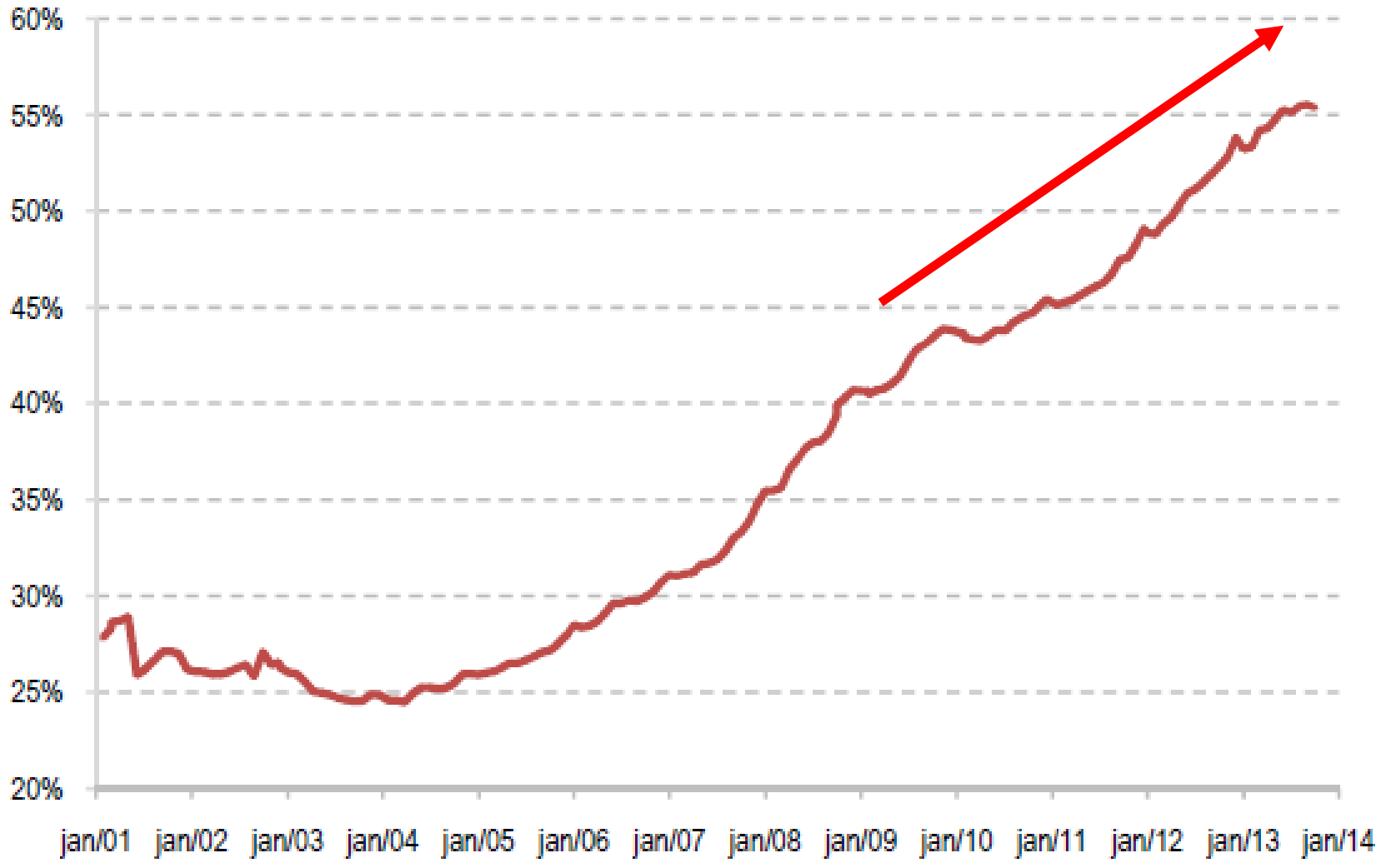
(BRL Bi)

| | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個人 | **314** | **390** | **462** | **549** | **642** | **709** | **768** |
| （同増加率） | 33% | 24% | 19% | 19% | 17% | 10% | 8% |
| 住宅 | **46** | **63** | **92** | **139** | **221** | **298** | **395** |
| （同増加率） | 28% | 38% | 45% | 51% | 59% | 35% | 33% |
| 農業 | **89** | **106** | **112** | **124** | **141** | **167** | **218** |
| （同増加率） | 15% | 19% | 6% | 10% | 14% | 18% | 13% |
| 法人 | **487** | **668** | **748** | **894** | **1 030** | **1 194** | **1 334** |
| （同増加率） | 27% | 37% | 12% | 20% | 15% | 16% | 12% |
| 内BNDES | 160 | 209 | 283 | 358 | 418 | 476 | 552 |
| （同増加率） | 15% | 31% | 35% | 26% | 17% | 14% | 16% |
| 合計 | **936** | **1 227** | **1 414** | **1 706** | **2 034** | **2 368** | **2 715** |
| （同増加率） | 28% | 31% | 15% | 21% | 19% | 16% | 15% |

出所：ブラジル中央銀行

# 貸出残高/対GDP比率

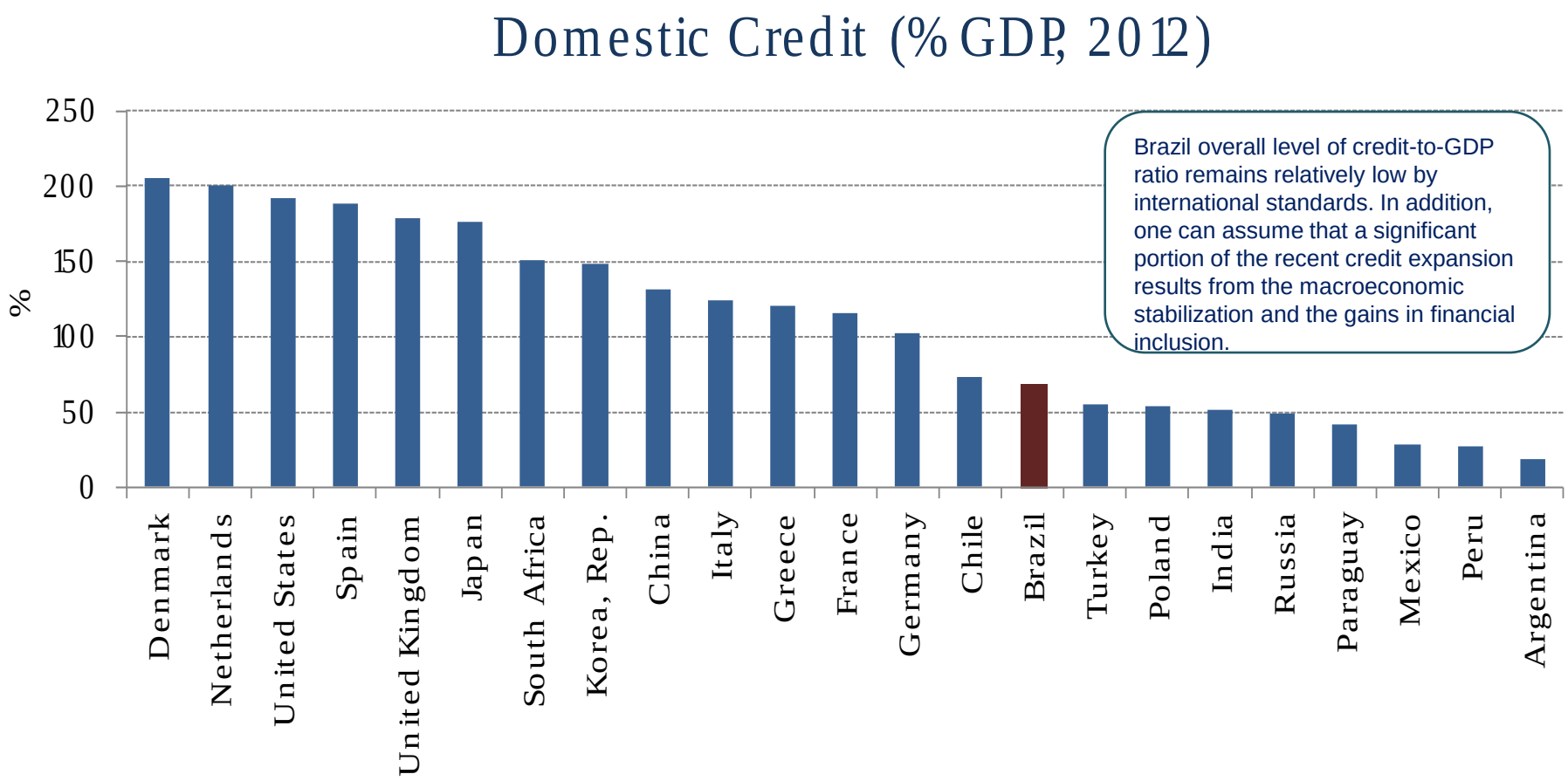
金融部会




Source: Banco Central do Brasil

# 国別貸出残高/GDP比率

金融部会

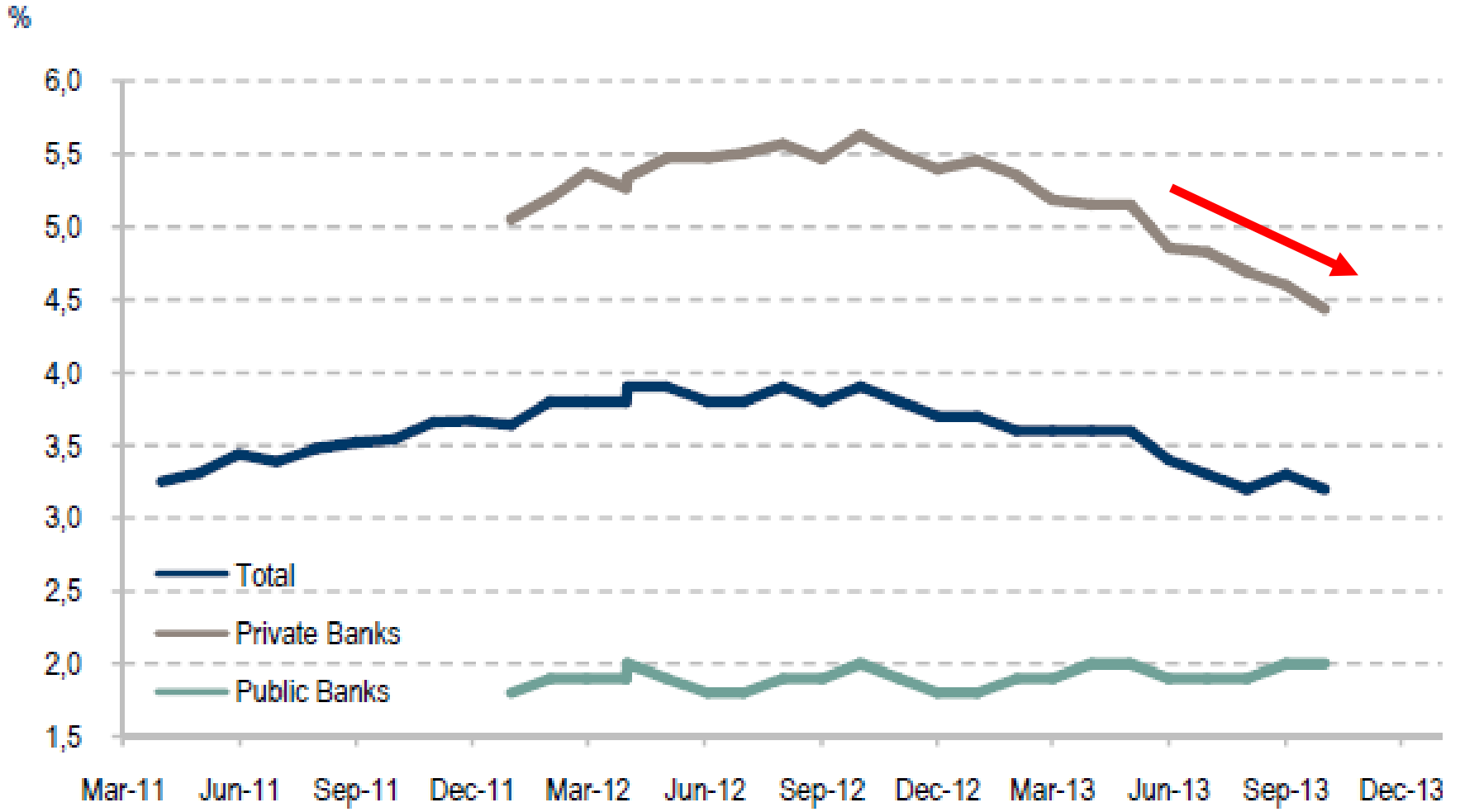



**Source:** World Bank, Mizuho

# 延滞率推移

金融部会

## 90-day delinquency ratios

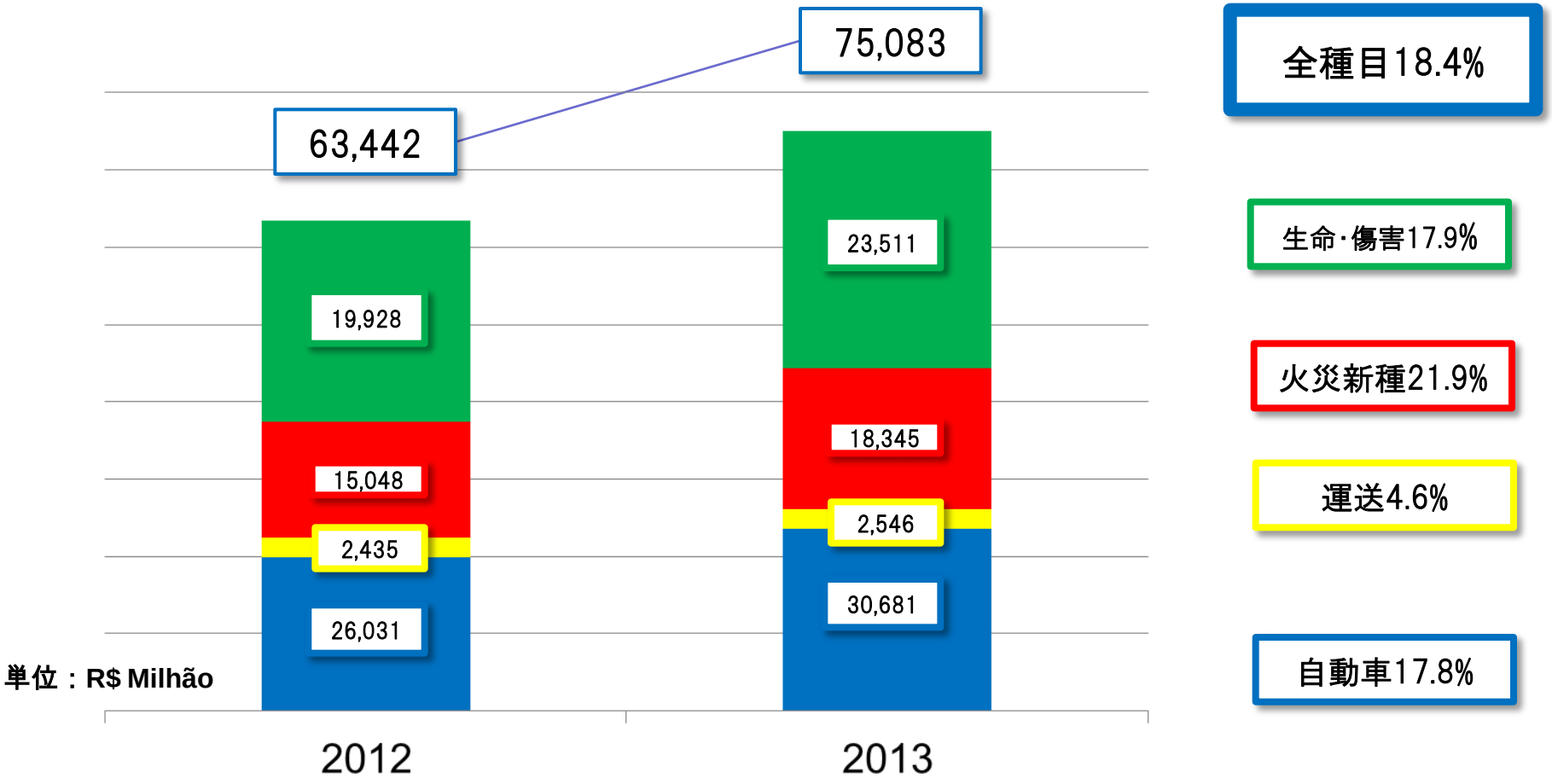



Source: Banco Central do Brasil

# ブラジル保険市場動向①

金融部会

## 2013年1-11月の保険料収入と増率




保険加入者の増加などにより、保険業界全体は2013年度も成長

Fonte: SUSEP 除く医療・年金　含DPVAT

# ブラジル保険市場動向②

金融部会

## 2013年の保険種目別損害率

| 保険種目 | 2012年1−11月 | 2013年1-11月 | 前年比 |
|---|---|---|---|
| 自動車 | 69.0% | 65.0% | ↓−4.0% |
| 火災新種 | 32.8% | 31.7% | ↓−1.1% |
| 運送 | 56.9% | 59.3% | ↑ 2.4% |
| 生命･傷害 | 32.8% | 31.7% | ↓−1.1% |
| 合計 | 49.5% | 47.5% | ↓−2.0% |

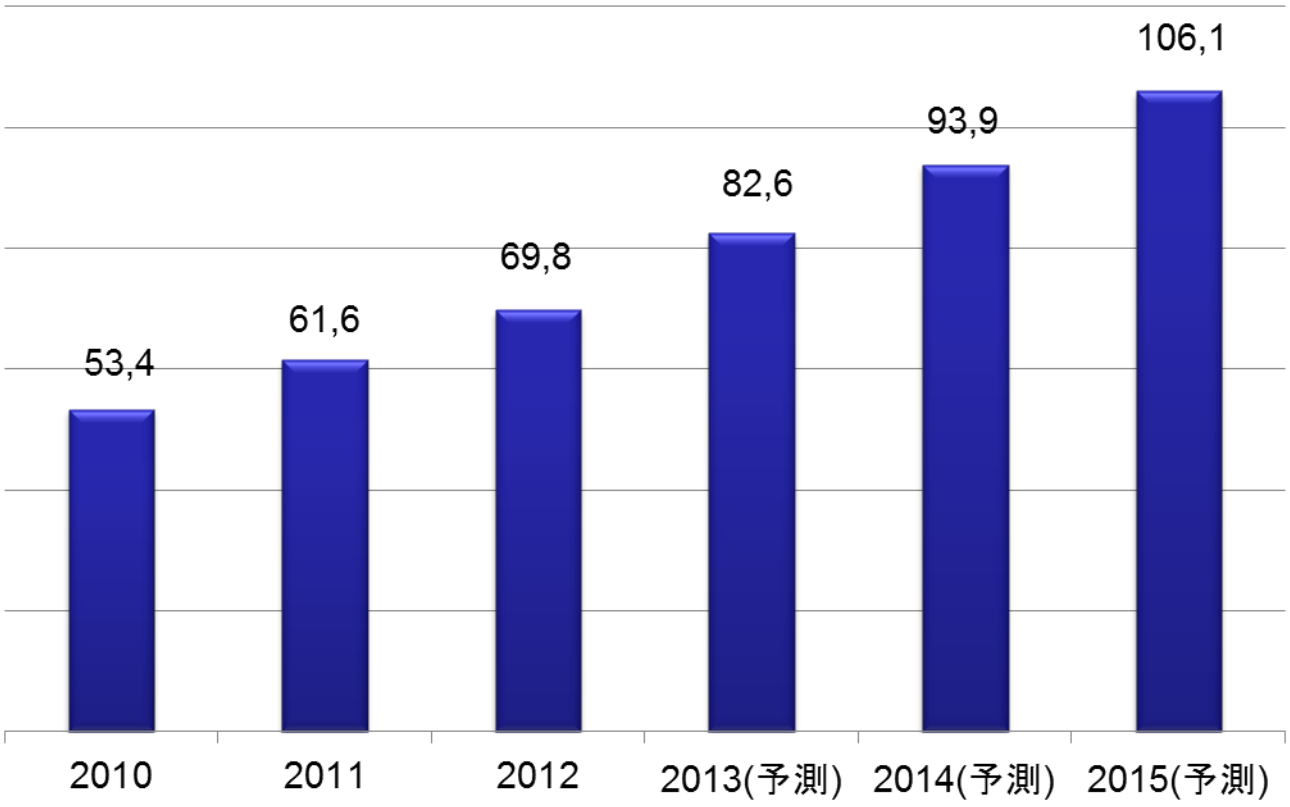
運送保険契約は損害率が悪化しているものの、全体的には成績は横ばい

Fonte: SUSEP

# ブラジル保険市場動向③

金融部会

## 今後の保険業界の成長予測




単位：R$ Bilhão

保険ニーズ(契約数)の増加などに伴い、今後も成長をしていく見込み

Fonte: Siscorp 除く医療・年金　含DPVAT

# コンサルタント 部会

## 関根　実 部会長

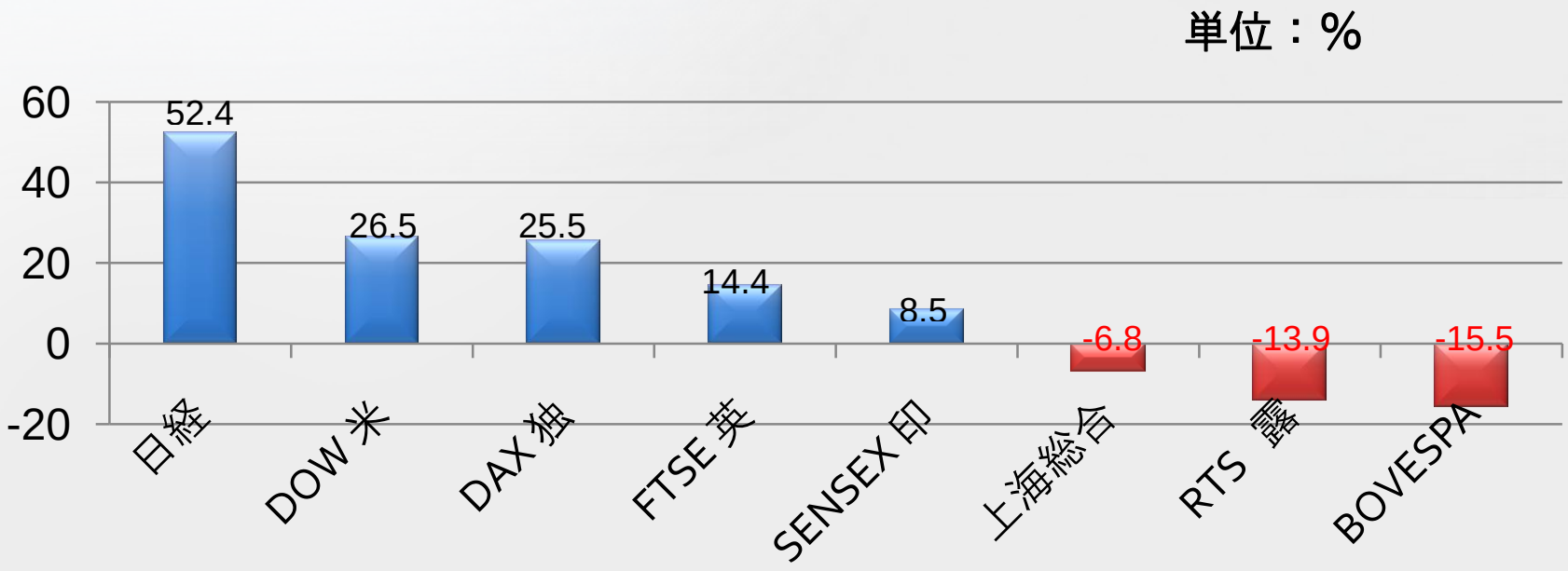
## Departamento de Consultoria e Assessoria

## Presidente: Minoru  Sekine

# BRICSの終焉
# ブラジルらしい成長へ

2014.02.20　コンサルタント部会

# 2013年の株価指数変動率比較



# BRICS（Emerging） → Frigile 5, BIITS

## Positive

1. Brasil
2. Russia
3. India
4. China
5. South Africa

## Negative

1. Turkey
2. Brasil
3. India
4. Indonesia
5. South Africa

\+ Argentina

# 2013年外資流失超　–US$12.3 Bio?
# 2002年　–US$13.0 Bio以来の多額流失

（単位：US$ Bio）

| | 2012年 | 2013年 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 貿易収支 | 19.4 | 2.6 | -16.8 |
| 貿易外収支 | -73.6 | -84.0 | -10.4 |
| 経常収支 | -54.2 | -81.4 | -27.2 |
| 資本収支 | 70.0 | 73.8 | +3.8 |
| 内、直接投資 | 68.1 | 67.5 | -0.6 |
| 内、証券投資 | 8.8 | ***25.8*** | 17.0 |
| 内、その他投資 | -6.9 | -19.5 | -12.6 |
| 国際収支 | 18.9 | *-5.9* | -24.0 |

# 外貨準備　Liquidez & Caixa

（単位：US＄Bio)

| | 2012年 | 2013年 | 増減 |
|---|---|---|---|
| **外貨準備** Liquidez | 378.6 | 375.8 | -2.8 |
| 中銀 Linha de Crédito | -5.5 | -17.0 | -11.5 |
| **外貨準備** Caixa | 373.1 | 358.8 | ***-14.3*** |
| 中銀 Swap 残高　R$ | -R$4.2 | *-R$175.4* | -R$171.2 |
| 中銀 Swap 残高 US$ | -2.1 | *-74.9* | -73.1 |

2001年末　Goldman Sachs “BRICs”提唱

2008年9月　Lehman Shock
米国FRBのQE（量的緩和）開始
→新興国へ資金流入

2013年5月　①米国FRBのQE縮小示唆
②中国経済の減速
→新興国から先進国へ資金逆流
BRICS概念の終焉

Lula政権時（2003年初～2010年末）に
ブラジルはBRICSブームに上手く乗れた。

# 新興国証券市場の急成長

| | | |
|---|---|---|
| 1993年 | 新興国債券残高 | US$422 Bio |
| **現在** | **新興国債券残高** | **US$10,000 Bio** |
| | 債券Index Fund | US$603 Bio |
| | 株価Index Fund | US$1,300 Bio<br>（JP Morgan推計） |

**過去10年間に新興国に流入した金額 US$412 Bio**
**流失は2008年と2013年のみ**　（Lipper調査）

# World Bankの国別経済成長率予測

| | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|---|---|---|---|
| **全世界** | 2.4% | 3.2% | 3.4% |
| **米国** | 1.8% | 2.8% | 2.9% |
| **日本** | 1.7% | 1.4% | 1.2% |
| **EU** | -0.4% | 1.1% | 1.4% |
| Emerging | 4.8% | 5.3% | 5.5% |
| Brasil | 2.2% | 2.4% | 2.7% |
| Russia | 1.3% | 2.2% | 2.7% |
| India | 4.8% | 6.2% | 6.6% |
| **中国** | 7.7% | 7.5% | 7.5% |

# 今年初のブラジルの外債起債は成功

- PETROBRAS

€３.８Bio
(Bid 12 Bio)

4年　2.829% p.a.
7年　3.849% p.a.
11年　4.845% p.a.

Obs. Italy 10年 3.82%p.a.

- BNDES

€650 Mio
(Bid 1.8Bio)

5 年　3.783% p.a.

# レアル為替安・高金利のビジネス環境

**（不確定要因）**

- 10月　総選挙で与党の政治力低下か？
- 6月　World Cup Soccerが無事できるか？　R$8.9 Bio
- レアル安・インフレ高進

（対　応）

- 直接投資と証券投資は抑制
- 国際的な金利上昇基調下、高金利コストを余儀なくされる。
- Cash Flow管理強化

# ブラジルらしい成長へ

- 海外要因のRisk On- Offの頻度は高まる。
  Dinheiro Fácil (Easy Money)は来ない。

- 国民所得配分政策　→　成長政策へ

- 外資の無駄使い　→　インフラへの投資
  - 不動産バブル　→　交通、道路、港湾
  - 贅沢消費財　→　電力、病院、学校
  - 海外旅行US$25Bio　→　住宅の建設・工事

# Ânimo!!

Muito  obrigado.

コンサルタント部会
2014.02.20

# 自動車 部会

## 近藤　剛史　部会長

## Departamento Automotivo

## Presidente: Koji  Kondo

# ブラジル日本商工会議所　業種別部会長シンポジウム
# 「自動車部会」レポート

## ＜2013年レビューと2014年の展望＞

１）四輪車　　・販売状況
　　・生産／輸出状況

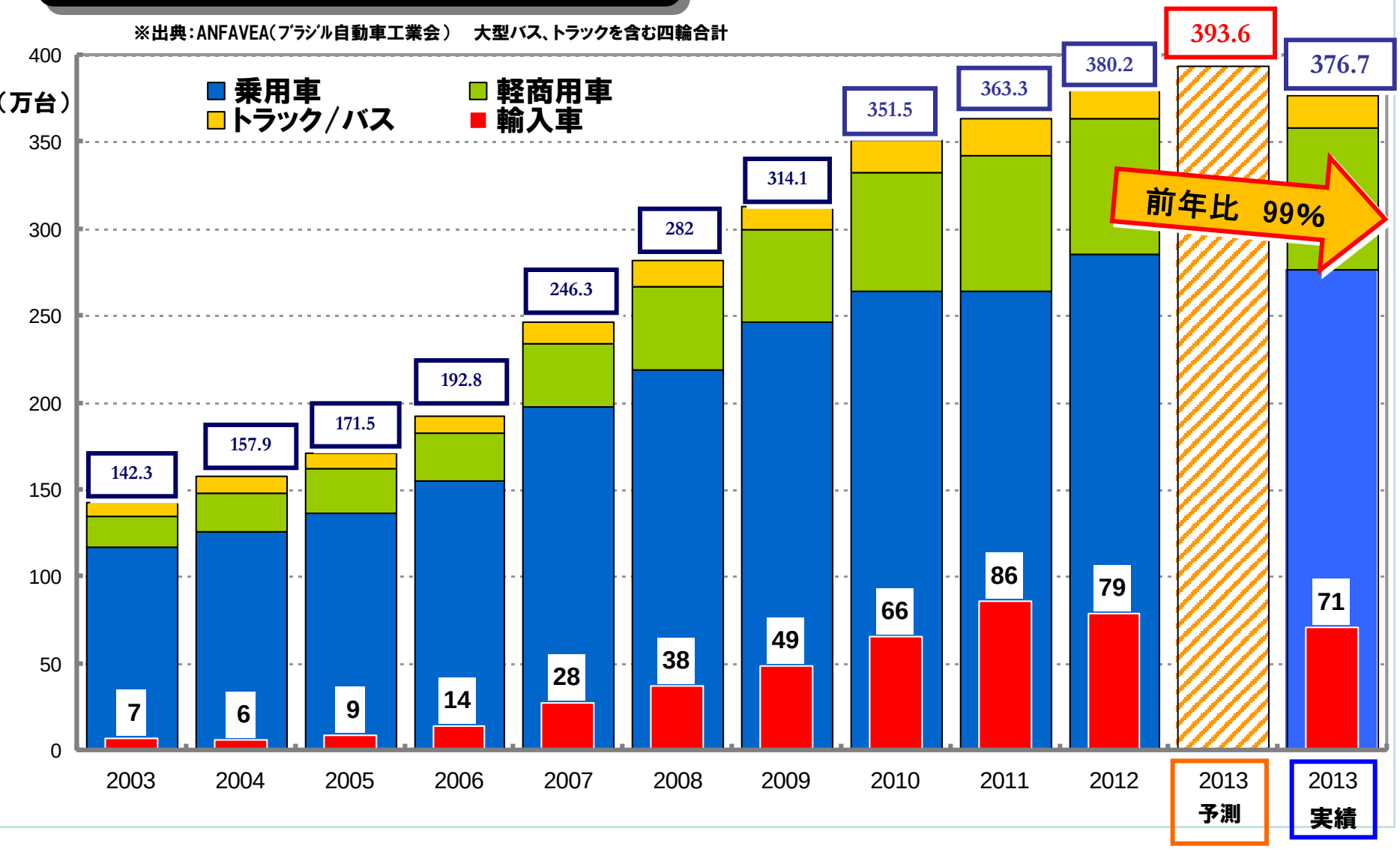
２）二輪車　　・販売状況
　　・生産／輸出状況

３）部品業界

# 四輪業界動向

# 四輪車販売台数の推移

※出典：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会）　大型バス、トラックを含む四輪合計




2013年販売実績はANFAVEA予測を下回る376.7万台（前年比0.9%減）。
10年振りの減少となった。

# IPI減税施策　2013年　振り返り



◆ 2013年2月商工会議所シンポジウム資料から抜粋

## IPI減税終了 2013年

自動車部会

■ 背景 <2012年>

・ファイナンス引き締め、与信審査強化により、ブラジル四輪市場の成長鈍化。

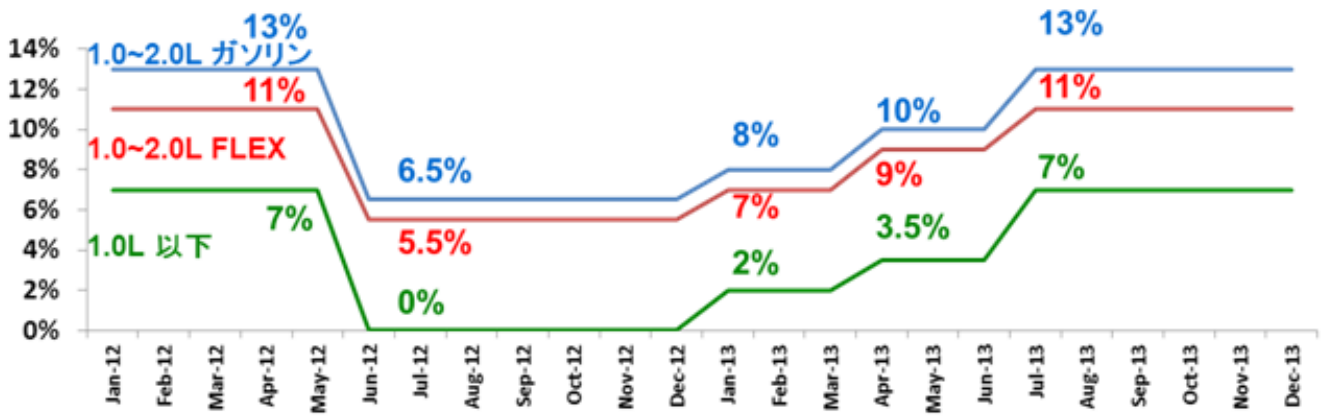
・自工会の陳情を受け、『雇用確保』と『メーカーの一部負担』を条件に、5月21日景気刺激策を発表

■ 景気刺激策内容

・IPI(工業製品)税　減税　　1L以下 100% 減税　1-2L 50% 減税（2.0L超 対象外）

期間：12年5月22日～8月末（当初発表）➔ 2度の延長を経て、2012年末に終了

➔ 2013年1月、4月と段階的に引き上げ、7月に通常税率に戻る予定

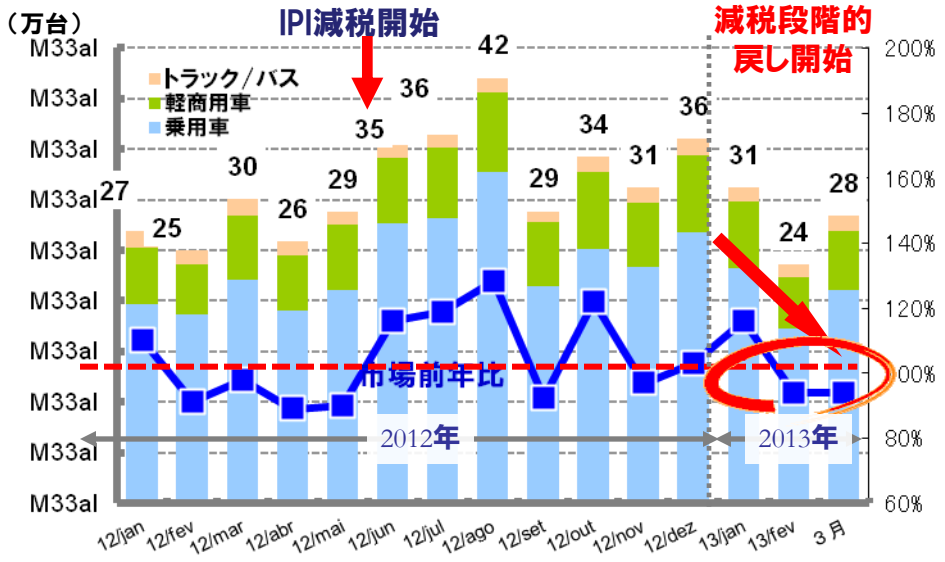



IPI減税 2013年段階的に通常税率へ
7月以降の市場の反動減　注視必要

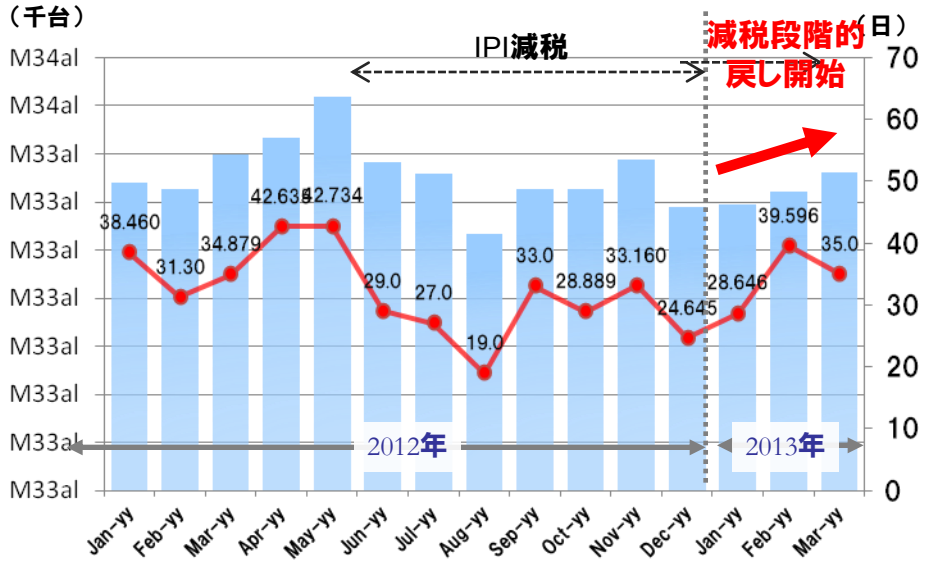
**IPI減税 2013年7月までに段階的に通常税率へ戻る予定であった**
**（第一段階1月是正　実施）**

# IPI減税終了　延期について（1-3月販売状況を受けて）

## ◆ 月別販売状況

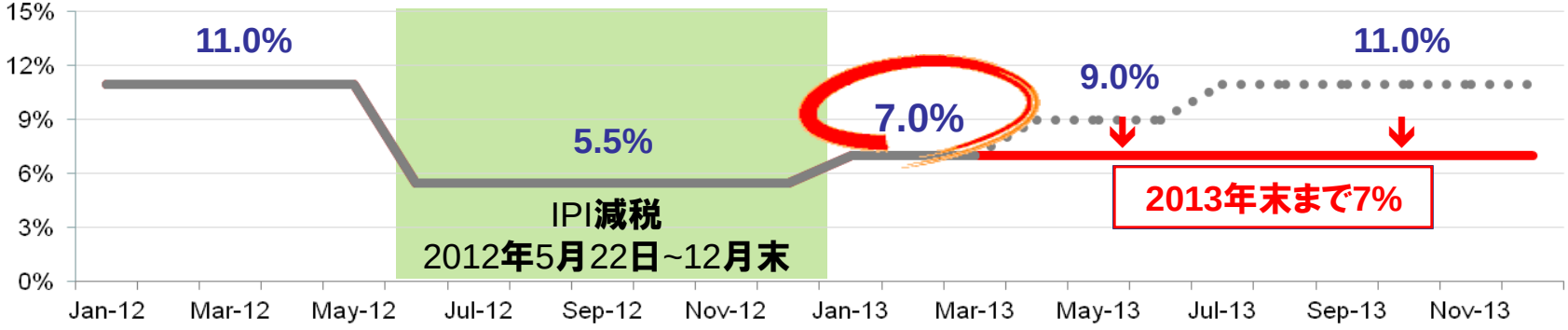



## ◆ 業界在庫状況



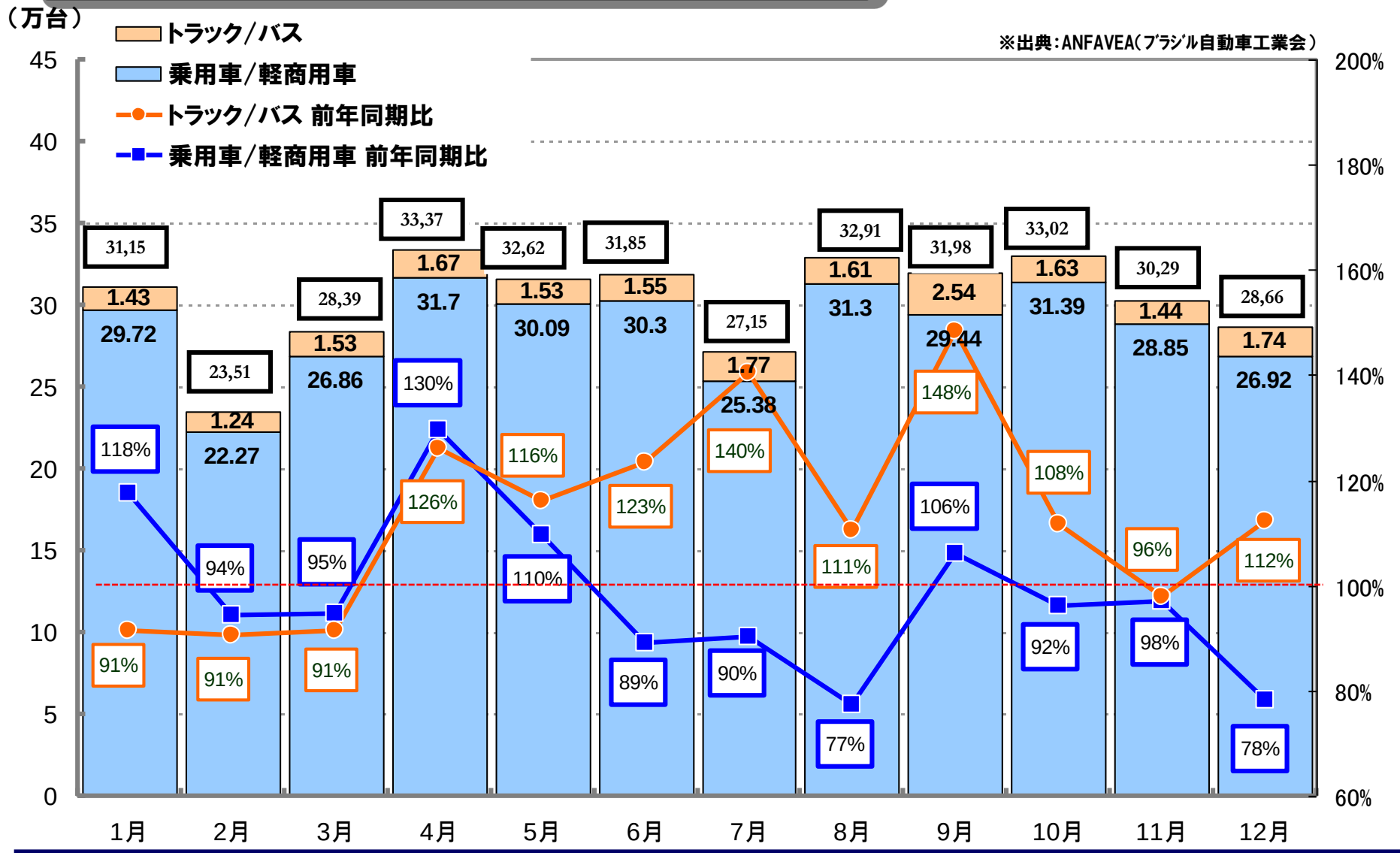

**IPI税率段階的引き上げが始まった1月以降販売急減、前年割れ　→　業界在庫　増加顕著に**

## ◆ IPI税率推移　（例：1.0～2.0リッターFlex）




**ANFAVEAは政府に税率戻り時期延長を要請**
**→ 1～3月の減税率の年末までの適用が決定・公示**（3/31）

# 2013年　月別販売台数の推移

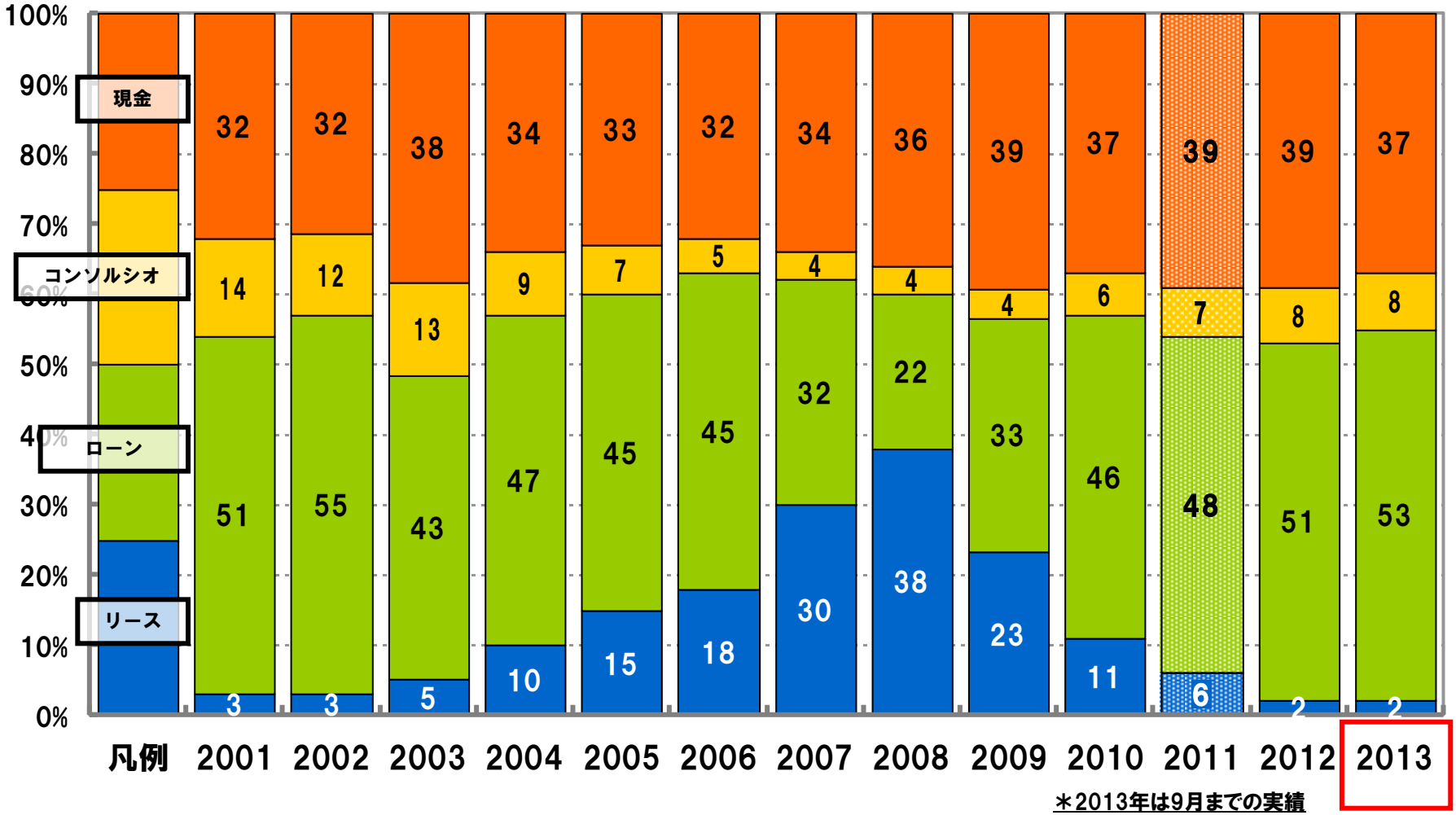



IPI減税の第1段階是正の実行→2、3月は前年割れ。
是正第2段階実行の延期決定（3/31）→4、5月回復。
クレジットの引締め等でその後は低調な販売。

# 四輪車　支払い形態



※出典：ANEF（自動車メーカー系金融会社協会）
**乗用車＋軽商用車の実績**
**大型トラック、バスは含まない**

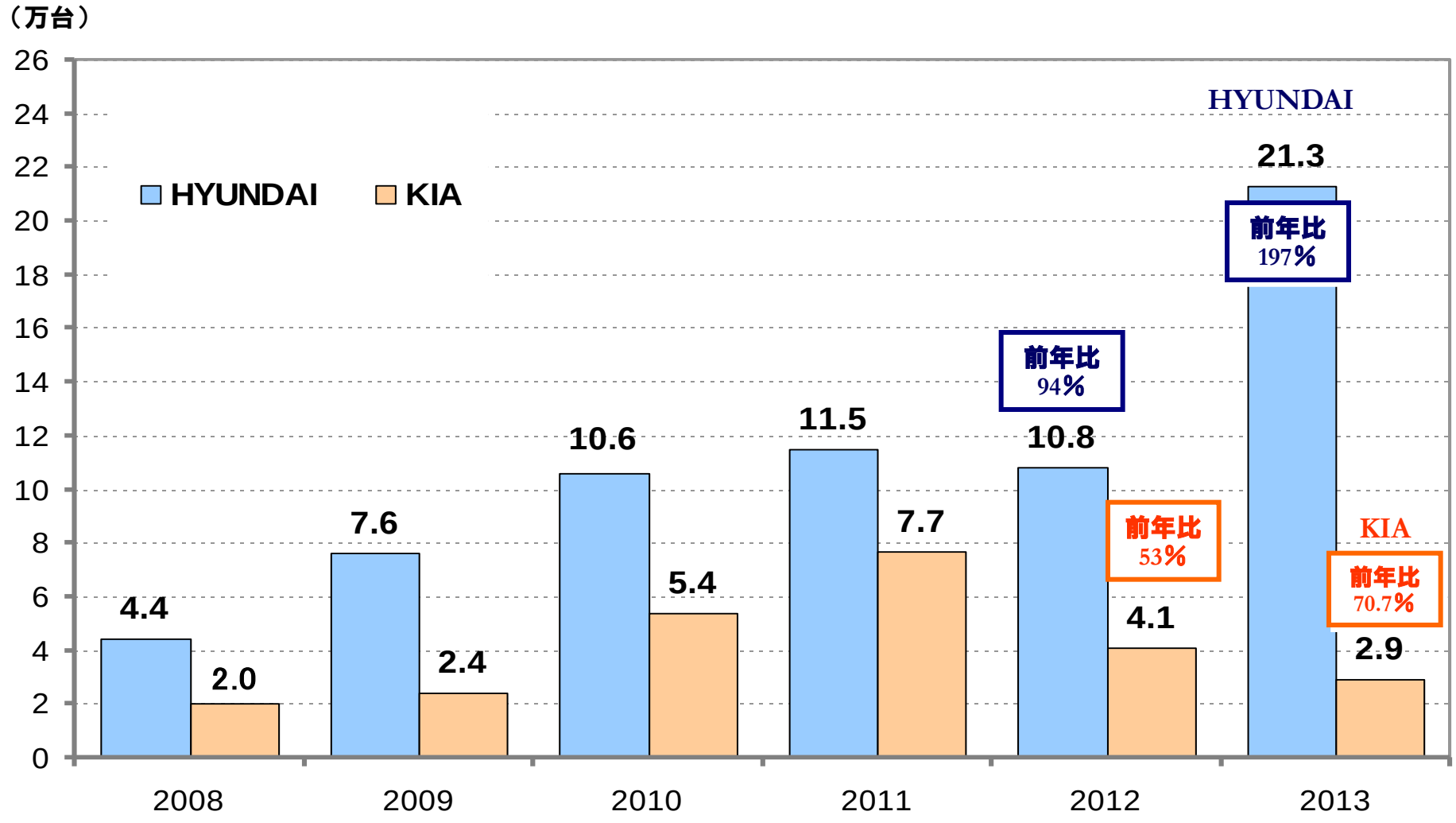



＊2013年は9月までの実績

**ローン支払いが53%（前年　+2ポイント）**
**現金支払いは37%（前年-2ポイント）**

# 韓国車販売推移

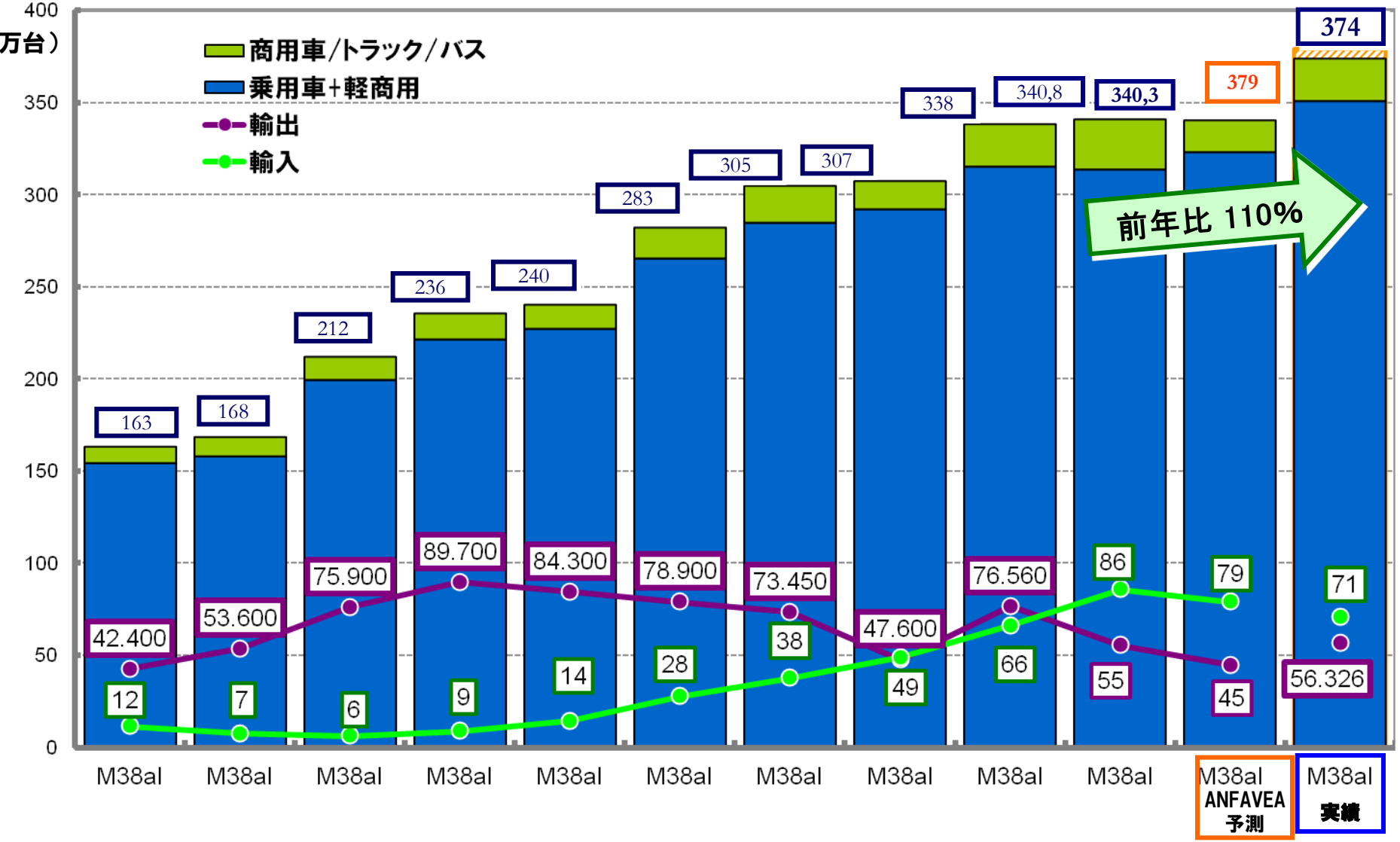
※出典：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会）
ABEIVA（ブラジル自動車輸入協会）




2013年、Hyundaiは販売を大きく伸ばし、工場に3シフト体制を導入。
KIAは新自動車政策の影響を受け減少。

# 四輪車の生産／輸出入台数の推移

※出典：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 生産実績にCKD含まず




生産台数は過去最高を記録。輸出は前年比124%と回復。輸入は前年比90%と減少。

# 四輪車輸出台数　カテゴリー別・企業別

## ◆ カテゴリー別　輸出概要

※出典：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 生産実績にCKD含まず

| カテゴリー | 2013年 | 2012年 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|
| 乗用車 | 528.481 | 412.598 | 128% |
| トラック | 25.019 | 23.896 | 105% |
| バス | 9.768 | 8.725 | 112% |
| 合計 | 563.268 | 445.219 | 127% |

## ◆ 企業別　輸出概要上位5社

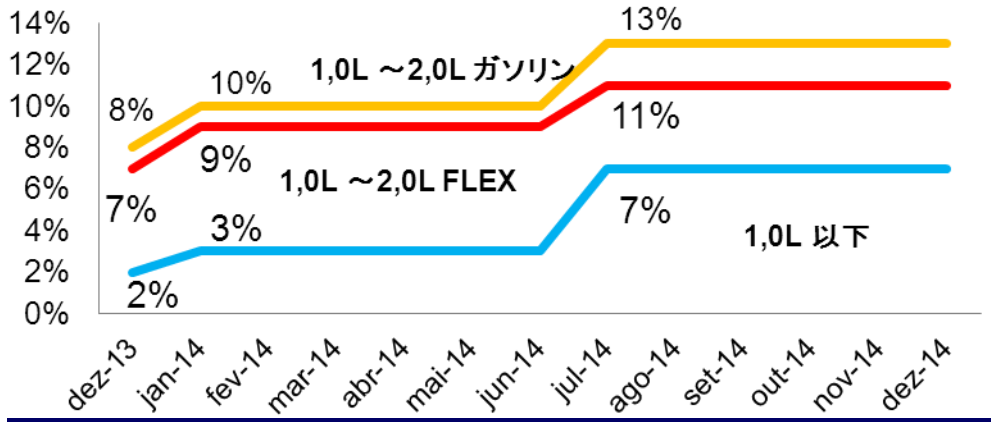
| 企業名 | 2013年 | 2012年 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|
| Volkswagen | 148911 | 142.743 | 104% |
| GM | 104500 | 68.286 | 153% |
| Fiat | 75720 | 55.159 | 137% |
| Ford | 74327 | 57.156 | 130% |
| Renault | 63161 | 58.168 | 109% |

**乗用車が輸出拡大を牽引**
**主にアルゼンチン向け小型車**

# 2014年予測

| | 2013年実績 | 2014年予測 | 前年比 2014/2013 |
|---|---|---|---|
| 国内市場 (万台) | **376.7** | **380.8** | **101.1%** |
| 輸出台数 (万台) | **56.32** | **57.5** | **102.1%** |
| 生産台数 (※KD除) (万台) | **374.0** | **376.6** | **100.7%** |

## IPI税率




## エアバッグ・ABS装置装備義務化スケジュール

| | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|---|---|---|---|---|---|
| エアバッグ | 8% | 15% | 30% | 60% | 100% |
| ABS装置 | 8% | 15% | 30% | 60% | 100% |

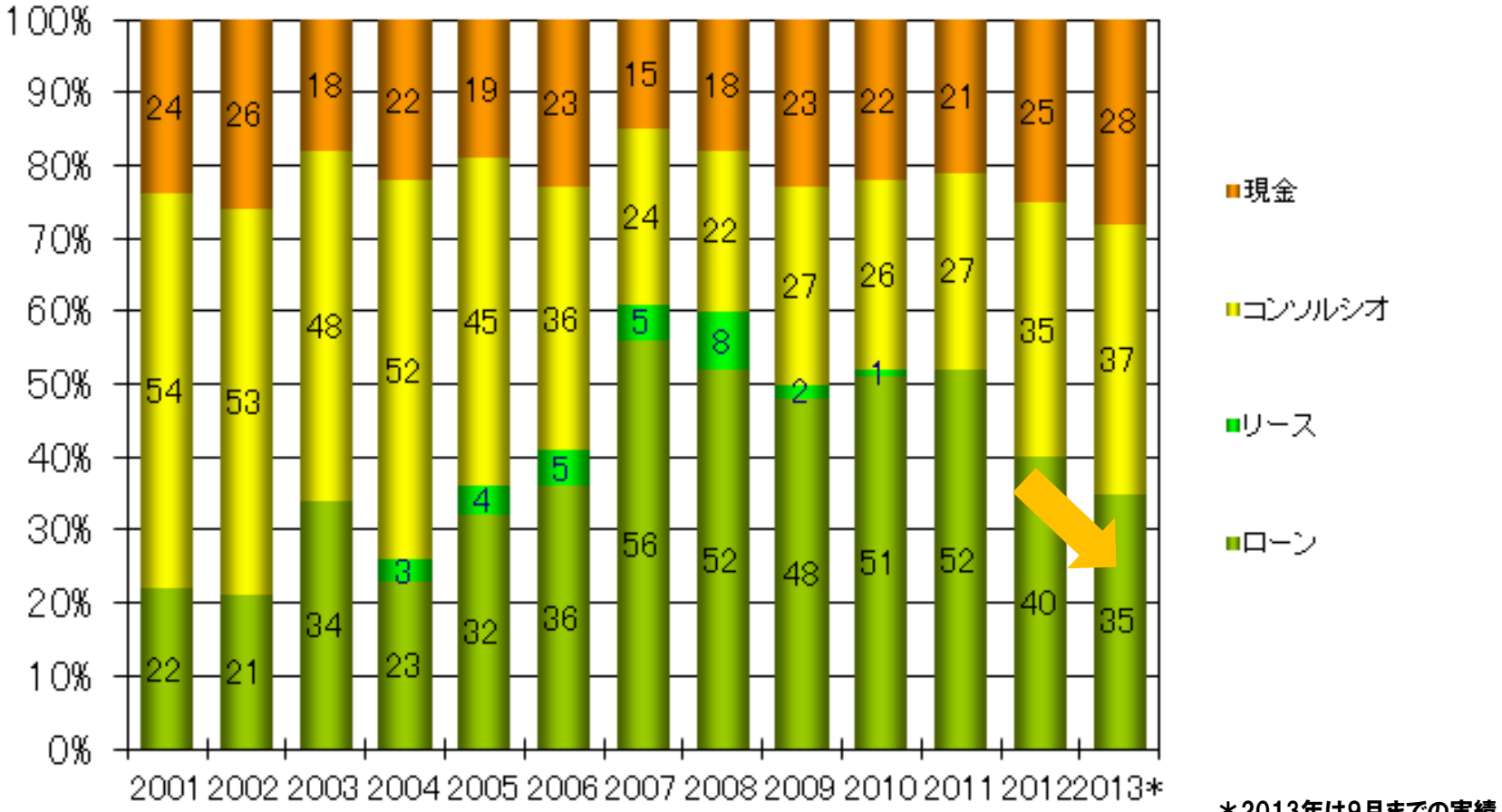
＊2009年4月3日、公示

**国内市場はIPI税率引上げ、ABS装置、エアバッグ義務化による価格上昇などにより販売に影響。成長は1.1%に留まる予測。**

# 二輪業界動向

# 二輪車　支払形態別　販売比率

※出典：ANEF（自動車メーカー系金融会社協会）



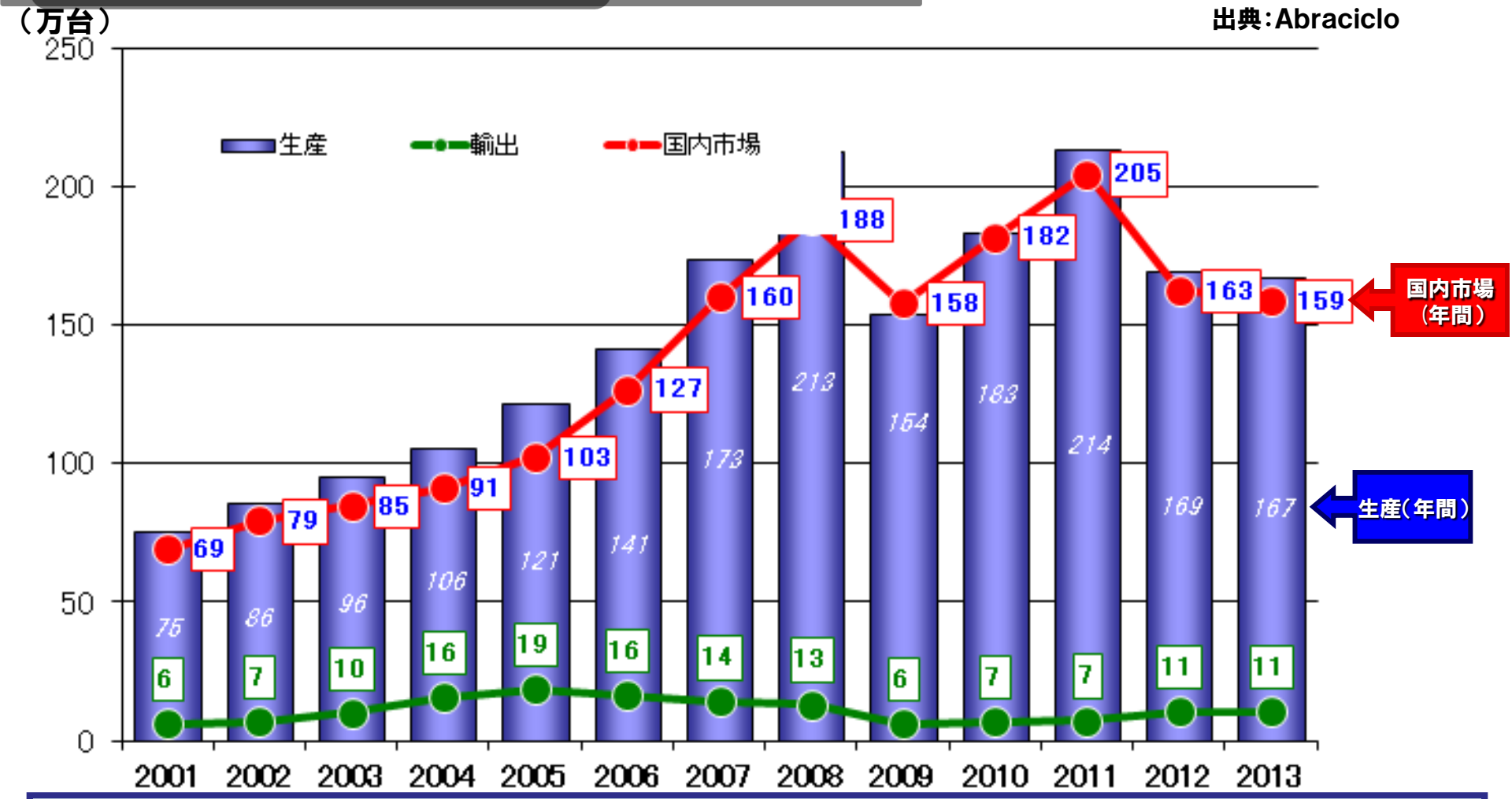

＊2013年は9月までの実績

**需要拡大を牽引してきたファイナンスの動向が、全体販売へ大きな影響を与える**

**2012年以降 与信審査が厳しくなり、2013年もローン比率減少傾向は継続**

# 二輪車　生産・販売　推移

出典：Abraciclo



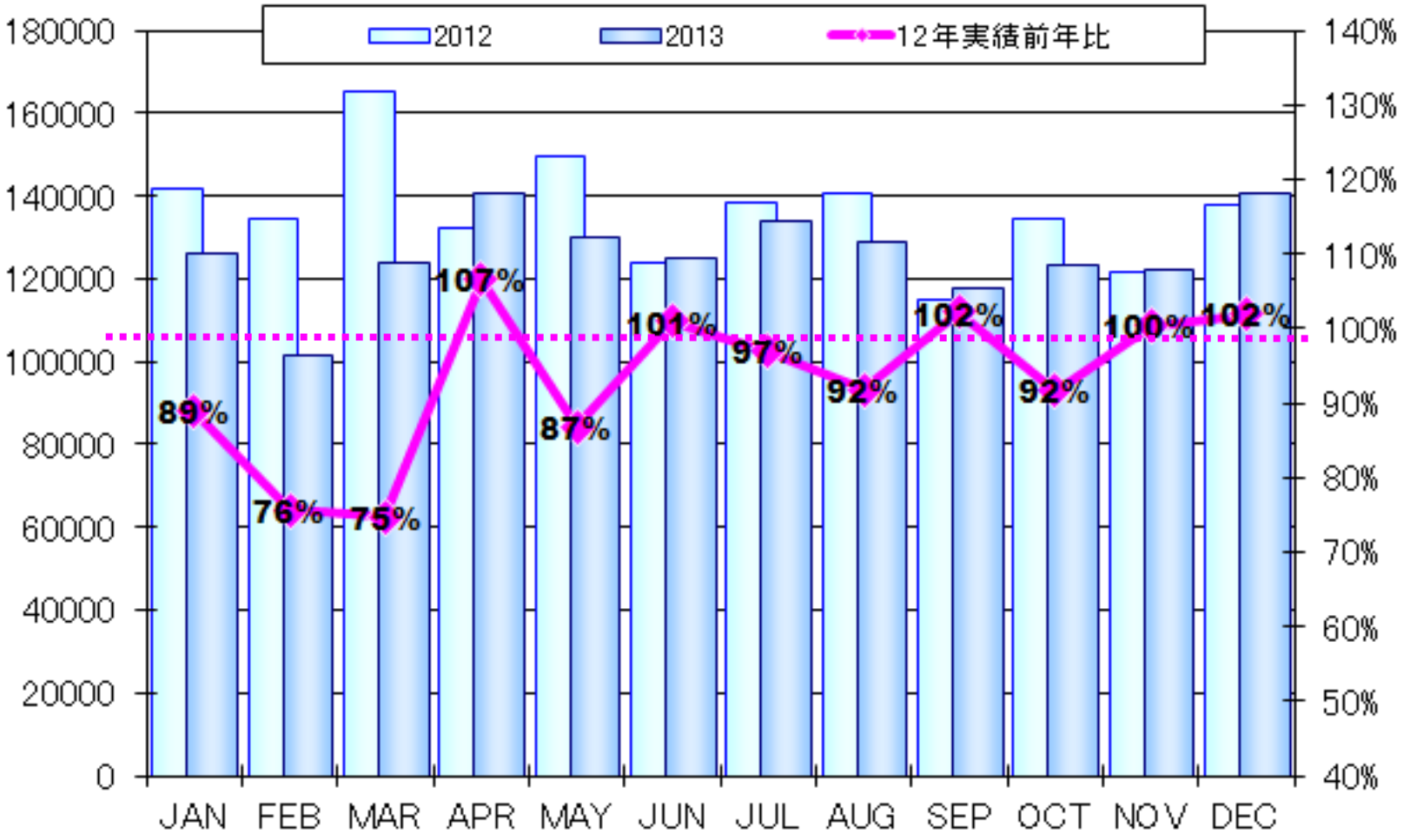

**2013年実績**

| | | |
|---|---|---|
| 卸 | 159万台（前年比98%） | 与信緩和の兆候は見られず、厳しい市場環境続く |
| 生産 | 167万台（前年比99%） | 卸、生産は末販状況に連動して前年を下回る実績となる |
| 輸出 | 11万台（前年比101%） | |

# 二輪車　月別販売推移（2012年vs2013年）



登録データ（DETRAN）




**ファイナンス審査厳格化は継続　販売の鈍化傾向が顕著に**

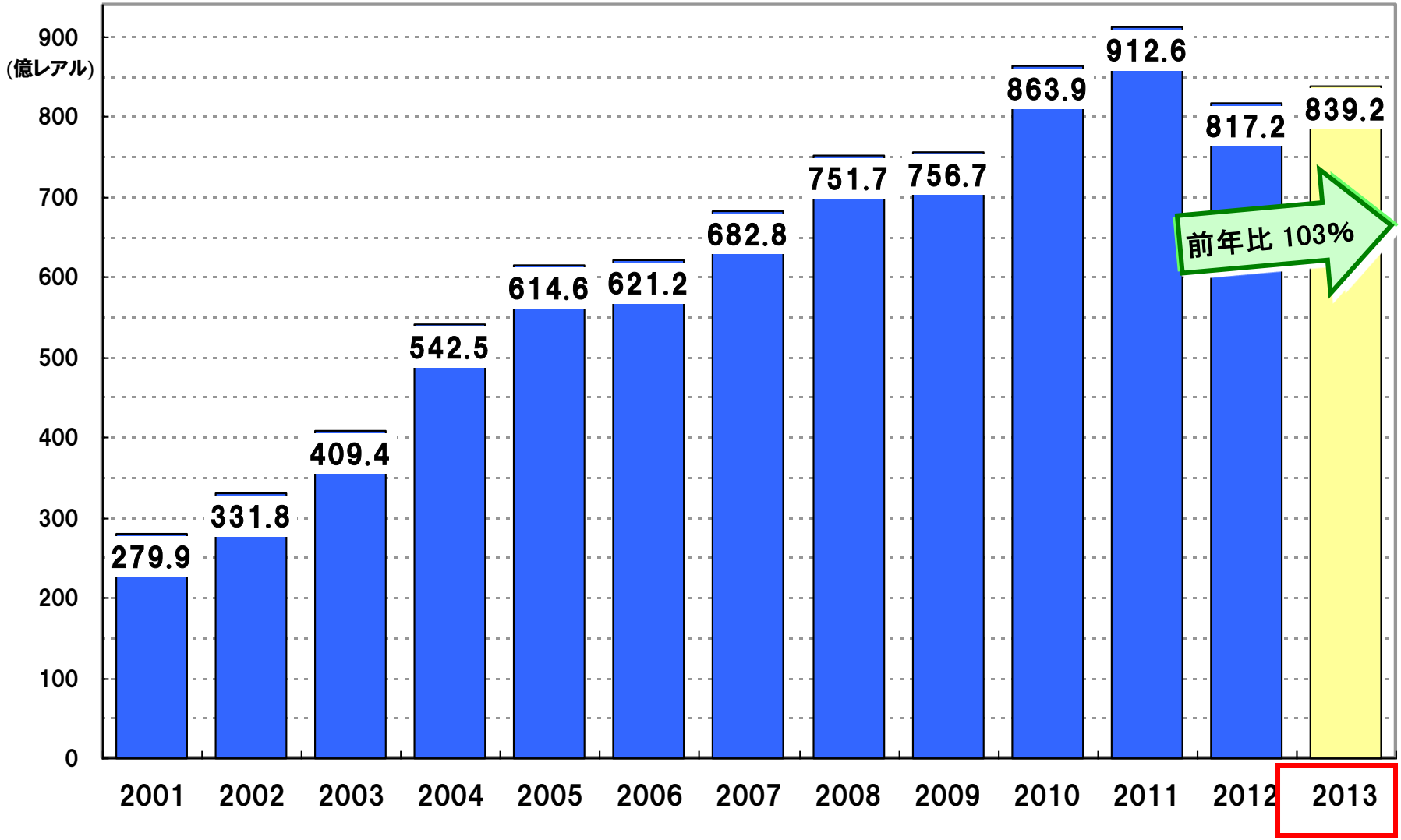
**2013年前半は大幅に落ち込み、後半にかけて前年レベルまで回復するも**

**通年では　登録市場　152万台（前年比93%）と前年を下回る。**

# 部品業界動向

# 部品売上高の推移

出典：Sindipeças（部品製造者協会）




2013年売上げ高は839億レアル（前年比103％）

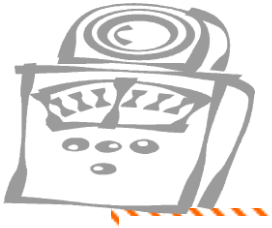
ご清聴ありがとうございます。

# 機械金属 部会

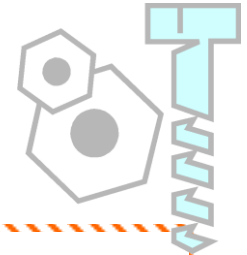
相原　良彦　部会長

Departamento de Metalmecânica

Presidente: Yoshihiko  Aihara



# 業種別部会長シンポジューム



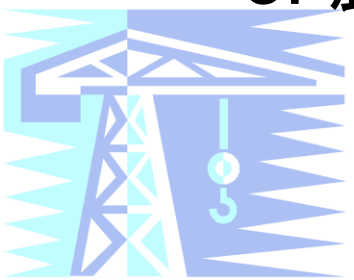
## 機械金属部会

## 「2013年の回顧と2014年上期の展望」

**業種・分野別分類**

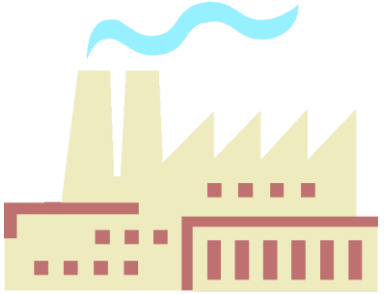
1. 鉄鋼（鋼板）
2. 電力及び社会インフラ
3. プラント機器
4. 建設機械
5. 農業機械
6. 各種切削工具他
7. 機械部品・計測機器
8. 潤滑油・金属加工油

機械金属部会　全体



2014年　2月20日

伯三菱重工業　相原



# 1.鉄鋼（鋼板）

## 2013年の回顧

概況
国内粗鋼生産量:
　3,420万ton(前年比　▲1.4%)
鋼材見掛消費量:
　2,640万ton (前年比　+4.36%)
W杯の関連で特需に期待したが、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ経済の回復基調は依然弱く、生産量は減少、ただし見掛消費量は微増。
鋼材輸出:
　810万ton(前年比▲17%)
ﾌﾞﾗｼﾞﾙ国内向け供給が優先され、輸出数量は減少傾向となった。
鋼材輸入;
　370万ton(前年比ほぼ横ばい)
鉄鋼製品100品目の輸入税率が従来水準に戻される等あったが、下工程製品を中心に、前年比横ばいで推移する見込み。

## 2014年上期の展望

概況
国内粗鋼生産2014年の予測
　3,500万ton：(前年比　+2.3%)
鋼材見掛消費量2013年の予測
　2,750万ton：(前年比　+4%)
2014年のGDP成長率は、前年比で+1.99%と予想。10月の大統領選を前に景気対策を優先させる可能性もあり、更なるｲﾝﾌﾚ上昇（6%）の懸念は残る。

鋼材輸出:
2014年の予測　800万ton（横這い）
鋼材輸入;
2014年の予測　380万ton（+3%）
ﾌﾞﾗｼﾞﾙ政府の国内鉄鋼ﾒｰｶｰ保護政策に大きな変更はないと思われるが、輸入は微増と予想。

# 2.電力　及び　社会インフラ

## 2013年の回顧

**概況**
経済の牽引役であるPetrobrasの業績不振は改善されず、鉄鋼製品・電力消費は横ばいで、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ経済全体が低迷し、投資案件が軒並み延期され、受注は低迷。造船等への投資には積極的だが、プラント機器等への投資は不十分。

水不足による電力危機にも関わらずガス火力はガス供給問題とPetrobrasの資金不足のために入札は遅れ気味。

インフラ関係大型プロジェクトも入札の遅れが目立つ。 高速鉄道は応札条件が改善されないまま、1年以上の延期決定。汚染土壌の洗浄、環境設備の導入計画も具体的な進展なし。

## 2014年上期の展望

**概況**
景気の早期回復は見込めず、Petrobrasの投資案件の遅れが懸念されるが、唯一ﾌﾟﾚｻﾙ開発に関する案件に期待。ﾚｱﾙ安による貿易収支改善で、農業・基礎産業関連の設備投資増に期待。地下鉄や港湾・空港などｲﾝﾌﾗ案件の速やかな推進と中間層の個人消費の拡大が設備投資復活の鍵。

発電・環境案件ともに引き続き、低迷が続くと予想。ただし、分散型発電設備の建設は堅調。

社会インフラ関係は、高速鉄道については10月の大統領選後に動き出すと予想。ｻﾝﾊﾟｳﾛ地下鉄や空港運営事業権(ﾘｵ、ﾍﾞﾛｵﾘｿﾞﾝﾁ)で一部進展する見込み。

# 3.プラント機器（紙パルプ・石油化学・製鉄等）

## 2013年の回顧

概況

<u>紙パルプ業界</u>
業界大手の優先株発行による増資を原資とした新設製紙ﾌﾟﾗﾝﾄ設備への投資が本格化してきたが、投資実現は持越し。

<u>石油化学業界</u>
割高な天然ガス価格に嫌気をさして、各社とも投資計画延期、中止の動きが顕著。

<u>鉄鋼・非鉄業界</u>
業界の操業度低下により新規設備の引合は無し。既設の改造・保守関連の引合程度で閑散な商い。 後半、製鉄会社の利益が回復基調になってきたが、設備投資復活にはほど遠い状況。

## 2014年上期の展望

概況

<u>紙パルプ業界</u>
ﾚｱﾙ安はﾊﾟﾙﾌﾟ輸出の追い風模様。
製紙各社で設備投資計画作業が実施されており、早ければ本年中にも大型投資が期待できる。

<u>石油化学業界</u>
PBの採算が厳しいことから石油開発の上流側を除き、新規投資は遅れる予想。
既存設備の改造・拡大工事に傾注。

<u>鉄鋼・非鉄業界</u>
世界的には中国を中心に供給能力過剰であり、2014年も引き続き、大型の新規設備の引合はなさそう。

# 4.建設機械

## 2013年の回顧

概況

総需要台数
2013年；13,425台(前年比+29.3%)
ｲﾝﾌﾗ関連による需要はあったが、農業開発省（MDA）向ﾃﾝﾀﾞｰ分の増（3,042台）を除くと対前年比でほぼ横ばいとなっている。

<u>小形建機</u>
小形バックホーは、輸入統計全体では、前年比▲21%と低調であったが、自社の販売台数は前年比+33%と好調。

## 2014年上期の展望

概況

総需要台数
2013年実績: 13,425台
2014年予測: 13,300台（ほぼ横ばい）
住宅や農林業向け等、一部の需要は堅調に推移すると見込まれるが、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ経済の停滞や金利上昇等、全体的には厳しい環境になると予想。

<u>小形建機</u>
W杯等に向けての建設・整備需要の増大により、年間で20%の伸びを期待。

# 5.農業機械(小型＆舶用ディーゼルエンジン含む)

## 2013年の回顧

概況

エンジンビジネス

小形ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ;2013年販売（発電機セット含）は好調で、前年同期比で台数ﾍﾞｰｽ+8%、金額ﾍﾞｰｽで+9%。
舶用ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ;PBの油田開発関連の新規造船向けは殆ど無し。ｱﾏｿﾞﾝ川流域の船舶ｴﾝｼﾞﾝは堅調に推移。

トラクタービジネス

全般的な農産物の豊作と2008年から開始された小規模農家への低金利融資政策の継続により、2013年度の販売は前年同期比で+11%。 しかしながら、政府の価格上限コントロールにより、1台当りの採算面では厳しい。

## 2014年上期の展望

概況

エンジンビジネス

小型ｴﾝｼﾞﾝ販売は、農作業機やﾗｲﾄﾀﾜｰなどのOEM向け、自社製造の発電機ｾｯﾄの販売が好調であり、台数ﾍﾞｰｽで2013年比+15%と予想。20馬力以下のﾌﾞﾗｼﾞﾙ製単気筒ｴﾝｼﾞﾝの販売は、地方への電化による市場縮小に加えて、中国製品の流入により、今後も低迷が続くと予想。
舶用ｴﾝｼﾞﾝ; やはりPBの投資活発化が鍵。まだ時間必要。 病院・商業施設・工場用の発電機用ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝも先が見えない。

トラクタービジネス

低金利融資政策が継続されることで、小形トラクターの販売は好調を維持すると期待。

# 6.各種切削工具＆射出成型機他

## 2013年の回顧

概況

<u>切削工具</u>
自動車業界の好調により、前年比+20.4%
但しﾚｱﾙ安による輸入原価増とｲﾝﾌﾚによる
諸経費ｱｯﾌﾟで損益苦しい。耐摩耗工具は
前年比+11%。理由は重要顧客からの特需。
鉱山工具は前年比▲11.5%。ﾚｱﾙ安による
価格高騰と資源価格の低下が原因。
<u>ねじ切り工具</u>
12年度売上が過去最高ﾚﾍﾞﾙだったことも
あり、13年度は前年比▲11%。
輸出では、日本向け製品の供給停止もあり、
レアル安にも関わらず、▲9%。
国内向けは、在庫過多もあり前年比▲13%。
<u>射出成型機</u>
自動車業界の好調により引合は増加したが、
品質よりも価格志向の市場に苦戦。

## 2014年上期の展望

概況

<u>切削工具</u>
自動車の販売は前年並みでも、輸出が
ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ経済の影響で減少すると予想。
生産が横這いのため期待薄。耐摩耗工具
は建設用丸棒鋼の需要は今後も期待。
建設工具;建設関連は引続き好調期待。
鉱山向けは為替の影響で厳しい。
<u>ねじ切り工具</u>
W杯、大統領選は市場にﾏｲﾅｽと予想。
2014年も厳しい。ﾚｱﾙ安も消費減に動く。
<u>射出成型機</u>
日系自動車会社を中心に何件か受注の
見込み。　品質はもとより価格とｱﾌﾀｰ
ｻｰﾋﾞｽについても高い要求を満たす必要
あり。

# 7.機械部品・測定機器

## 2013年の回顧

概況

チェーン

製糖業界向スポット受注もあり、前年比206%の増加。この特需除けば+18%の微増。代理店経由のｱﾌﾀｰﾏｰｹｯﾄが中心。

ホイスト&クレーン、チェーンブロック

W杯、五輪の景気に期待したが、終始低調。中国製品との競争が大きな試練。

軸受

自動車向は堅調だったが、2輪車向は依然低調で回復の見込みなし。
農機は堅調、鉱山向はVale等の投資低調なため、依然低迷。産業ﾓｰﾀｰ向は堅調。
アフターマーケットは安値の中国製品の輸入に歯止めかからず。

測定機器

SENAIなど教育機関向販売が堅調に推移し、目標未達なるも前年同期比+6%

## 2014年上期の展望

概況

チェーン

食品包装、製糖、森林等特定業界に営業を絞り保守用ﾋﾞｼﾞﾈｽを取り込み、かつ、新規OEMを図る戦略で販売増を狙う。

ホイスト&クレーン、チェーンブロック

品質重視の顧客をﾀｰｹﾞｯﾄに販売ﾊﾟｰﾄﾅｰとの連携で受注拡大を目指す。

軸受

自動車向は堅調に推移するが2輪車向は回復期待薄。客先ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの延期あり。
好調の農機に期待。ﾚｱﾙ安で輸出を伸ばしたい。ｱﾌﾀｰｻｰﾋﾞｽは円安ﾒﾘｯﾄを活かし日本からの輸入品の販売増を狙う。

測定機器

前年比+10%超の販売目標。日系自動車ﾒｰｶｰの工場拡張・新設に期待。

# 8.潤滑油・金属加工油

## 2013年の回顧

概況

潤滑油
市場全体としては前年比+4%と、自動車用、工業用ともに安定的な需要が継続。ﾍﾞｰｽｵｲﾙ市場では、国産化されていない高品質ﾍﾞｰｽｵｲﾙのｸﾞﾙｰﾌﾟⅡ・Ⅲの比率が20%から27%へ上昇。潤滑油がより高品質化している。

金属加工油
前年比+12%
自動車販売が堅調に推移したため、主要客先である自動車部品製造業での生産が増加した。

## 2014年上期の展望

概況

潤滑油
自動車分野の好調さが維持されれば、潤滑油全体需要も押上げられる。
W杯や総選挙により消費が上向くことは潤滑油需要にとってもﾌﾟﾗｽ要因。全体ではGDP伸長率なみの需要増が見込まれる。

金属加工油
自動車関連企業の生産は、頻発するデモやW杯の影響で現状維持と予想。
但し、日系自動車ﾒｰｶｰの新ｴﾝｼﾞﾝ工場の稼働が予想され、その対応が課題。

# 機械金属部会　全体

## 2013年の回顧

W杯、ｵﾘﾝﾋﾟｯｸの2大ｲﾍﾞﾝﾄによる経済成長を期待したが、工業関連は期待はずれの低成長。建設業と農業及び自動車関連で微増あるものの依然低迷している。中国経済の減速も影響し、GDP成長率は1.9%どまり。 最近はデモ頻発の影響もあり、個人消費に陰りがあり、設備投資意欲も依然落ち込んだまま。ﾌﾞﾗｼﾞﾙ経済を牽引すべきﾍﾟﾄﾛﾌﾞﾗｽも業績悪化により、大型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの遅れが目立った。また社会ｲﾝﾌﾗ投資についても政府の発表は派手に行われたものの、実際の投資が動き出したｹｰｽは少なく、需要喚起に結びつかなかった。

## 2014年上期の展望

ﾌﾞﾗｼﾞﾙ経済がv字回復する見込みはあまり無く、低成長が継続するものと推測され、概ね各社共に2013年並みと予測している。 とくに製造業のｺｽﾄ競争力は、益々低下しており安価な中国品との熾烈な競争に如何に勝ち抜いていくかに、各社必死に努力している。ﾍﾟﾄﾛﾌﾞﾗｽは業績悪化が継続し、設備投資への意欲は依然低く、関連ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの受注も低迷が続く可能性がある。 一方で、最近のﾃﾞﾓにより、身近な社会ｲﾝﾌﾗへの投資計画は、実現が加速される予想もある。 造船関係では、日本からの技術協力がいよいよ本格化し、ﾌﾞﾗｼﾞﾙの海底油田開発が加速されることが期待される。

電気電子 部会

三浦　修　部会長

Departamento Eletroeletrônico

Presidente: Osamu  Miura

# 「2013年の回顧と2014年の展望」

**2014年2月20日**

**電気電子部会**

Sony Brasil Ltda

三浦　修

# 2013年1月-12月の主要製品の生産量

(Qty:1,000)

| | | 2012 | 2013* | Diff |
|---|---|---|---|---|
| TV | CRT | 1,081 | 1,019 | -5.7% |
| | PLASMA | 441 | 957 | 117.0% |
| | LCD | 12,195 | 12,467 | 2.2% |
| DVD/BLU RAY | | 3,844 | 2,460 | -36.0% |
| AUDIO STEREO | | 1,490 | 1,421 | -4.6% |
| H. THEATER | | 382 | 343 | -10.2% |
| DIGITAL CAMERA | | 4,010 | 2,307 | -42.5% |
| VIDEO CAMERA | | 129 | 69 | -46.5% |
| CAR AUDIO | | 2,390 | 2,559 | 7.1% |
| GAME | | 713 | 1,376 | 93.0% |
| AIR-CON SPLIT | | 1,841 | 3,475 | 88.8% |
| AIR-CON WINDOW | | 471 | 720 | 52.9% |
| MICROWAVE OVEN | | 3,807 | 4,206 | 10.5% |
| CELLULAR | | 26,820 | 23,328 | -13.0% |

Data: Indicadores de Desempenho do polo Industrial de Manaus 31/01/2014

2013*: Adjusted in Dec/2013

# 2013年4月-12月の主要製品の販売数

| | Unit-wise(1,000) | | |
|---|---|---|---|
| | **2012 (Apr-Dec)** | **2013 (Apr-Dec)** | **12 vs 13** |
| Camcorder | 88 | 63 | -28% |
| DSC | 3,491 | 2,890 | -17% |
| DVD & BD | 4,925 | 4,939 | 0% |
| Mini System | 1,025 | 1,078 | 5% |
| Home Theater | 855 | 853 | 0% |
| *HT DVD Player* | 674 | 543 | -19% |
| *HT BDV Player* | 181 | 310 | 71% |
| Notebooks | 5,251 | 5,028 | -4% |
| PTV (LCD+LED+PLASMA) | 10,452 | 12,028 | 15% |
| Mobile | 40,338 | 40,786 | 1% |
| *Smartphones* | 12,181 | 24,012 | 97% |
| *Feature Phones* | 28,157 | 16,775 | -40% |
| Games Hardware | 691 | 723 | 5% |
| Games Software | 2,413 | 2,443 | 1% |
| **TOTAL** (w/o feature phone) | **38,959** | **51,613** | **32%** |
| **TOTAL** (wt feature phone) | **67,116** | **68,388** | **2%** |

From Gfk data

# 2013年4月-12月の主要製品の販売額

| | Value-wise(R$1,000) | | |
|---|---|---|---|
| | **2012 (Apr-Dec)** | **2013 (Apr-Dec)** | **12 vs 13** |
| Camcorder | 79 | 57 | -28% |
| DSC | 1,483 | 1,310 | -12% |
| DVD & BD | 733 | 692 | -6% |
| Mini System | 884 | 972 | 10% |
| Home Theater | 551 | 620 | 13% |
| *HT DVD Player* | 339 | 266 | -22% |
| *HT BDV Player* | 212 | 354 | 67% |
| Notebooks | 6,658 | 6,882 | 3% |
| PTV (LCD+LED+PLASMA) | 13,810 | 17,133 | 24% |
| Mobile | 13,792 | 18,053 | 31% |
| *Smartphones* | 8,174 | 15,140 | 85% |
| *Feature Phones* | 5,618 | 2,913 | -48% |
| Games Hardware | 640 | 725 | 13% |
| Games Software | 250 | 302 | 21% |
| **TOTAL** (w/o feature phone) | **33,012** | **43,531** | **32%** |
| **TOTAL** (wt feature phone) | **38,630** | **46,444** | **20%** |

From Gfk data

# Black Friday Impact (29/Nov 2013)

| | Sales Value (Mil R$) | | |
|---|---|---|---|
| | Dec-12 | Dec-13 | Dec12-Dec13 |
| **TOTAL** (wt feature phone) | 5,180 | 5,919 | 14% |

+12%

| | Sales Value (Mil R$) | | |
|---|---|---|---|
| | Nov-13 | Dec-13 | Nov13-Dec13 |
| | 5,238 | 5,919 | 13% |

+13%

| | Sales Value (Mil R$) | | |
|---|---|---|---|
| | Nov-12 | Nov-13 | Nov12-Nov13 |
| | 3,987 | 5,238 | 31% |

+31%

**Black Friday grew +217% v.s P.Y.**

Folha de Sao Paulo

# 2013年の回顧

| 改善 | 維持 | 悪化 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 11 | 2 | 3 | 16 |

- 白物販売の税制Incentive (10% v.s. 15%)
- 通信インフラ投資は微増だが価格下落

- レアル安による利益悪化（値段に反映できず）
- 景気悪化
- 金利の上昇
- 人件費高騰

- Black Friday　の活性化

# 2014年の展望

| 改善 | 維持 | 悪化 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 13 | 3 | 0 | 16 |

- 継続する不調な経済
- 継続する人件費増大による収益の圧迫
- 通貨安による収益の圧迫
- 金利の上昇による収益への圧迫と消費の落ち込み
- ワールドカップはビジネスにはネガティブに作用
  - ✓ 期間中のデモ
  - ✓ 期間中の輸送の混乱
  - ✓ 期間中の生産ダウン、効率低下
  - ✓ 期間中のインフレ
- 大統領選挙による混乱

# 政府への要望

前回と全く同じ

- 複雑すぎる税制の改革
- インフラ改善と投資の促進
- 反政府行動の沈静化
- 税金を払わない輸入に対する厳格な取締り
- 治安の改善

以上

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

司会

井上　徹哉　企画戦略副委員長

APRESENTADOR

Vice Presidente da Comissão
de Planejamento
e Estratégia

Tetsuya  Inoue

# 貿易 部会

## 伊吹　洋二　部会長

## Departamento de Comércio Exterior

## Presidente: Yoji  Ibuki

# 2013年通期
# ブラジル貿易動向

2014年2月20日

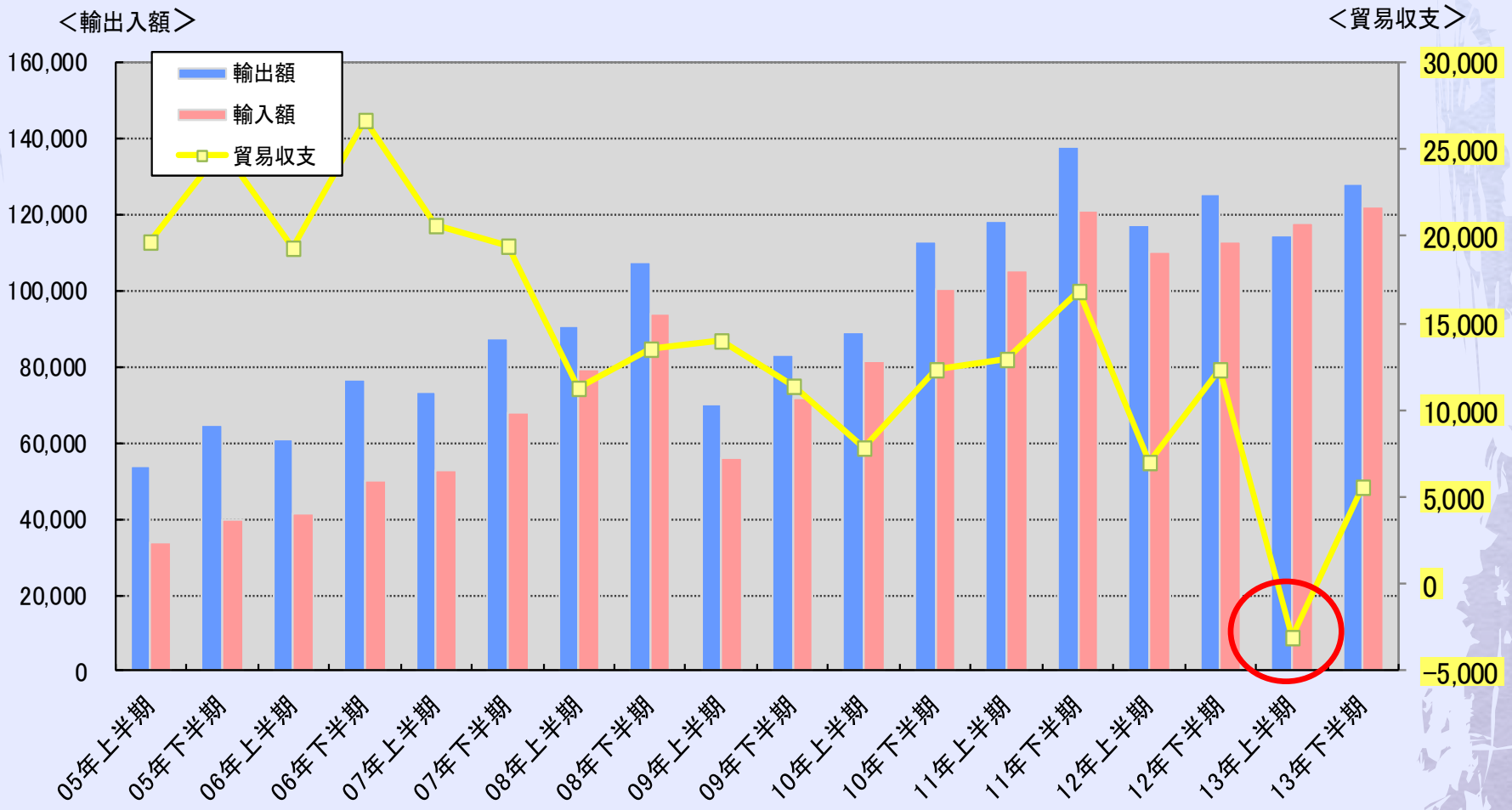
ブラジル日本商工会議所

貿易部会

# 1. 総括

（単位：百万ドル）

半期ごとの輸出入額の推移




（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

# 2. 輸出

## 主要商品別輸出

（単位：百万ドル）

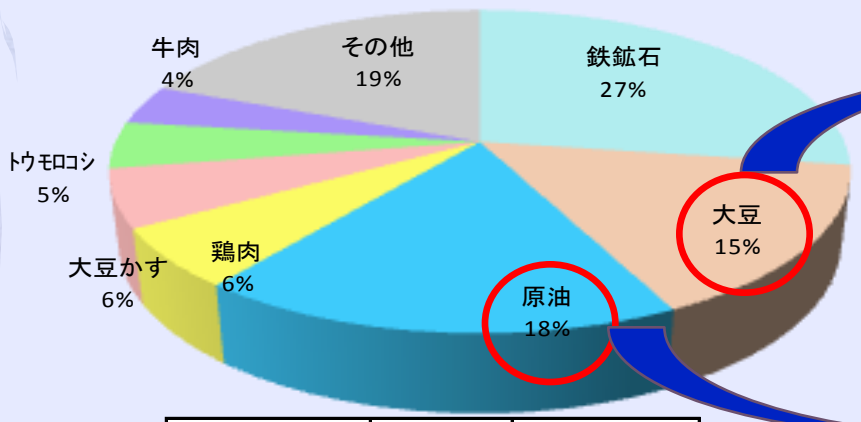
| | 2012年 | | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 輸出総額 | 242,580 | 100.0% | 242,179 | 100.0% | △0.2% |
| 一次産品 | 113,456 | 46.8% | 113,023 | 46.7% | △0.4% |
| 鉄鉱石 | 30,989 | 12.8% | 32,492 | 13.4% | 4.9% |
| 大豆 | 17,455 | 7.2% | 22,812 | 9.4% | 30.7% |
| 原油 | 20,306 | 8.4% | 12,957 | 5.4% | △36.2% |
| 鶏肉 | 6,732 | 2.8% | 7,004 | 2.9% | 4.0% |
| 半製品 | 33,042 | 13.6% | 30,526 | 12.6% | △7.6% |
| 粗糖 | 10,030 | 4.1% | 9,164 | 3.8% | △8.6% |
| 化学木材パルプ | 4,700 | 1.9% | 5,179 | 2.1% | 10.2% |
| 鉄鋼半製品 | 3,842 | 1.6% | 2,710 | 1.1% | △29.5% |
| 工業製品 | 90,707 | 37.4% | 93,090 | 38.4% | 2.6% |
| 探鉱・掘削プラットフォーム | 1,458 | 0.6% | 7,736 | 3.2% | 430.6% |
| 乗用車 | 3,725 | 1.5% | 5,485 | 2.3% | 47.2% |
| 燃料 | 5,039 | 2.1% | 3,869 | 1.6% | △23.2% |
| 航空機 | 4,747 | 2.0% | 3,830 | 1.6% | △19.3% |
| その他 | 5,375 | 2.2% | 5,540 | 2.3% | 3.1% |

（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

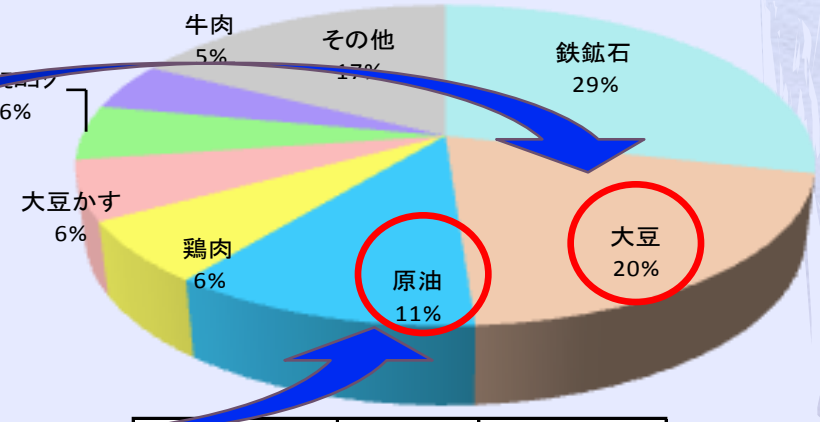
# 2. 輸出

## 一次産品内訳グラフ

2012年




2013年




| 2012 一次産品計 | 構成比 | 百万ドル |
|---|---|---|
| | 100% | 113,456 |
| 鉄鉱石 | 27% | 30,989 |
| 大豆 | 15% | 17,455 |
| 原油 | 18% | 20,306 |
| 鶏肉 | 6% | 6,732 |
| 大豆かす | 6% | 6,595 |
| トウモロコシ | 5% | 5,287 |
| 牛肉 | 4% | 4,495 |
| その他 | 19% | 21,597 |

| 2013 一次産品計 | 構成比 | 百万ドル |
|---|---|---|
| | 100% | 113,023 |
| 鉄鉱石 | 29% | 32,492 |
| 大豆 | 20% | 22,812 |
| 原油 | 11% | 12,957 |
| 鶏肉 | 6% | 7,004 |
| 大豆かす | 6% | 6,787 |
| トウモロコシ | 6% | 6,251 |
| 牛肉 | 5% | 5,359 |
| その他 | 17% | 19,361 |

# 2. 輸出

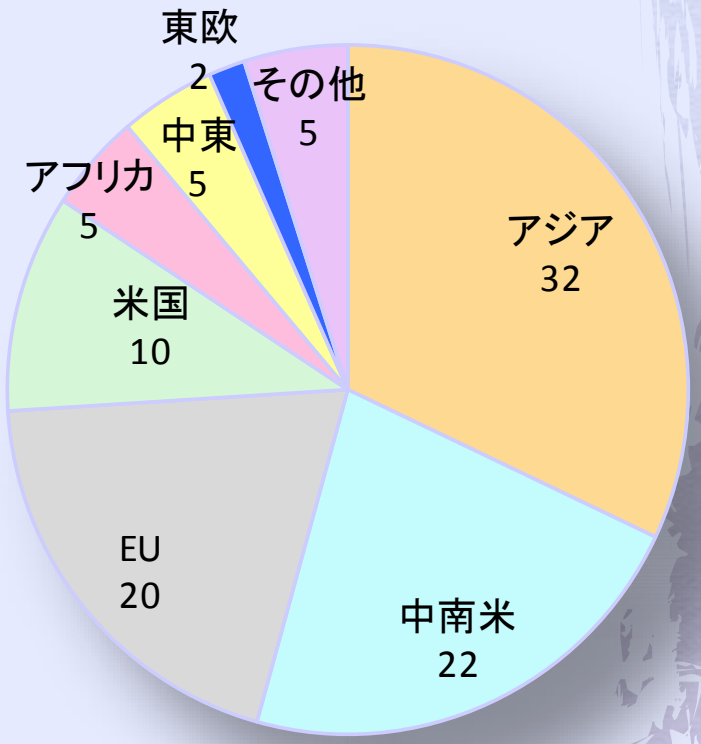
## ブラジルの主要国/地域別輸出

（単位：百万ドル）

| | 2012年 | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 輸出総額 | 242,580 | 242,179 | 100.0% | △0.2% |
| 中国 | 41,227 | 46,026 | 19.0% | 11.6% |
| 米国 | 26,701 | 24,653 | 10.2% | △7.7% |
| アルゼンチン | 17,998 | 19,615 | 8.1% | 9.0% |
| オランダ | 15,041 | 17,326 | 7.2% | 15.2% |
| 日本 | 7,956 | 7,965 | 3.3% | 0.1% |
| ドイツ | 7,277 | 6,552 | 2.7% | △10.0% |
| ベネズエラ | 5,056 | 4,850 | 2.0% | △4.1% |
| 韓国 | 4,501 | 4,720 | 1.9% | 4.9% |
| チリ | 4,602 | 4,484 | 1.9% | △2.6% |
| パナマ | 397 | 4,423 | 1.8% | 1014.1% |
| その他 | 111,824 | 101,565 | 41.9% | △9.2% |

（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

地域別構成比率



# 3. 輸入

## 主要商品別輸入（商品別）

（単位：百万ドル）

| | 2012年 | | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 輸入総額 | 223,149 | 100.0% | 239,621 | 100.0% | 7.4% |
| 一次産品 | 29,282 | 13.1% | 33,322 | 13.9% | 13.8% |
| 原油 | 13,406 | 6.0% | 16,320 | 6.8% | 21.7% |
| 天然ガス | 3,336 | 1.5% | 3,878 | 1.6% | 16.2% |
| 半製品 | 9,024 | 4.0% | 8,188 | 3.4% | △9.3% |
| 塩化カリウム | 3,513 | 1.6% | 3,325 | 1.4% | △5.4% |
| 工業製品 | 184,843 | 82.8% | 198,111 | 82.7% | 7.2% |
| 乗用車 | 9,567 | 4.3% | 9,081 | 3.8% | △5.1% |
| 燃料油 | 6,712 | 3.0% | 8,346 | 3.5% | 24.3% |
| 自動車部品 | 6,771 | 3.0% | 8,297 | 3.5% | 22.5% |
| 医薬品 | 6,114 | 2.7% | 6,704 | 2.8% | 9.6% |
| 半導体 | 4,249 | 1.9% | 4,849 | 2.0% | 14.1% |
| ナフサ | 4,193 | 1.9% | 4,659 | 1.9% | 11.1% |
| その他 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | |

（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

# 3. 輸入

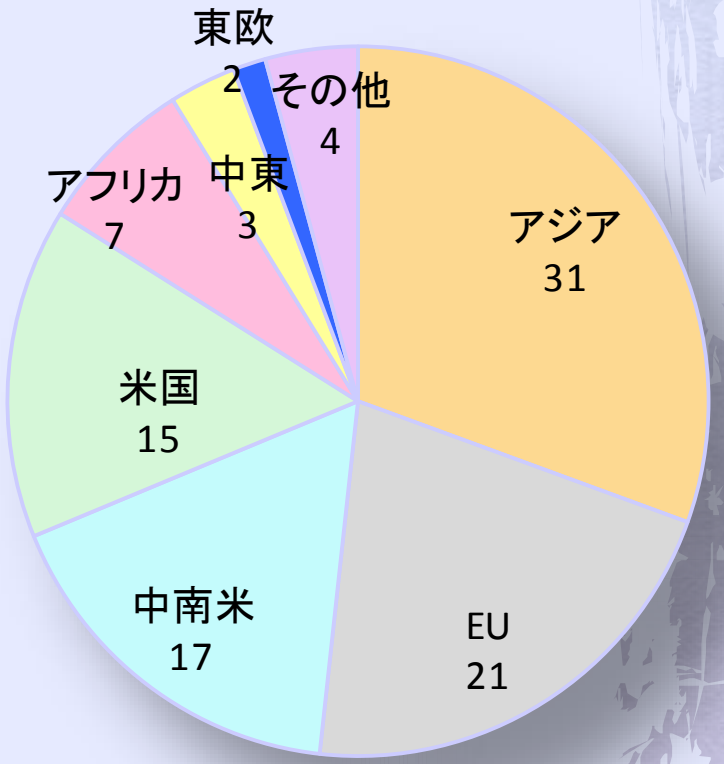
## ブラジルの主要国/地域別輸入

（単位：百万ドル）

| | 2012年 | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 輸入総額 | 223,149 | 239,621 | 100.0% | 7.4% |
| 中国 | 34,248 | 37,302 | 15.6% | 8.9% |
| 米国 | 32,357 | 36,002 | 15.0% | 11.3% |
| アルゼンチン | 16,444 | 16,463 | 6.9% | 0.1% |
| ドイツ | 14,209 | 15,182 | 6.3% | 6.8% |
| ナイジェリア | 8,012 | 9,648 | 4.0% | 20.4% |
| 韓国 | 9,098 | 9,491 | 4.0% | 4.3% |
| 日本 | 7,735 | 7,082 | 3.0% | △8.4% |
| イタリア | 6,199 | 6,717 | 2.8% | 8.4% |
| フランス | 5,910 | 6,498 | 2.7% | 9.9% |
| インド | 5,043 | 6,357 | 2.7% | 26.1% |
| その他 | 83,894 | 88,879 | 37.1% | 5.9% |

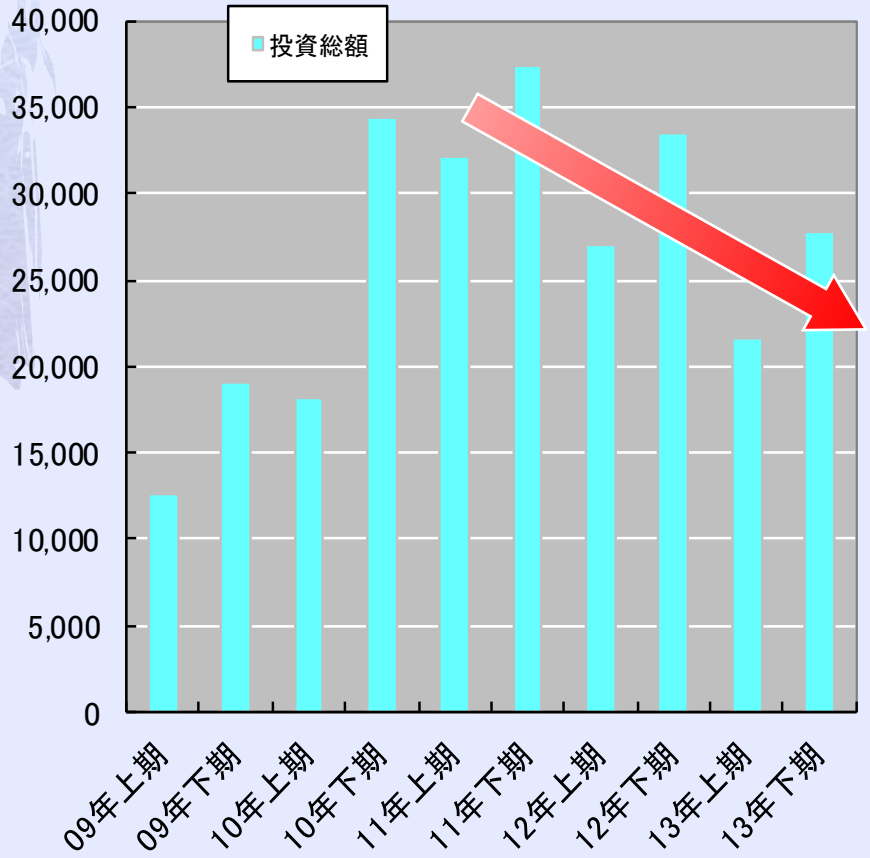
（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

地域別構成比率



# 4. 対内直接投資

ブラジルの対内直接投資推移




ブラジルの国・地域別対内直接投資

(単位:百万ドル)

| | 2012年 | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| オランダ | 12,213 | 10,511 | 21.3% | △13.9% |
| 米国 | 12,310 | 9,021 | 18.3% | △26.7% |
| ルクセンブルグ | 5,965 | 5,067 | | |
| チリ | 2,013 | 2,963 | | |
| 日本 | 1,471 | 2,516 | 5.1% | 71.1% |
| スイス | 4,333 | 2,333 | 4.7% | △46.1% |
| スペイン | 2,523 | 2,246 | 4.6% | △11.0% |
| フランス | 2,155 | 1,489 | 3.0% | △30.9% |
| カナダ | 1,950 | 1,215 | 2.5% | △37.7% |
| 英国 | 1,978 | 1,203 | 2.4% | △39.2% |
| ドイツ | 826 | 1,011 | 2.0% | 22.3% |
| 英領ジャージー島 | 5 | 996 | 2.0% | 19249.5% |
| イタリア | 986 | 902 | 1.8% | △8.6% |
| ニュージーランド | 22 | 752 | 1.5% | 3331.6% |
| ポルトガル | 551 | 596 | 1.2% | 8.3% |
| バハマ | 138 | 562 | 1.1% | 308.3% |
| その他 | 11,103 | 5,959 | 12.1% | △46.3% |
| 合計 | 60,543 | 49,341 | 100.0% | △18.5% |

中国40億ドル

(出所)ブラジル中央銀行

# 4. 対内直接投資

ブラジルの主要業種別対内直接投資　　（単位：百万ドル）

| | 2012年 | | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 農業，畜産，鉱業（その他も含む） | 6,528 | 10.8% | 9,990 | 20.2% | 53.0% |
| 石油・天然ガス採掘 | 3,679 | 6.1% | 7,131 | 14.5% | 93.8% |
| 鉱物採掘サービス | 597 | 1.0% | 1,213 | 2.5% | 103.1% |
| 工業（その他も含む） | 22,206 | 36.7% | 15,218 | 30.8% | △31.5% |
| 化学製品 | 1,871 | 3.1% | 2,009 | 4.1% | 7.4% |
| 自動車・トレーラー・車体 | 1,256 | 2.1% | 1,867 | 3.8% | 48.7% |
| 基礎冶金業〔注〕 | 5,311 | 8.8% | 1,493 | 3.0% | △71.9% |
| 食品 | 5,076 | 8.4% | 1,487 | 3.0% | △70.7% |
| 情報機器 | 713 | 1.2% | 1,414 | 2.9% | 98.3% |
| 医薬品・薬剤 | 1,575 | 2.6% | 1,089 | 2.2% | △30.9% |
| サービス業（その他も含む） | 31,444 | 51.9% | 23,876 | 48.4% | △24.1% |
| 商業（自動車除く） | 5,700 | 9.4% | 6,241 | 12.6% | 9.5% |
| 金融・同補助サービス | 4,900 | 8.1% | 2,952 | 6.0% | △39.8% |
| 運送 | 1,088 | 1.8% | 2,127 | 4.3% | 95.5% |
| 不動産 | 3,649 | 6.0% | 2,005 | 4.1% | △45.0% |
| 保険 | 4,640 | 7.7% | 1,933 | 3.9% | △58.3% |
| 電気・ガス | 2,061 | 3.4% | 1,544 | 3.1% | △25.1% |
| 非金融業による金融サービス | 815 | 1.3% | 909 | 1.8% | 11.6% |
| ビル建設 | 955 | 1.6% | 748 | 1.5% | △21.7% |
| インフラ | 689 | 1.1% | 648 | 1.3% | △5.9% |
| 不動産売買 | 364 | 0.6% | 258 | 0.5% | △29.1% |
| 合計 | 60,543 | 100.0% | 49,341 | 100.0% | △18.5% |

〔注〕製鉄業を含む。

（出所）ブラジル中央銀行

# 5. 対日貿易

## 輸出

（単位：百万ドル）

| | 2012年 | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 鉄鉱石 | 2,980 | 3,116 | 39.1% | 4.6% |
| 鶏肉 | 971 | 973 | 12.2% | 0.2% |
| トウモロコシ | 815 | 901 | 11.3% | 10.6% |
| コーヒー豆 | 561 | 455 | 5.7% | △18.9% |
| アルミニウム合金 | 432 | 409 | 5.1% | △5.3% |
| | 361 | 339 | 4.3% | △6.1% |
| 大豆 | 297 | 329 | 4.1% | 10.8% |
| パルプ | 120 | 119 | 1.5% | △0.8% |
| 大豆かす | 92 | 114 | 1.4% | 23.9% |
| 航空機 | 28 | 112 | 1.4% | 300.0% |
| その他 | 1,299 | 1,098 | 13.8% | △15.5% |
| 合計 | 7,956 | 7,965 | 100.0% | 0.1% |

## 輸入

（単位：百万ドル）

| | 2012年 | 2013年 | | |
|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 自動車・トラクター部品 | 680 | 687 | 9.7% | 1.0% |
| 乗用車 | 536 | 420 | 5.9% | △21.6% |
| 測定機器等 | 284 | 322 | 4.5% | 13.4% |
| 自動車エンジン部品 | 328 | 288 | 4.1% | △12.2% |
| ベアリング・歯車及びそれら部品 | 304 | 273 | 3.9% | △10.2% |
| 鉄鋼製品 | 121 | 208 | 2.9% | 71.9% |
| 半導体 | 217 | 202 | 2.9% | △6.9% |
| 塩化硫化化合物 | 182 | 188 | 2.7% | 3.3% |
| ﾎﾟﾝﾌﾟ・ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ・換気扇等部品 | 164 | 159 | 2.2% | △3.0% |
| 燃料 | 89 | 152 | 2.1% | 70.8% |
| その他 | 4,830 | 4,183 | 59.1% | △13.4% |
| 合計 | 7,735 | 7,082 | 100.0% | △8.4% |

（出所）開発商工省貿易局（SECEX）、ブラジル中央銀行

# 6. まとめ

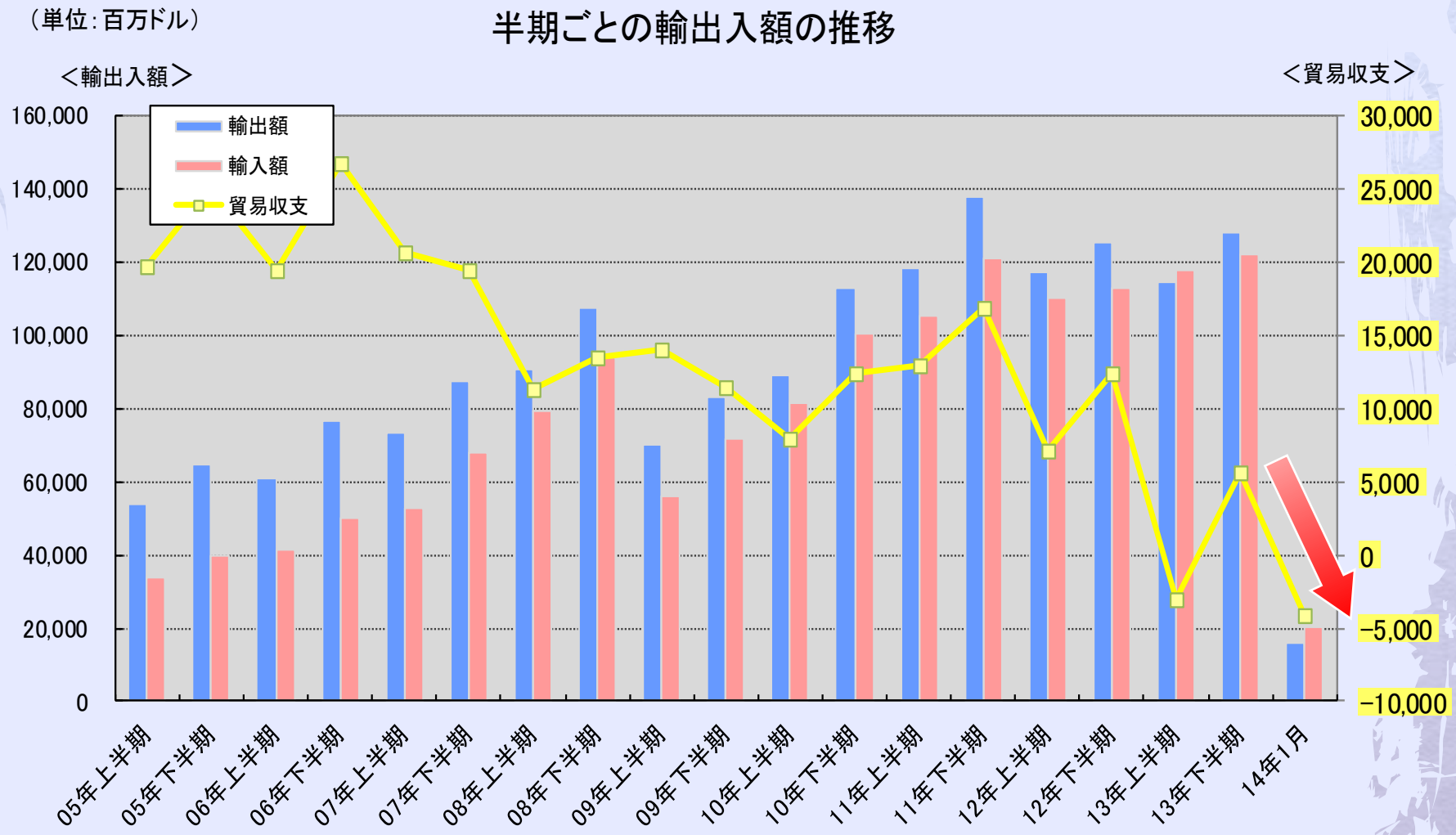
## 2013年総括

（単位：億ドル）

| 上期 | 2012年 | （前年比） | 2013年 | （前年比） |
|---|---|---|---|---|
| 輸出総額 | 1,172 | ▲1% | 1,144 | ▲2% |
| 輸入総額 | 1,101 | ＋5% | 1,175 | ＋7% |
| 貿易収支 | ＋71 | ▲45% | ▲ 31 | － |
| **通期** | **2012年** | **（前年比）** | **2013年** | **（前年比）** |
| 輸出総額 | 2,426 | ▲5% | **2,422** | **▲0%** |
| 輸入総額 | 2,231 | ▲1% | **2,396** | **＋7%** |
| 貿易収支 | ＋194 | ▲35% | **＋26** | **▲87%** |

⇒ 2013年は年初から赤字が続き、上半期で▲31億ドルの赤字、11月までの累計でも▲1億ドルの赤字で、通期赤字転落が懸念されたが、12月単月で＋27億ドルの黒字となり、なんとか通期黒字＋26億ドルを確保。

# 6. まとめ




（出所）開発商工省貿易局（SECEX）

# ご清聴ありがとうございました。

# 化学品 部会

友納　睦樹　部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Mutsuki  Tomono

# 化学品部会

## 2013年の回顧と2014年の展望

副題：**「～どうしたブラジル経済-W杯と総選挙のインパクト～」**

2014年2月20日

# 化学品部会　会員会社へアンケート実施

Principal

Adeka Brasil
Daicolor do Brasil
Fertilizantes Mitsui
FUJIFILM do Brasil
Harima do Brasil
Hisamitsu Farmacêutica do Brasil
Kaneka South America
K-I Chemical do Brasil
Kuraray South America
Kurashiki Chemical do Brasil
Kurita do Brasil
Mitsui Chemicals do Brasil
Nagase do Brasil
Nisso Brasileira
Otsuka Ind.Prods.Químicos
Pentel do Brasil
Pilot Pen  do Brasil
Rhoto do Brasil
Shiseido do Brasil
Sumitomo Chemical do Brasil
Takasago Fragrâncias e Aromas
Three Bond do Brasil
Toyo Ink Brasil
UBE Latin America
Unicharm do Brasil

Azbil do Brasil
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil
Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro
Bridgestone do Brasil
Celulose Nipo-Brasileira (Cenibra)
EPCOS do Brasil (TDK)
Idemitsu Lube South America
Itochu Brasil
JX Nippon Oil & Energy do Brasil
Kito do Brasil
Marubeni Brasil
Midori Atlântica Brasil
Mitsubishi Corporation do Brasil
Mitsui & Co. (Brasil)
Miura Boiler do Brasil
Nitto Denko América Latina
Okaya do Brasil
Sociedade Coml. Toyota Tsusho
Sojitz do Brasil
Sumitomo Corporation do Brasil
Toray do Brasil
Transportadora Proauto (NKS)
Ueno Profit Assessoria

会員会社48社
28社から31回答

回答を得た会員会社のうち3分の1が、この3年間にブラジルで創業している。

| ブラジル創業年 | 会社数 |
|---|---|
| 1930-1939 | 1 |
| 1940-1949 | 0 |
| 1950-1959 | 4 |
| 1960-1969 | 0 |
| 1970-1979 | 8 |
| 1980-1989 | 1 |
| 1990-1999 | 0 |
| 2000-2009 | 4 |
| 2010-2013 | 9 |
| | 27 |

# 31回答の分類

| 工業材料<br>14回答 | 消費財製品<br>9回答 | 農業・畜産<br>6回答 | 石油製品<br>2回答 |
|---|---|---|---|
| 合成樹脂<br>合成繊維<br>樹脂フイルム<br>高機能ファイバー<br>化成品中間体<br>樹脂用着色剤<br>接着剤・シール材<br>ロジン・誘導体<br>水処理薬品<br>自動車用内装部品 | 化粧品<br>一般医薬品<br>香料・香粧品<br>瞬間接着剤<br>筆記具・文房具<br>医療用フイルム<br>印刷用刷版<br>印刷用インキ | 農薬<br>飼料添加物 | 潤滑油等 |

工業材料の主たる取引先業界
自動車、電子機器、食品、化粧品、医薬品、薬品、製紙、建築材料等

# 31回答の分類

| 工業材料 | 消費財製品 | 農業・畜産 | 石油製品 |
|---|---|---|---|
| Daicolor | Fujifilm | K-I Chemical | Idemitsu |
| Harima | Hisamitsu | Mitsui Chemical | JX |
| Itochu | Pentel | Nisso | |
| Kaneka | Pilot Pen | Sumitomo Chemical | |
| Kuraray | Rhoto | Sumitomo Corp. | |
| Kurita | Shiseido | | |
| Kurashiki Chemical | ThreeBond | | |
| Mitsui Chemical | Takasago Fragrancias | | |
| Mitsubishi Corp. | TOYO Ink | | |
| Nagase | | | |
| Sumitomo Chemical | | | |
| ThreeBond | | | |
| Toray | | | |
| UBE | | | |

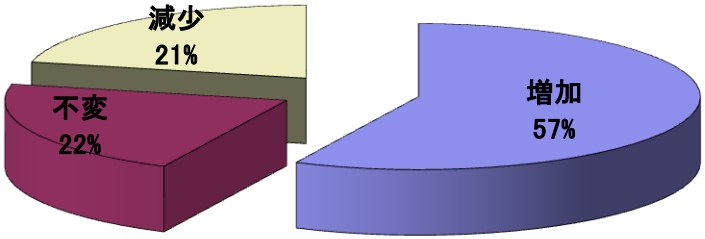
# 化学品部会合計

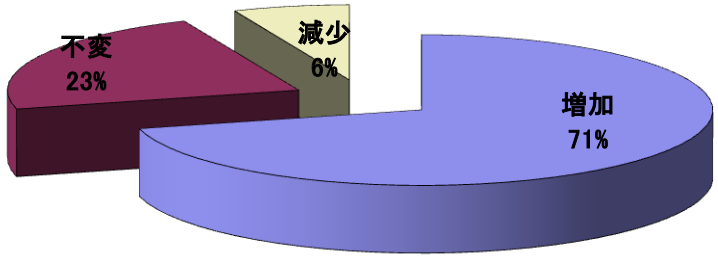
## 2013年の回顧と2014年の展望

2013年　前年比実績

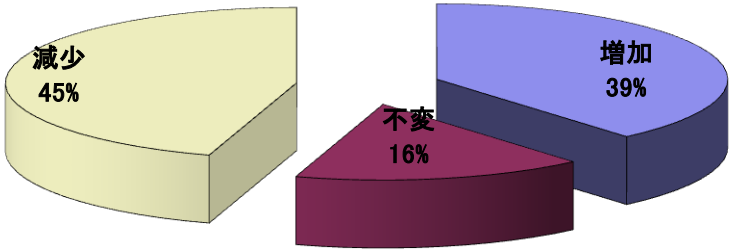
2014年　前年比予測

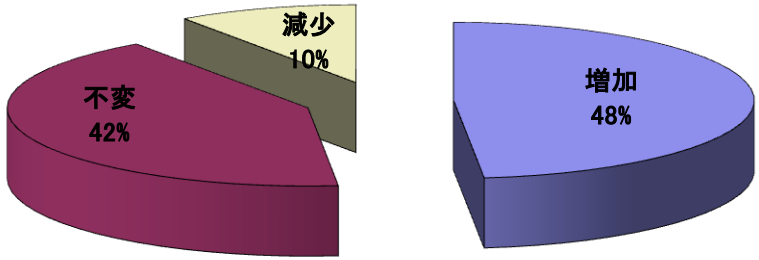
**売上**

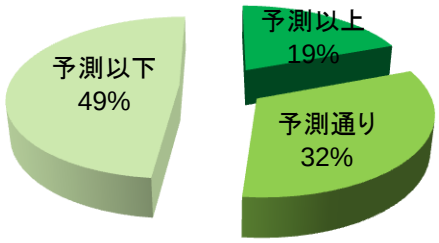



**利益**




31回答

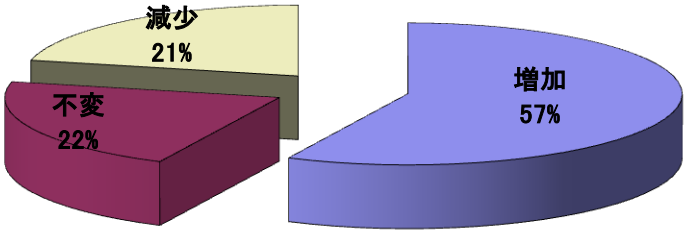
# 工業材料

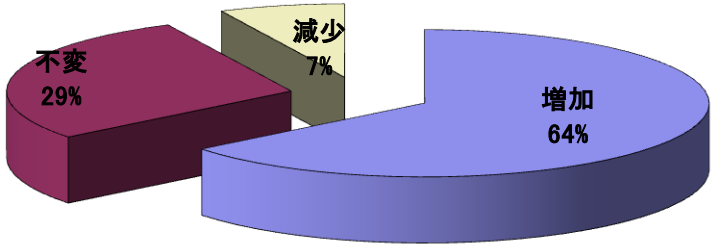
## 2013年の回顧と2014年の展望

### 2013年　前年比実績

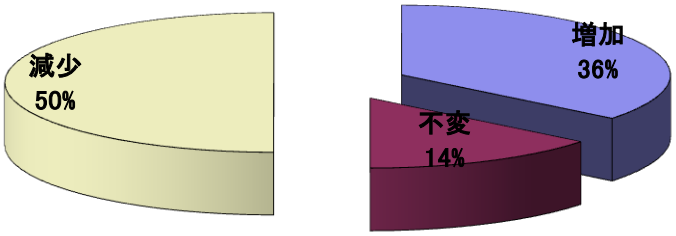
### 2014年　前年比予測

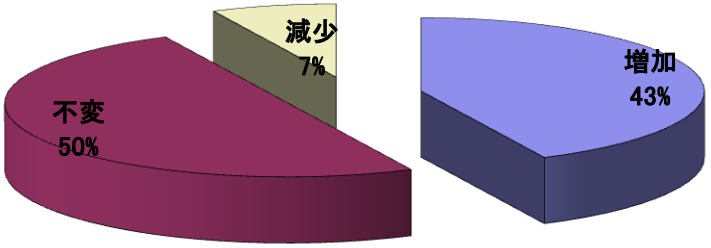
**売上**

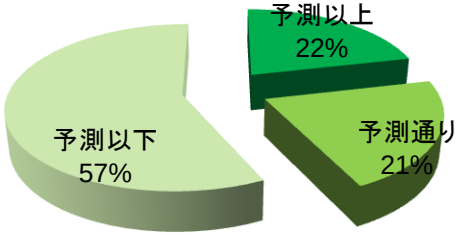



**利益**




14回答

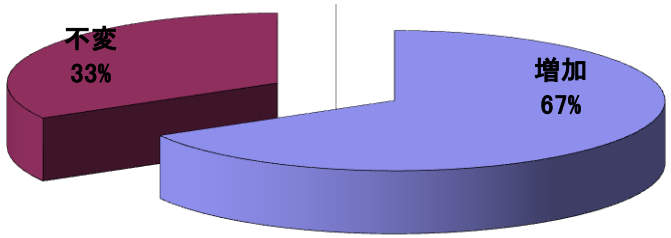
# 消費財製品

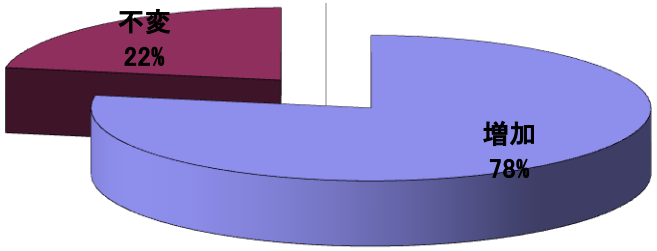
## 2013年の回顧と2014年の展望

2013年　前年比実績

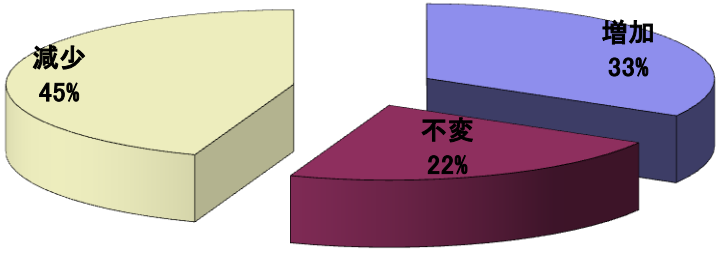
2014年　前年比予測

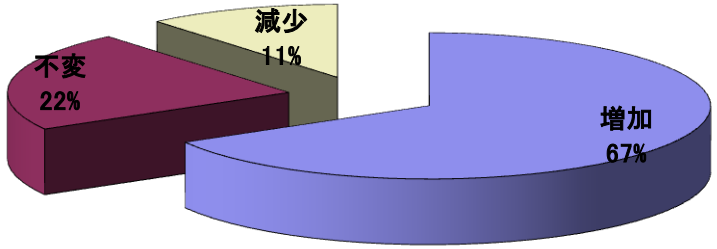
**売上**

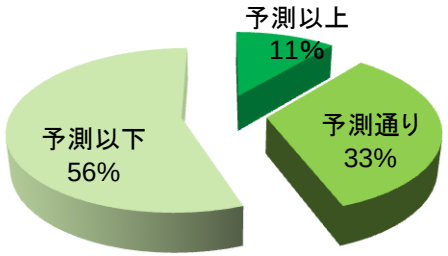



**利益**




9回答

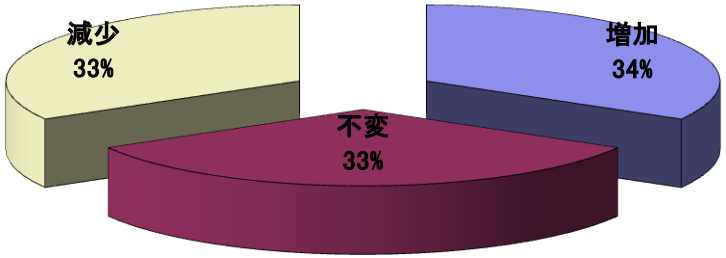
# 農業･畜産

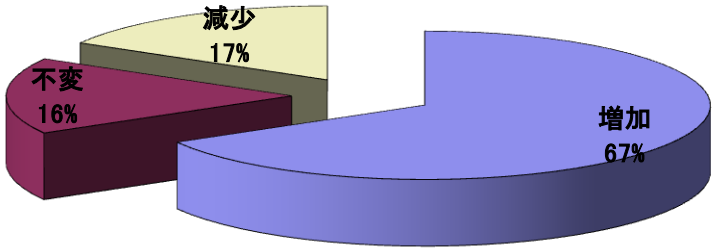
## 2013年の回顧と2014年の展望

2013年　前年比実績

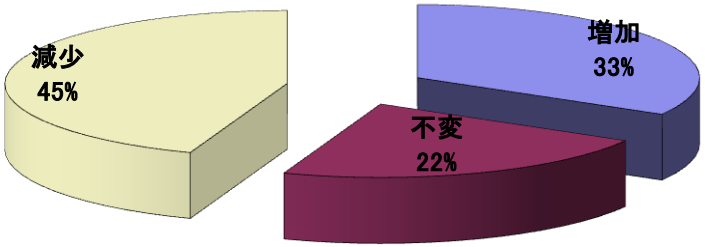
2014年　前年比予測

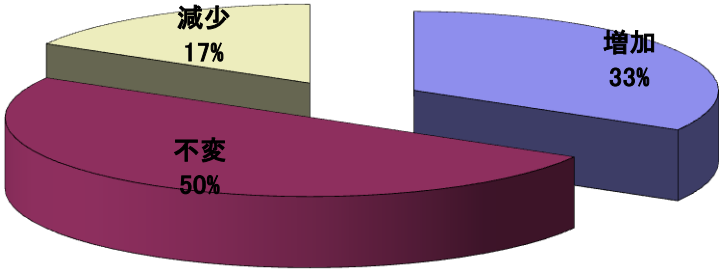
**売上**

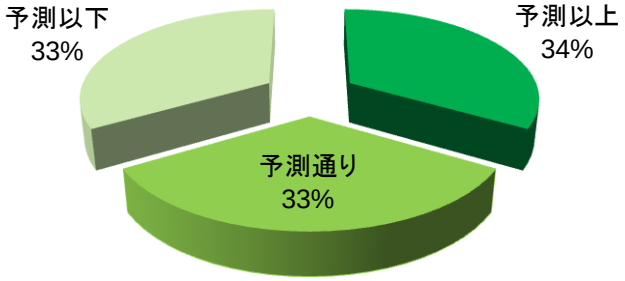



**利益**




6回答

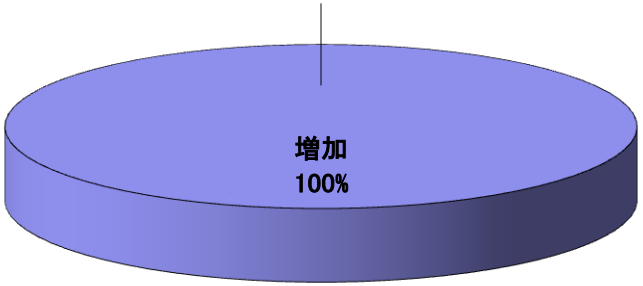
# 石油製品

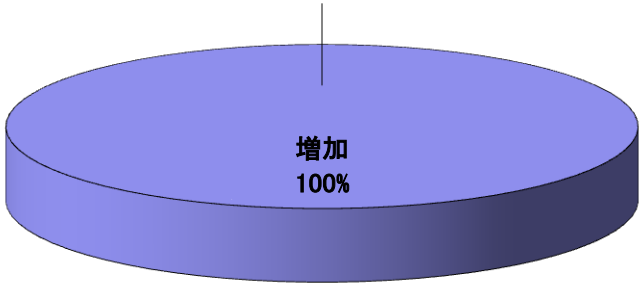
## 2013年の回顧と2014年の展望

2013年　前年比実績

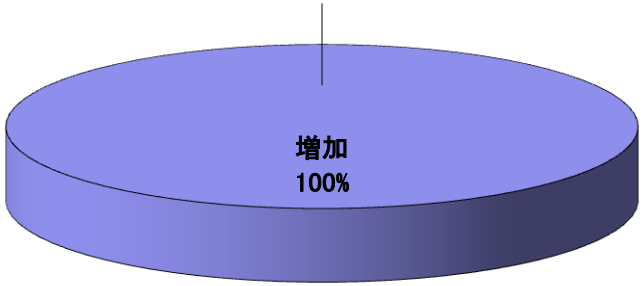
2014年　前年比予測

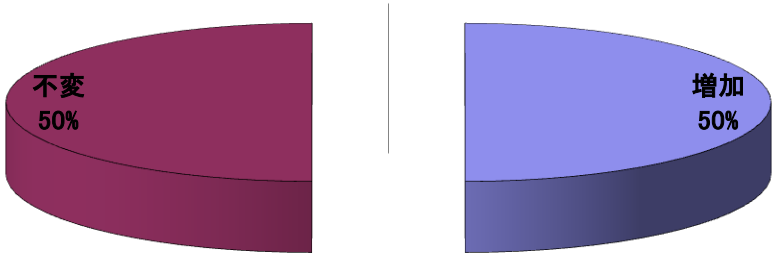
売上

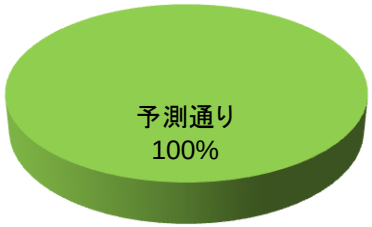



利益




2回答

# 2013年の回顧と2014年の展望

工業材料、消費財製品、石油製品

1. 景気減退により販売の伸びは鈍化しているものの、市場は拡大しており増販を期待している。
2. レアル安の進行によりUSドル建、EURO建輸入製品/材料のコストが上昇し、利益を圧迫
3. 人件費、現地調達材料コスト、各種経費がインフレにより上昇し利益を圧迫
4. 高金利の負担が経営を圧迫
5. アジア等からの安価品輸入が増え、価格競争が激化
6. レアル安とインフレによるコスト高の販売価格への転嫁が困難

# 2013年の回顧と2014年の展望

工業材料、消費財製品、石油製品（つづき）

7. 国内産業が疲弊して投資を抑制しているため減販
8. 好調な自動車業界向の原材料売上伸長
9. 低調な二輪業界向の原材料売上減少
10. 円安により価格競争力が上昇
11. 売掛金の焦げ付きが増加
12. 専門知識を持つ有能な人材の確保が困難
13. 高関税により国内産品に対して価格競争力低い
14. 法規制が事前通知なく変更され、輸入通関で長期間滞貨するケースあり。
15. ANVISAの審査に極めて時間を要し、新製品の発売が中々出来ない。

# 2013年の回顧と2014年の展望

農業・畜産

1. 農産物作付面積が増加
2. 主要農産物価格が高止まり
3. 経済成長、人口増により食肉需要が増加
4. 健康志向が強まり、鶏肉消費が増加
5. 円安により欧米製競合品に対し価格競争力が上昇
6. ワタは価格低迷により作付面積が低下
7. サトウキビ産業は低迷
8. 品種改良により選択性除草剤の需要減少
9. アジアからの安値品輸入が増え、競争が激化

# どうしたブラジル経済　－　W杯と総選挙のインパクト

回答：27社

W杯開催による事業へのインパクトは殆ど無い　　44%

総選挙による事業へのインパクトは殆ど無い　　63%

# どうしたブラジル経済 – W杯と総選挙のインパクト

## 2014年World Cup Soccer開催による事業へのインパクト

1. 取引先の工場の稼動日が減り売上が減少
2. 交通混乱による物流等業務への支障を懸念
3. 航空券、ホテル高騰で出張に支障あり。海外からの出張者受入が困難
4. スタジアム、ホテル等の増改築に伴う建築関連製品の出荷増を想定していたが、予想外に低迷
5. 印刷物やサイングラフィーの需要が高まりインクの販売が増加
6. World Cup Soccerによる電気製品（特にTV）の需要増大による原材料の販売増
7. 国外からの来訪者が増えることで食糧、および防疫の需要が高まり、農薬、家庭用殺虫剤有効成分、公衆衛生薬、養鶏・卵用飼料添加物の販売増が見込める。

# どうしたブラジル経済　–　W杯と総選挙のインパクト

## 2014年ブラジル総選挙による事業へのインパクト

1. 選挙前は現政府によるばらまき政策や貧困層への優遇で個人消費の拡大につながり事業に好影響
2. 交通･通信等インフラへの公共投資により雇用創出
3. 選挙後は財政緊縮によりブラジル経済が停滞し需要減退の悪循環に陥る。
4. 新政府発足後の経済政策（税制や為替市場統制）如何で事業経営に影響を受ける可能性あり。
5. 選挙に向けて、印刷物およびサイングラフィーの需要が高まり、インクの販売が増加
6. 大統領選挙の前は医療関連製品の公共入札が凍結されるため売上が急減

ご清聴ありがとうございました。

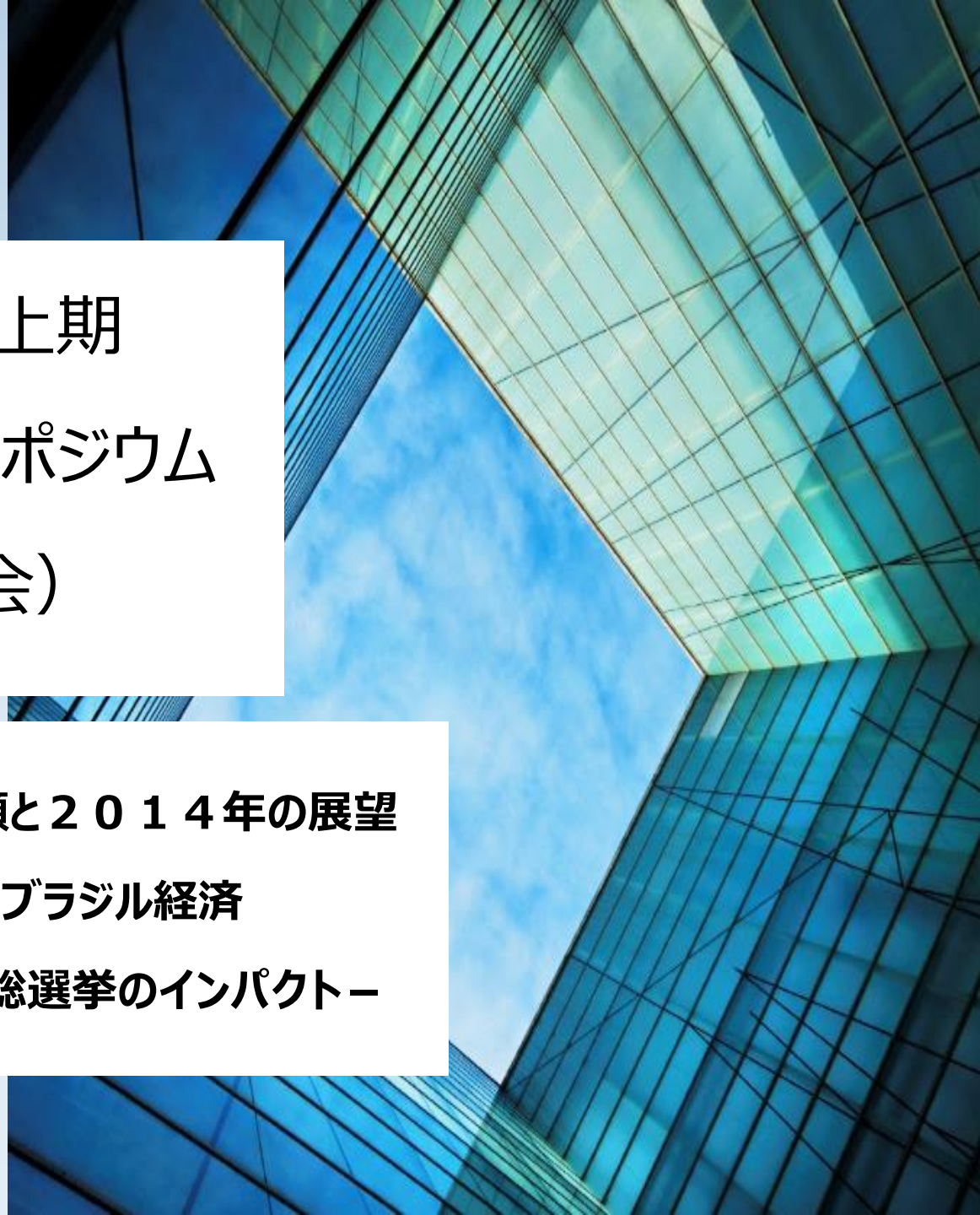
化学品部会

# 繊維 部会

## 上野　秀雄　部会長

## Departamento de Fiação e Tecelagem

## Presidente: Hideo  Ueno



# ２０１４年度上期
# 業種別部会長シンポジウム
# （繊維部会）

**２０１３年の回顧と２０１４年の展望**

**どうしたブラジル経済**

**－W杯と総選挙のインパクト－**

# 綿花について

（繊維部会）

## 世界綿花需給予想

2014年1月10日　米農務省発表

単位：千ﾄﾝ

| | 世界 | | 中国 | | その他 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 12/13年度 | 13/14年度 | 12/13年度 | 13/14年度 | 12/13年度 | 13/14年度 |
| 季初在庫 | 15,964 | 19,414 | 6,767 | 10,965 | 9,197 | 8,449 |
| 生産 | 26,797 | 25,650 | 7,620 | 7,185 | 19,177 | 18,465 |
| 輸入 | 10,004 | 8,372 | 4,426 | 2,395 | 5,578 | 5,977 |
| 消費 | 23,159 | 23,840 | 7,838 | 7,838 | 15,321 | 16,002 |
| 輸出 | 10,168 | 8,376 | 10 | 11 | 10,158 | 8,365 |
| 季末在庫 | 19,414 | 21,252 | 10,965 | 12,695 | 8,449 | 8,557 |

在庫率 84%

在庫 89%

+ 9.5%

# 綿花について

（繊維部会）

## ブラジル国内綿花需給予想

CONAB　2014年1月度発表

単位：千ﾄﾝ

| | 2013年実績 | 2014年予想 |
|---|---|---|
| 季初在庫 | 500 | 370 |
| 生産 | 1,310 | 1,634 |
| 輸入 | 20 | 25 |
| 消費 | 887 | 920 |
| 輸出 | 573 | 540 |
| 季末在庫 | 370 | 569 |

# テキスタイルについて

（繊維部会）

## テキスタイルの輸入実績

金額(FOB)：百万ドル，重量：千ﾄﾝ

| | 2012 | | 2013 | | 2012/2013 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 重量 | 金額 | 重量 | 金額増減(%) | 重量増減(%) |
| テキスタイル全体 | 1,528 | 292 | 1,515 | 300 | −0.9 | 2.7 |
| 綿 | 263 | 35 | 224 | 30 | −15.1 | −16.0 |
| 合繊 | 622 | 136 | 701 | 156 | 12.9 | 14.5 |
| 毛 | 14 | 1 | 11 | − | −27.4 | −39.7 |
| ニット | 483 | 101 | 448 | 97 | −7.2 | −4.6 |
| その他 | 146 | 19 | 131 | 17 | −10.3 | −10.5 |

# 縫製品について

（繊維部会）

縫製品の輸入実績

金額(FOB)：百万ドル，重量：千ﾄﾝ

| | 2012 | | 2013 | | 2012/2013 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 重量 | 金額 | 重量 | 金額増減(%) | 重量増減(%) |
| 縫製品全体 | 2,419 | 155 | 2,624 | 164 | 8.5 | 5.7 |
| アパレル | 2,177 | 115 | 2,376 | 123 | 9.1 | 6.4 |
| リビング用品 | 141 | 2 | 140 | 18 | -0.4 | -2.0 |
| その他 | 101 | 38 | 108 | 23 | 6.9 | -39.5 |

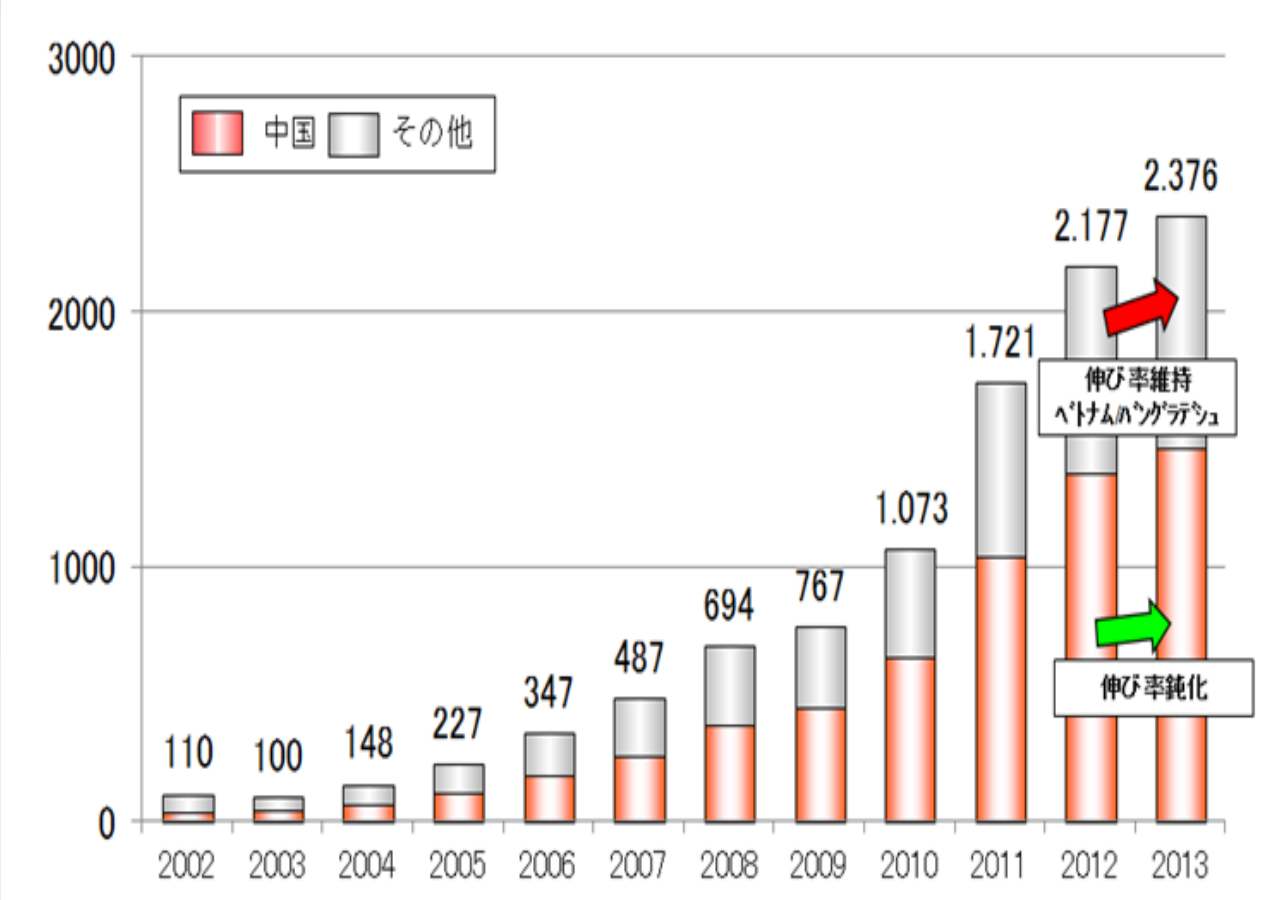
# 衣料について

（繊維部会）

## ブラジル衣料輸入実績

SOURCE：Alice Web

**金額（FOB）：百万ドル**



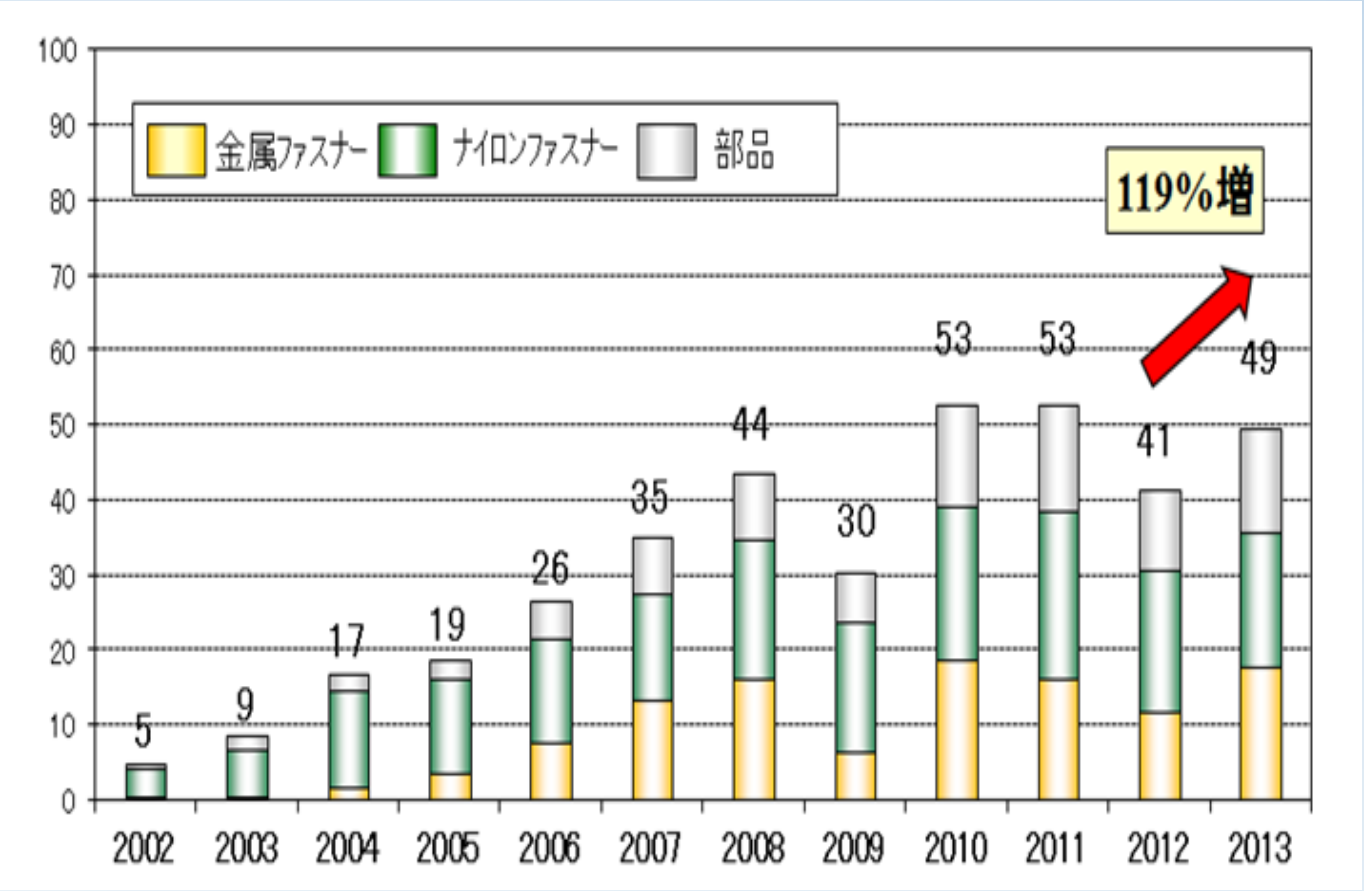
# 衣料について

（繊維部会）

## ブラジル　中国ファスナー輸入実績

SOURCE：中国YKK

**金額（FOB）　：百万ドル**



# まとめ

（繊維部会）

ブラジルの繊維メーカーは需要低迷・生産減に苦しんでいる

↓

ブラジルコストによる価格競争力の低下が大きな要因であるが
繊維産業自体のイノベーションの遅れも問題

↓

国際競争力を強化するための施策が急務

# ご清聴ありがとうございました。

# 建設不動産 部会

三上　悟　部会長

# Departamento de Construção e Imobiliária

Presidente: Satoshi  Mikami

# 建設不動産部会

## 2013年の回顧と2014年の展望
～どうしたブラジル経済－W杯と総選挙のインパクト～

１．　部会内の現状認識と取り巻く環境

２．　不動産市況の動向

３．　建設業界の現状と展望

４．　まとめ

# 1．部会内の現状認識と取り巻く環境

## 1-1）　アンケート結果

| | | 今年の展望 |
|---|---|---|
| 建設 | 10%以上受注増と好調な一年。<br>日系企業の投資が拡大傾向であったため、新規進出企業も多数あった。<br>非日系企業の案件では計画延期や凍結が多数あり。 | 日系企業の牽引により微増となる見込 |
| 不動産 | 日系企業の増加により取扱量増加。<br>賃貸物件の相場が高止まりの状況。 | 引き続き堅調に推移 |
| 特殊技術 | 引き続き絶好調。<br>専用機械の導入も人手不足傾向。 | 好調を持続 |
| 建材販売 | C･Dクラス向けのカード発行が追い風となり、10月以降は売上大幅増となった。 | 好調を持続 |

# 2．不動産市況の動向

## 2-1） サンパウロ近郊の地価 （2014年2月）（R$/㎡：1年間の上昇率）

Limeira
130~300：+40%

Jaguariúna
50~100：+40~50%

Piracicaba
130~300：+30~40%

Vinheiro/Jundiaí
350~480：+30%

Arujá
325~1300：+30%

Porto Feliz
150~280：+100%

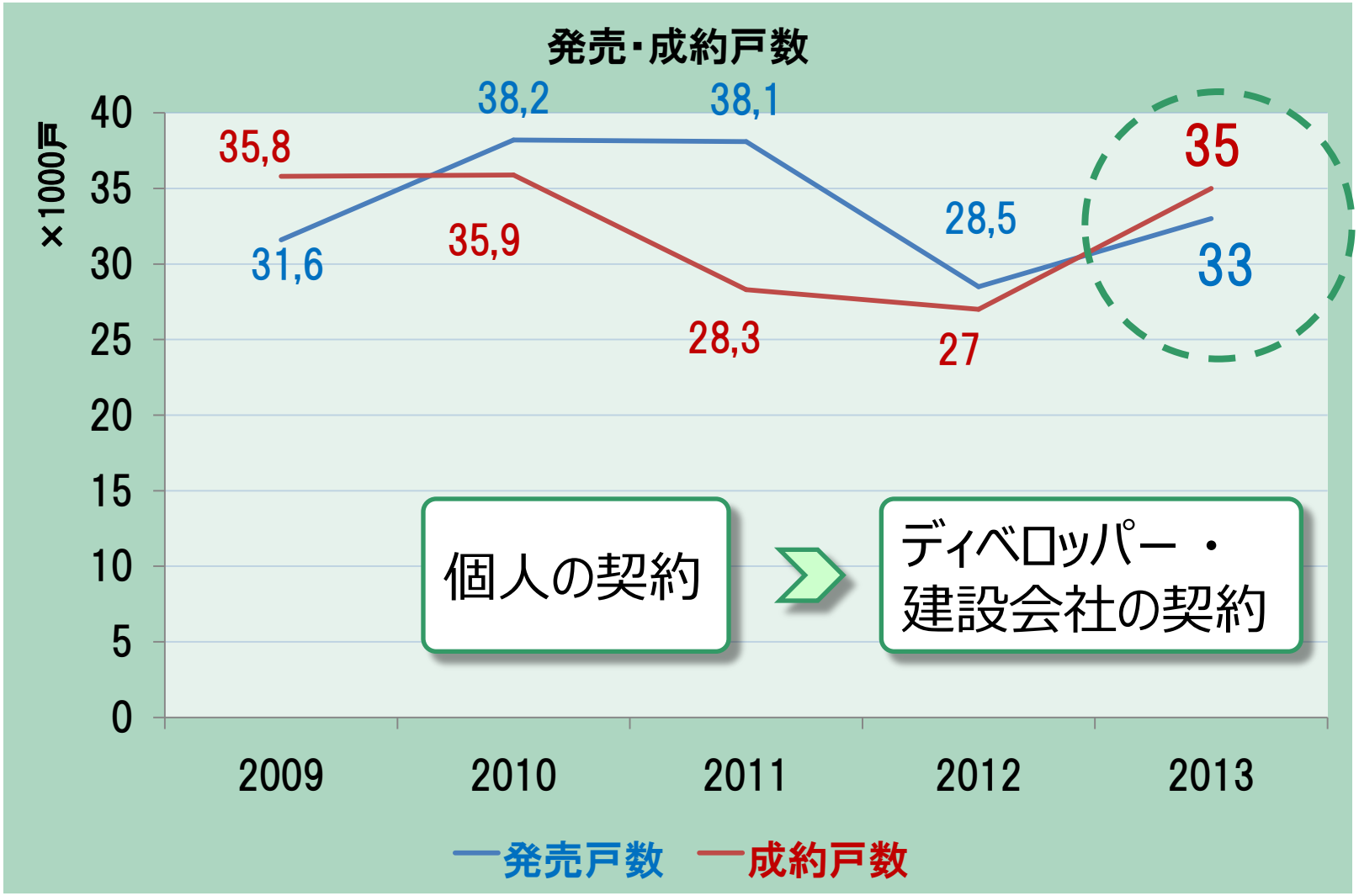
Salto/Itu/Sorocaba
120~290：+40~50%

Jacareí/Guararema
100~200：+30%

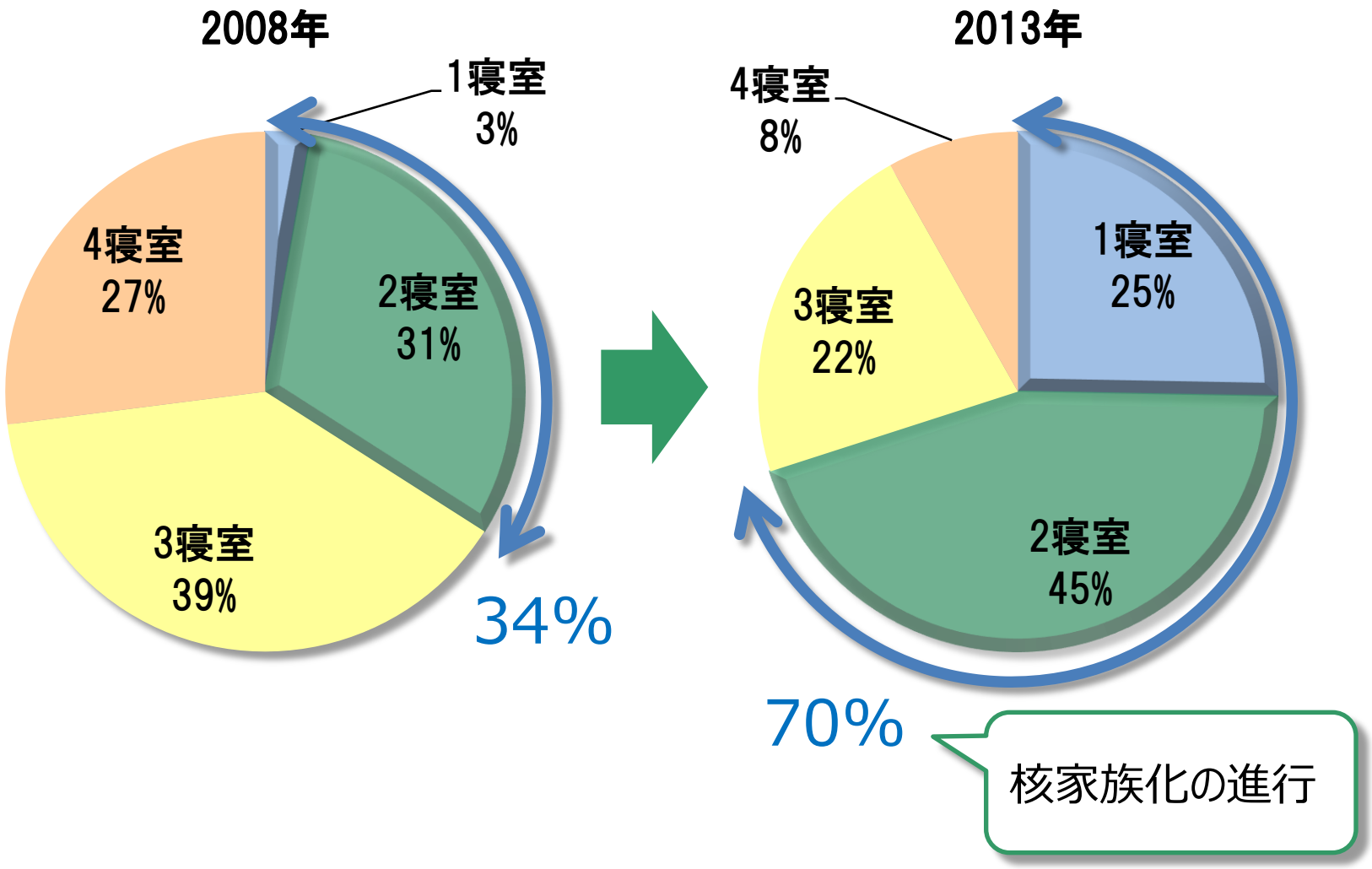
Mogi das Cruzes
130~325：+30%

企業の進出による価格上昇
上昇傾向は続く見込み

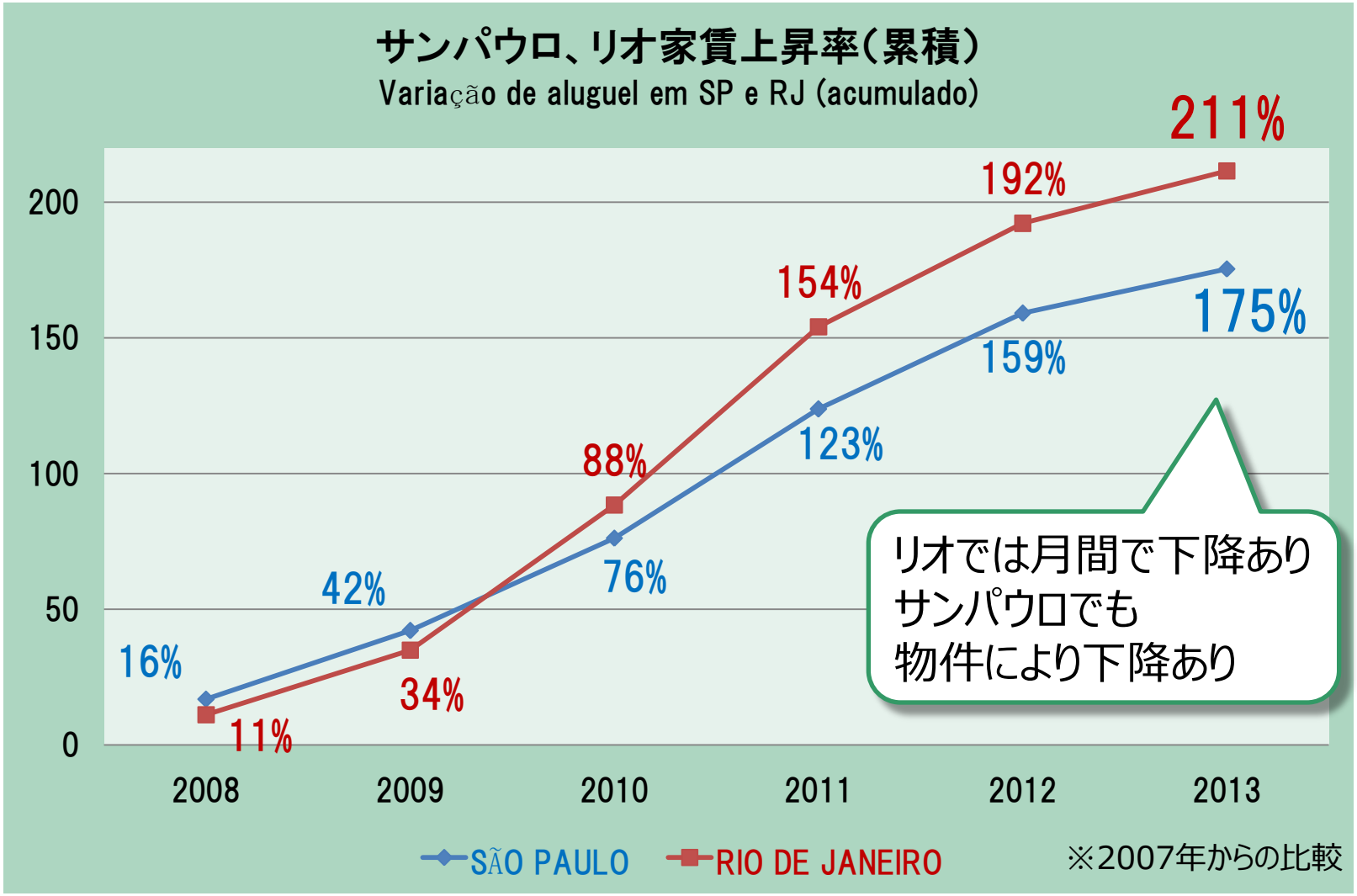
## 2-2）　分譲マンションの販売状況



## 2-3）　分譲マンションの間取りの傾向



## 2-4）　賃貸マンションの賃料推移



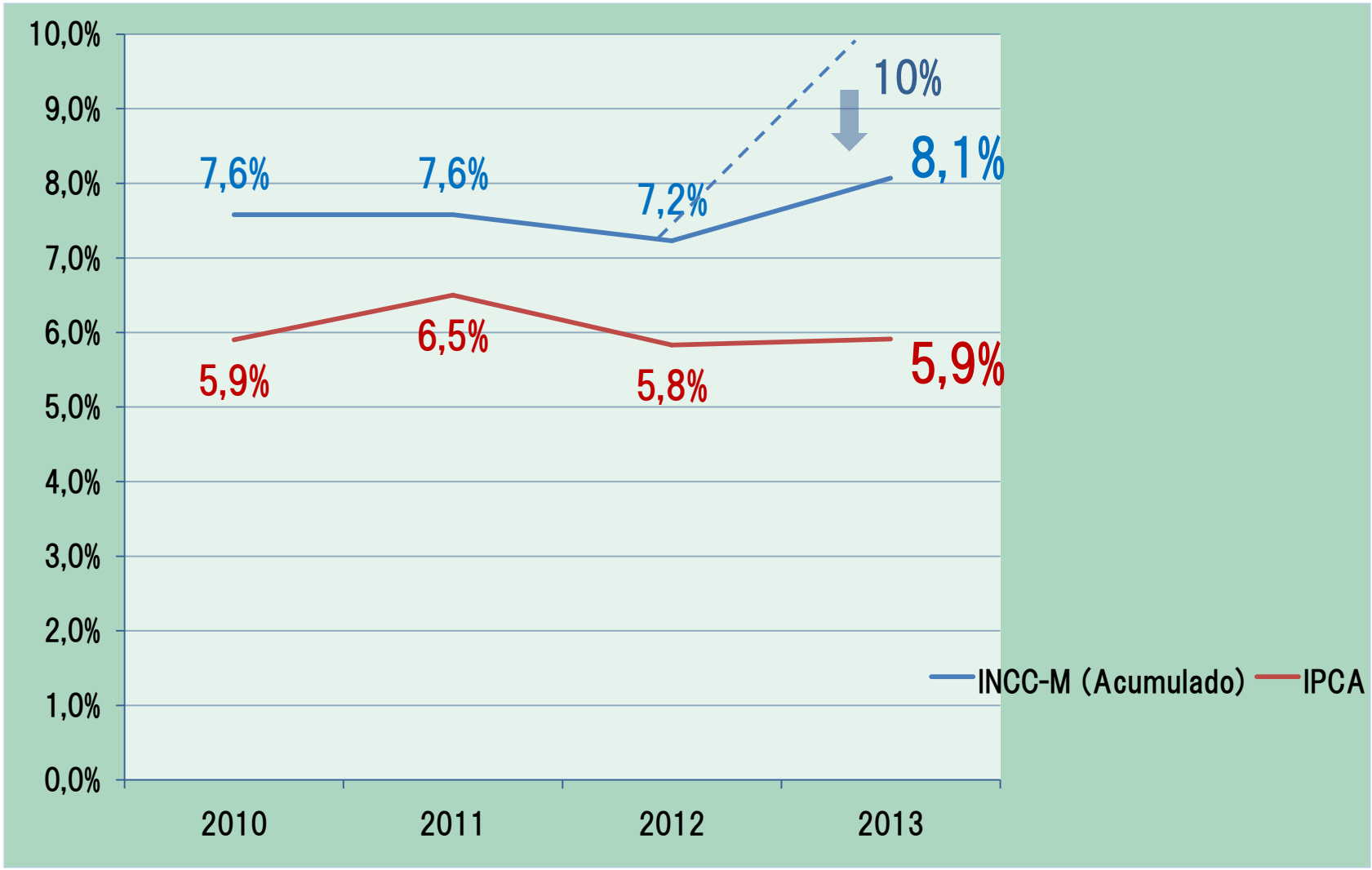
# 2．不動産市況の動向

## 2-5）　各都市のマンション賃料比較

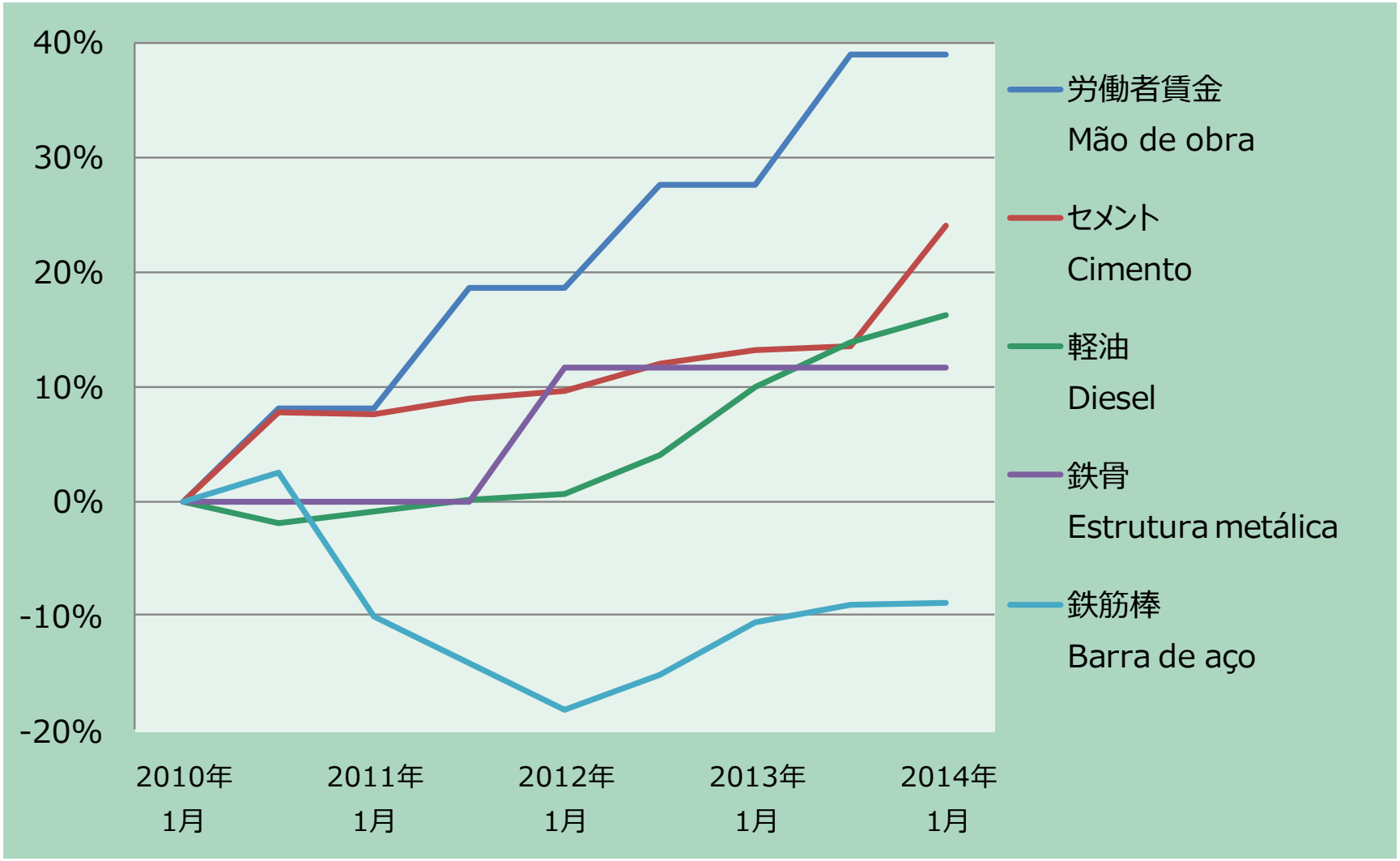
単位：上段：現地通貨、下段：円（中段は換算レート）

| 都市（上段）エリア（下段） | 現地通貨 | 2012.02 | 2012.06 | 2013.02 |
|---|---|---|---|---|
| 上海 | 元 | 22,000 | 22,000 | 24,000 |
| | | 12.1 | 12.3 | 14.6 |
| Putong | | 265,980 | 271,040 | 351,360 |
| 香港 | 香港ドル | 35,000 | 35,000 | 35,000 |
| | | 9.8 | 10.1 | 11.9 |
| North Point | | 343,700 | 353,150 | 415,450 |
| バンコク | バーツ | 75,000 | 75,000 | 75,000 |
| | | 3.0 | 2.5 | 3.1 |
| Langsuan, Lumphini | | 225,000 | 184,500 | 231,000 |
| シンガポール | シンガポールドル | 7,000 | 7,000 | 7,000 |
| | | 60.7 | 60.7 | 74.3 |
| Raffles Place | | 425,040 | 424,550 | 519,820 |
| デュッセルドルフ | ユーロ | 1,500 | 1,500 | 1,500 |
| | | 99.9 | 96.8 | 125.6 |
| Oberkassel, Niederkassel, Lörick | | 149,880 | 145,170 | 188,370 |
| ニューヨーク | ドル | 6,800 | 6,800 | 6,400 |
| | | 76.2 | 78.7 | 92.1 |
| Upper West-Manhattan | | 518,160 | 535,160 | 589,504 |
| サンパウロ | レアル | 8,000 | 9,000 | 10,000 |
| | | 43.7 | 39.0 | 46.3 |
| Paraíso, Jardim Paulista | | 349,680 | 350,820 | 462,600 |

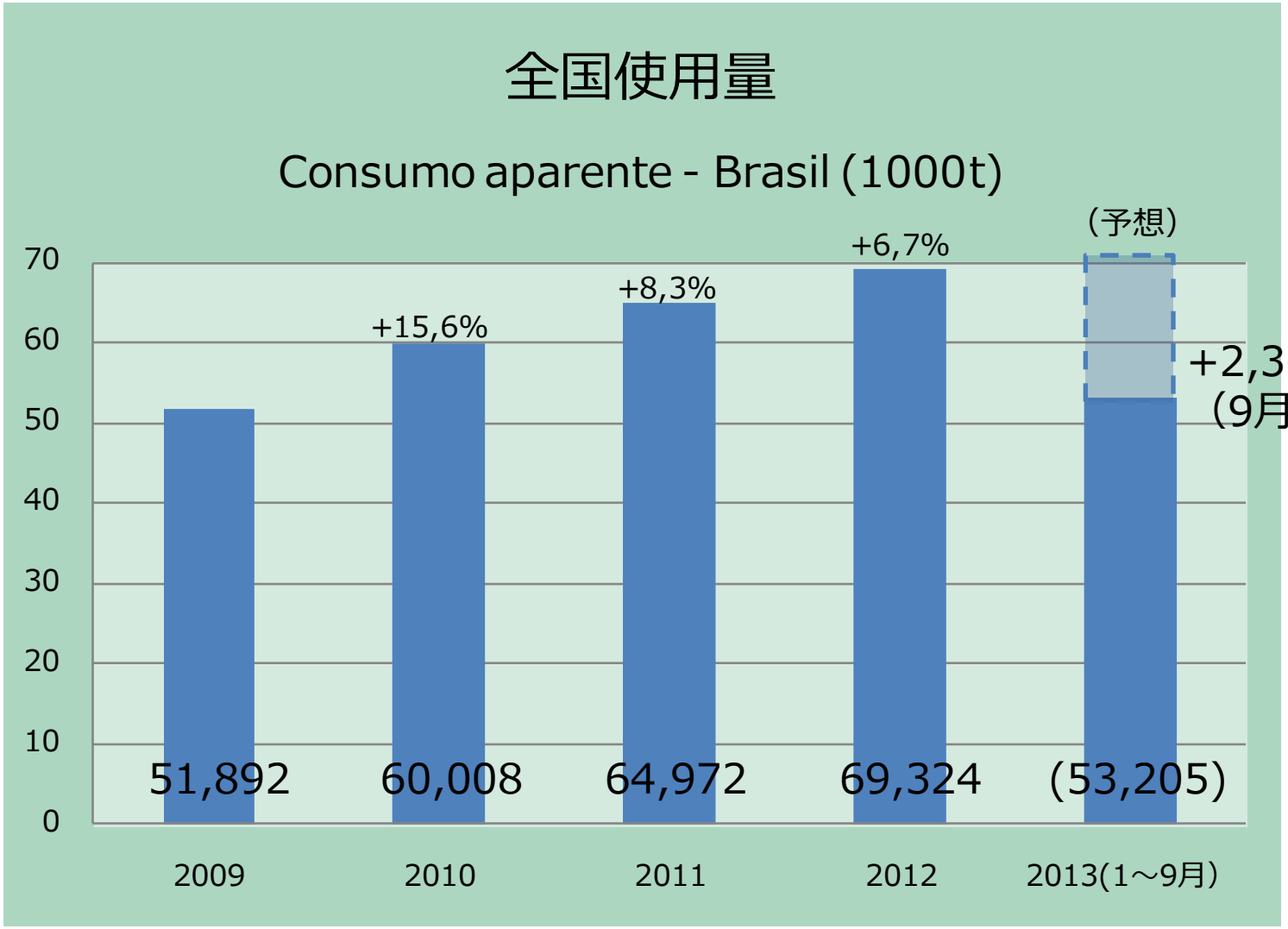
## 3-1）　建設物価


10,0%
9,0%
8,0%
7,0%
6,0%
5,0%
4,0%
3,0%
2,0%
1,0%
0,0%
7,6%
7,6%
7,2%
10%
8,1%
5,9%
6,5%
5,8%
5,9%
2010
2011
2012
2013
INCC-M (Acumulado)
IPCA

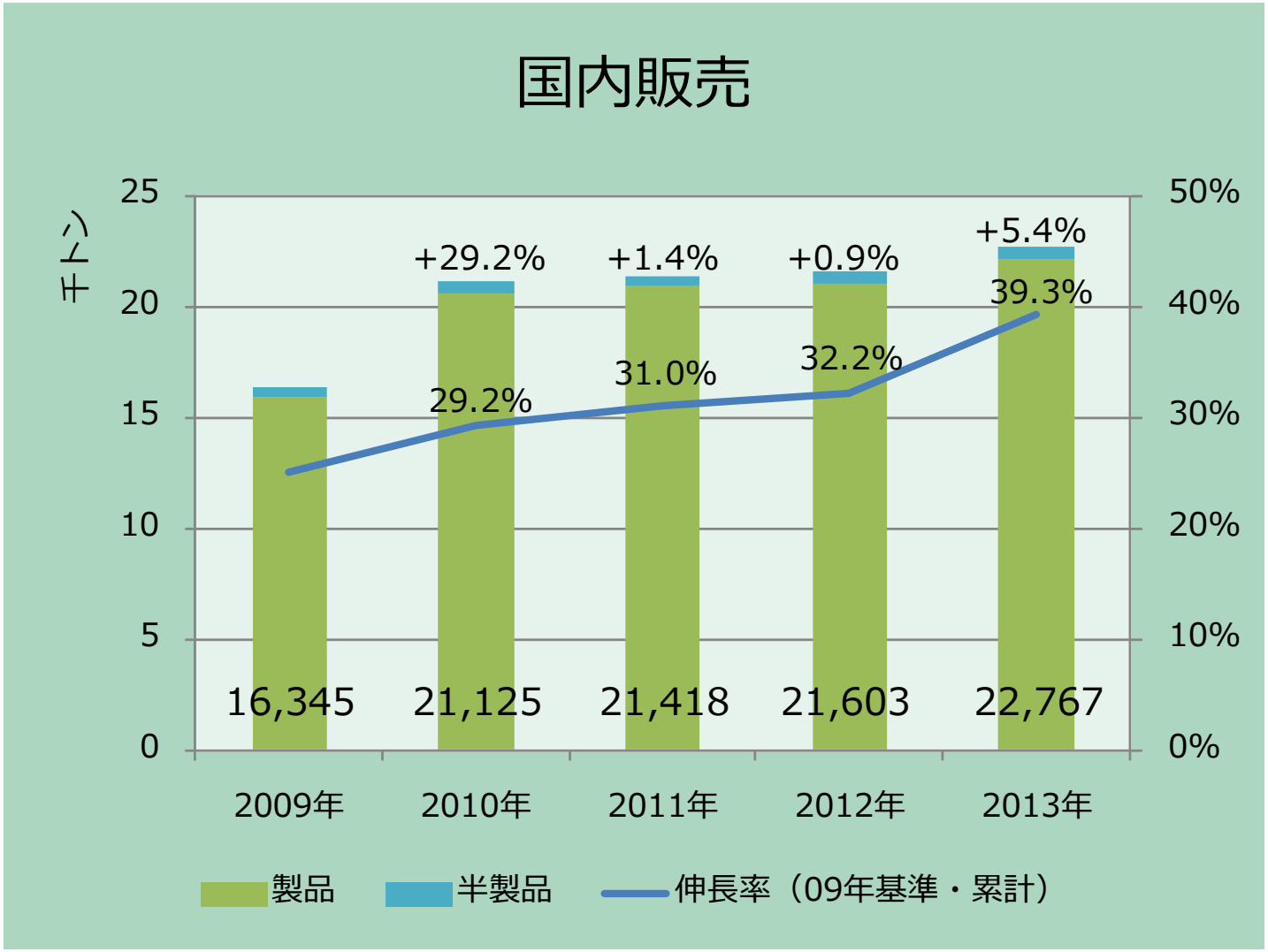
## 3-2） 建設資材価格の動向（2010年1月基準）



## 3-3）　建設部門活況度（セメント）



## 3-4）　建設部門活況度（鋼材）



## 3-5）　建設部門活況度（国別比較）

人口一人当たり見掛消費量

（単位：kg）

| | 鋼材（2010年） | セメント（2012年） |
|---|---|---|
| インドネシア | 37 | 227 |
| インド | 52 | 195 |
| ベトナム | 141 | 512 |
| トルコ | 320 | 785 |
| メキシコ | 140 | 310 |
| ブラジル | 133 | 286 |
| タイ | 202 | 386 |
| アメリカ | 292 | 258 |
| ドイツ | 500 | 333 |
| 日本 | 539 | 340 |

| | | |
|---|---|---|
| 中国 | 427 | ※1594 |

※国際規格外を含む

# 4．まとめ

▪サンパウロ周辺域での土地価格高騰の継続
▪市内中心部での土地価格上昇から横ばいへ
▪事務所・マンションなどの新築件数停滞

→ 土地価格や賃貸価格について継続して注視

▪許認可業務の簡易化・スピードアップ
▪競争力のある鉄骨価格への推進
▪選挙等による行政業務滞留の改善

→ 部会として法改正などの改善を当局へ要望することを検討

# 食品 部会

## 山口　修一　部会長

## Departamento de Gêneros Alimentícios

## Presidente: Shuichi　Yamaguchi

# 2013年の回顧と2014年の展望

## 業種別部会長シンポジウム

ブラジル日本商工会議所
食品部会
2014年2月20日（木）

# 目次

- 部会各社の動向
- 原料動向
- まとめ
- 副題

  どうしたブラジル経済

  - W杯と総選挙のインパクト

# 部会各社の動向： 2013年の回顧-1

| 分野 | 2013年の回顧 | 結果の分析 |
|---|---|---|
| 調味料製造 | 数量7%増 | 地道な営業活動と25周年キャンペーン奏功 |
| 乳酸飲料 | 数量6%増 | 宅配販売活動の奏効<br>主要製品の値上げ |
| インスタントコーヒー販売 | 数量微増<br>金額5.4%減 | レアル安で輸出好調<br>相場は下落傾向 |
| 製菓用油脂 | 数量2倍増 | ココアバターの高騰に伴う切替えが盛ん |
| 清酒 | 年間目標達成 | 日本食材が牽引<br>低価格品の参入 |

# 部会各社の動向： 2013年の回顧-2

| 分野 | 2013年の回顧 | 結果の分析 |
|---|---|---|
| 醤油 | 数量約20%増 | 2次店の販売力不足<br>工業用での拡販 |
| 即席めん | 数量5～6%増 | Y世代での消費増加<br>新興市場での成長 |
| 添加物 | 前年比変わらず | 市場で変動なし |
| 種子 | 売上7.2%増 | 種子市場拡大傾向<br>バイオメジャー競争激化 |
| 香料 | 売上16%増 | 多国籍企業向け好調<br>レアル安での原料高 |

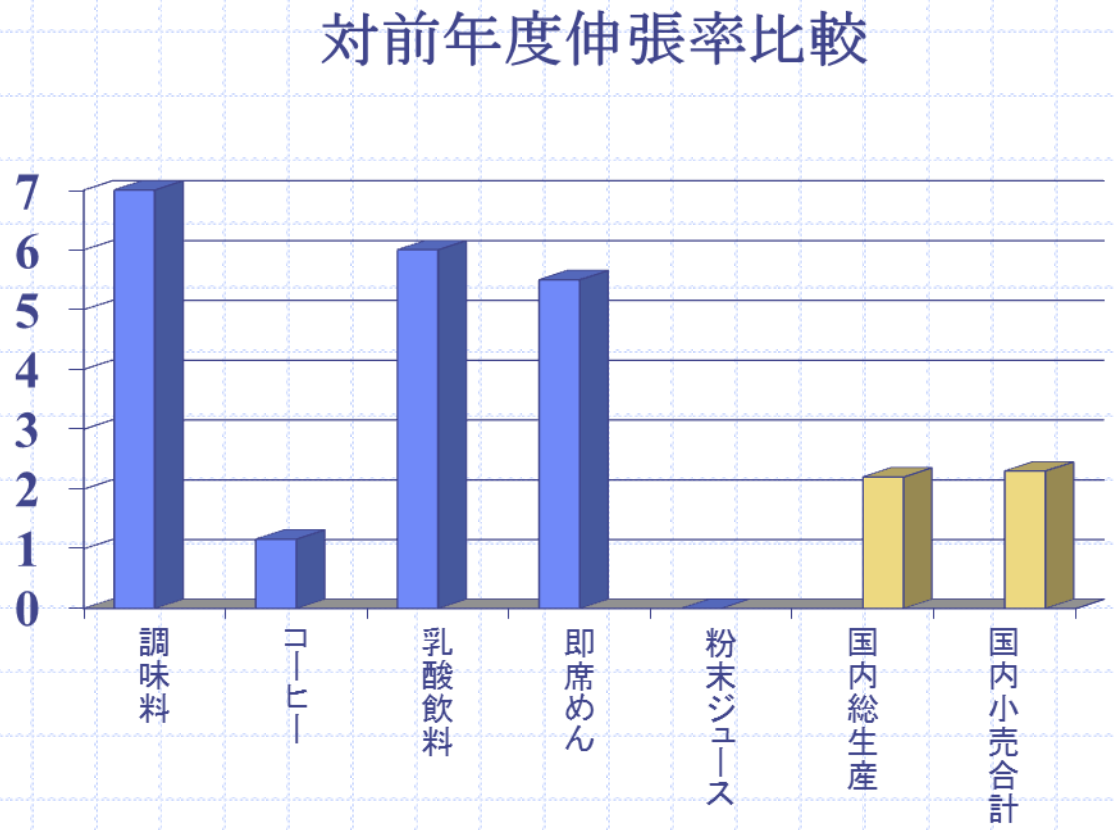
# 部会各社の動向： 2014年上期の展望-1

| 分野 | 2014年上期の展望 | コメント |
| --- | --- | --- |
| 調味料製造 | 前年比2桁以上増 | リテール向け営業活動<br>新製品投入、海外事業 |
| 乳酸飲料 | 発酵乳製品5%強増 | 販売組織の育成、強化<br>地方での拡販 |
| インスタントコーヒー販売 | 輸出は継続好調 | レアル安で輸出好調<br>価格競争の激化 |
| 製菓用油脂 | 前年比2桁増 | 代替脂需要が旺盛 |
| 清酒 | 目標達成に全力 | 営業力の強化<br>コスト削減 |

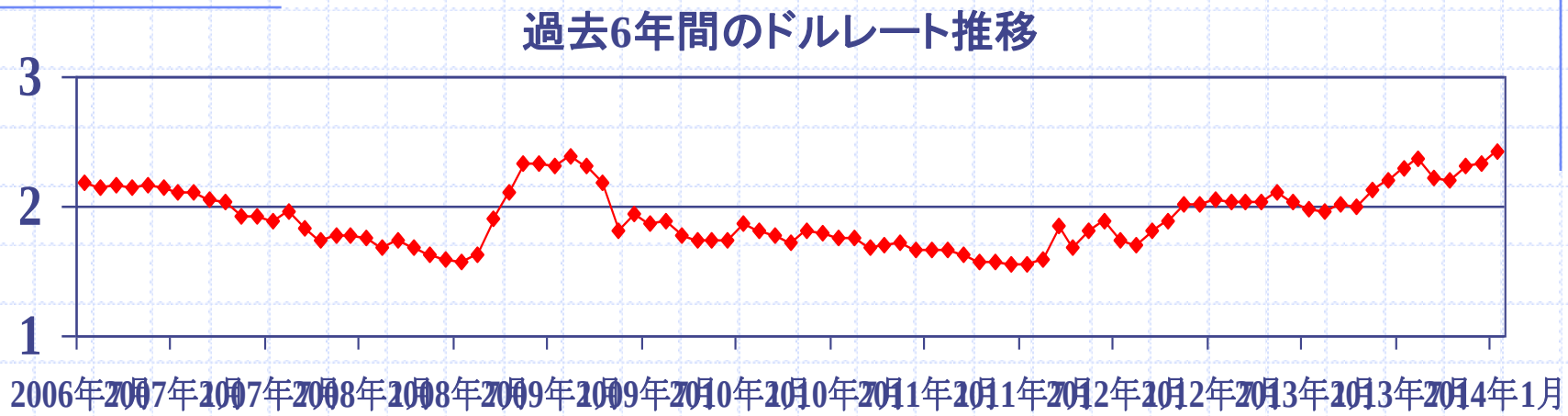
# 部会各社の動向： 2014年上期の展望-2

| 分野 | 2014年上期の展望 | コメント |
| --- | --- | --- |
| 醤油 | 数量約2倍増 | 高級志向をターゲット<br>海外拠点との連携 |
| 即席めん | 数量5～6%増 | 北東や中西部での拡販<br>小麦高騰での価格上昇 |
| 添加物 | 数量増 | 展示会の反響期待 |
| 種子 | 数量7%増 | 草花系を強化<br>値上げで収益改善 |
| 香料 | 前年比増収 | 国内消費拡大期待 |

# 品目別動向



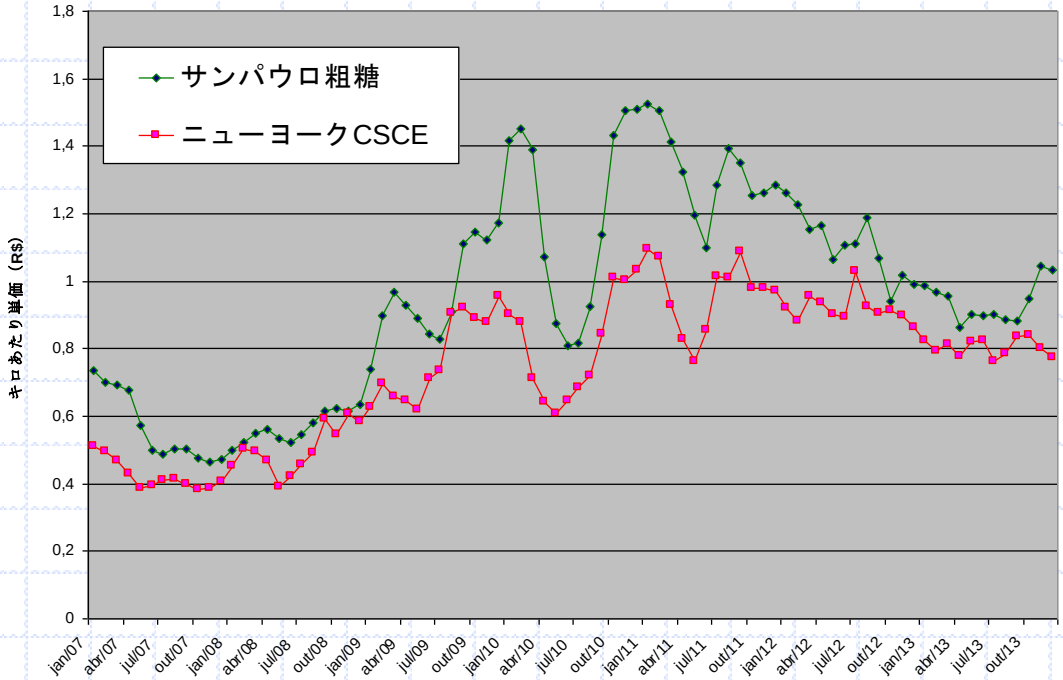
# 輸出動向




- コーヒー　・・・通貨安で輸出環境が好転
- 調味料　・・・採算改善
- 飼料　・・・通貨安はフォローなるも競合激化
- ジュース　・・・採算改善

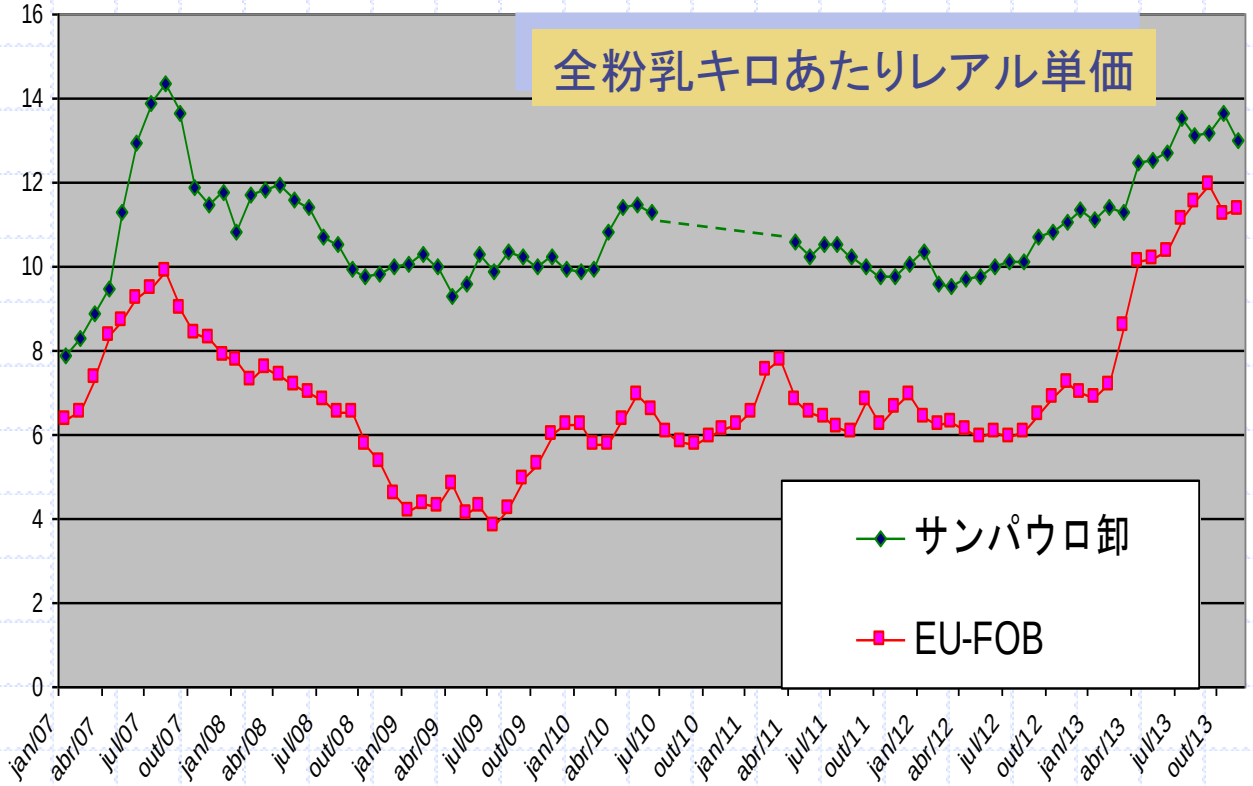
# 原料動向
## 砂糖相場の推移（2007～）

粗糖キロあたりレアル単価




◆2009年から2011年にかけて高値かつ乱高下を続けていたが、2012年からは下落傾向にある。国内外とも豊富な供給に支えられて投機の動きも沈静化、相場も安定している。

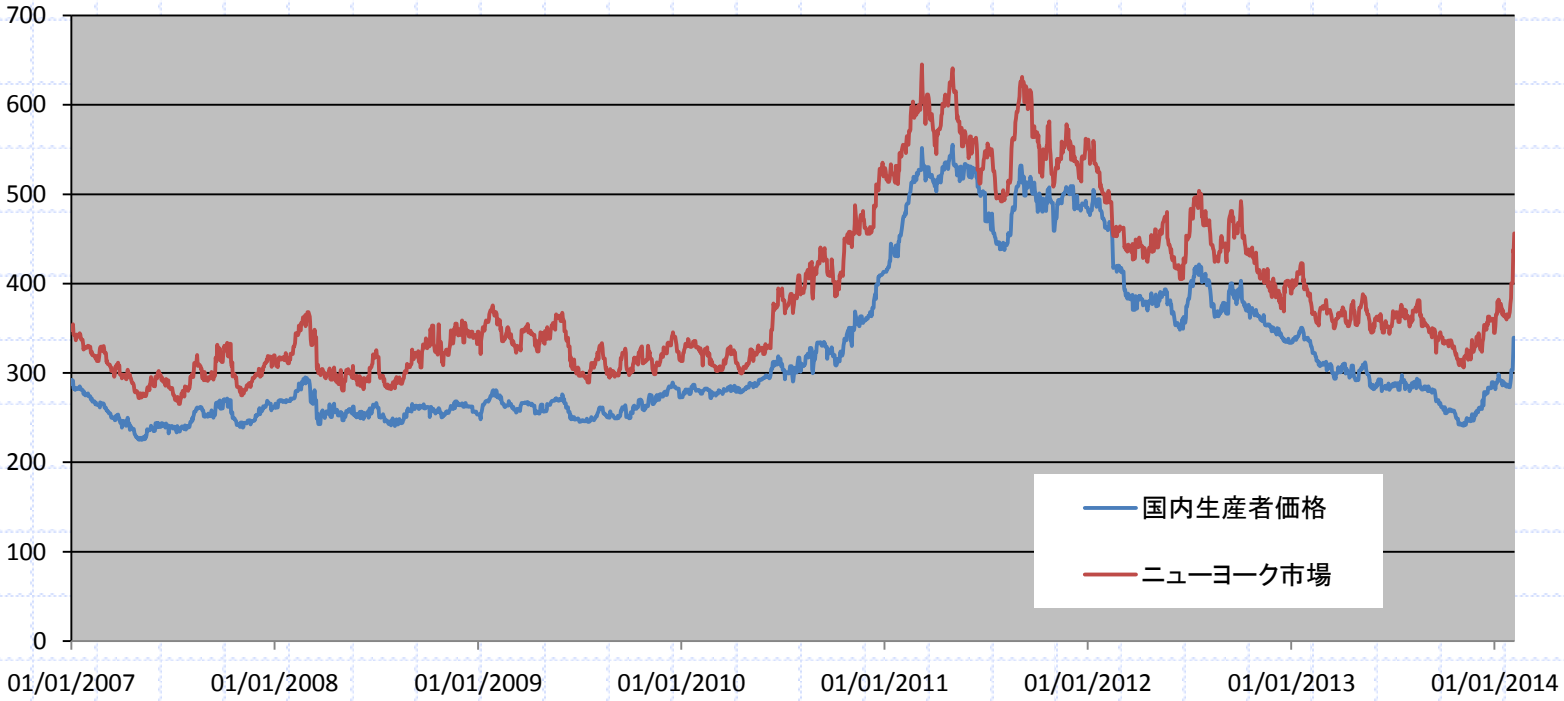
# 原料動向
## 乳相場の推移（2007～）




◆2010年より高値圏相場が続いている。2012年にはやや安定したかに見られたが、13年は一大供給地域オセアニアでの不作が影響し、再び高騰している。

# 原料動向
## コーヒー相場の推移

アラビカ種60kg現物渡し価格推移（R$）




◆ブラジルの2014･15年クロップの増産見通しから2013年は通年価格下落の展開となった。2014年に入り、アラビカ産地での干ばつ懸念により相場上昇に転じている。現段階ではその影響度は不明。

# 原料動向
## 全体コメント

- 近年における世界的な相場高騰の要因
  - 経済新興国の食品消費が拡大したこと
  - エタノール需要の増加による需給逼迫
  - 世界各地の異常気象
  - 投機マネーのコモディティ市場への流入

→一般的には供給量の増加等により、一昨年より相場は沈静化しつつある（特に砂糖）。商品によってばらつきがあり、特に乳製品については不作に加え中国からの需要が旺盛で需給がタイトな状態が継続している。

# 原料動向
## 全体コメント

- ブラジル国内の要因
  - ①賃金上昇、インフレ高進によるコスト高は継続
  - ②ブラジルから輸出できる原料に関しては国際需要が一段落したことにより、国内価格も下落。
  - ③ブラジルが輸入している原料については差別的関税によりメルコスール域外からの輸入を制限していることから、他地域からの影響を受けにくい。（下落しにくい）

→商品によっては引き続き原料高

# まとめ：　2013年の回顧

（1）国内市場はほぼ前年並みで、悪くはないものの、大きな盛り上げりに欠ける一年であった。

（2）輸出関連商品はレアル安に支えられ対前年大きく改善。

（3）原料相場は反転するも、レアル安によるインフレの影響、また労働需給の逼迫により収益環境は厳しい。

# まとめ：　2014年上期の展望

（1）国内需要の大きな落ち込みはないと思われるが、インフレと賃金調整等によるコストアップで採算の悪化が懸念。

（2）輸出についてはレアル安が追い風となるも、新興輸出国との競争はますます激化、ブラジルコストの克服が課題。

（3）税制優遇措置を受けている企業では還付が思うに任せず、キャッシュフローの改善に寄与していないケースもあり、懸念材料となっている。

# 副題

## どうしたブラジル経済-W杯と総選挙のインパクト

- 一部の会社では消費拡大が期待されるが、総体的にはプラスの影響は限定的
- 特に総選挙での影響力は期待薄
- 開催のメリットを最大限に活用したい

- 物流体制の混乱や更なるレアル安での経費アップを懸念

# 運輸サービス 部会

森田　透　部会長

# Departamento de Transportes e Serviços

Presidente: Toru  Morita

# 2013年の回顧と2014年の展望
## どうしたブラジル経済 -W杯と総選挙のインパクト-

運輸サービス部会　森田　透

2014年2月20日

# 運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 構内物流、機工、整備
- 海運
- 航空貨物
- 旅客航空
- 旅行、ホテル
- 通信、ＩＴ

# 物流業界

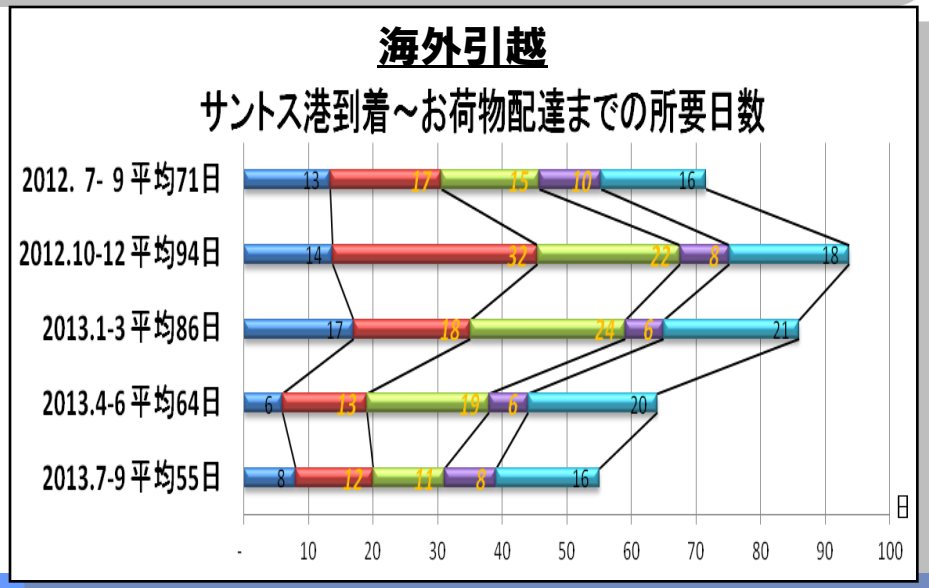
## 2013年回顧

- Santos港の新規コンテナターミナル*EMBRA Port/ BT Terminal*がオープン
- 港湾近代化の動きに対し*港湾労働者、トラッカーが反発*。ストが頻発
- PIS/COFINSの課税計算方式の変更による税額の低下

## 2014年展望

- ターミナルへのアクセス、インフラ改善が必要。港湾料金の低下に期待
- ワールドカップの時期に抗議運動の影響が懸念
- 自動車関連のＩＰＩ減税終了に伴い輸入量減少の心配

運転手新労働法、ディーゼルオイルの値上げによるコストアップの傾向。
2014年も同様の傾向が続くと予想され、人材に関しても、2013年同様にプロフェッショナルの確保が困難と予想される。



# 構内物流

## 2013年回顧

ブラジル製鉄業界の国際価格競争力が弱く、協力会社に対してのコスト削減要求、および同業者との競争が激化

## 2014年展望

- 製鉄所の協力会社に対するコスト削減要求は引続き継続
- 同業他社との競争も継続的に激化する予想
- 選挙による公共投資及び建設部門の増加による販売増が期待される

**製鉄所の協力会社として、顧客製鉄所と同スタンスでのコスト削減に向けての強力な取り組みが必須である。**

<u>世界の鉄鋼メーカーの粗鋼生産量順一覧</u>

1:アルセロール・ミッタル・ルクセンブルグ(93.6)
2:新日鐵住金・日本(47.9)
3:河北鋼鉄集団・中国(42.8)
4:宝鋼集団・中国(42.7)
5:ポスコ・韓国(39.9)
6:武漢鋼鉄・中国(36.4)
7:江蘇沙鋼集団・中国(32.3)
8:首鋼集団・中国(31.4)
9:JFEスチール・日本(30.4)
10:鞍山鋼鉄集団・中国(30.2)
11:山東鋼鉄集団・中国(23.0)
11:タタ・スチール・インド(23.0)
12:USスチール・米国(21.4)
13:ニューコア・米国(20.1)
14:ジェルダウ・ブラジル(19.8)

*(カッコ)の粗鋼生産量の単位は百万トン。順位は2012年時点。

**<u>ブラジル企業・ジェルダウは14位、ウジミナスは40位</u>**

# 海運業界

## 2013年回顧

- 輸出量は前年比約3.1%減、輸入量は前年比約3.6%増
- 全体における対アジア輸出が22%、輸入は46%
- サントス港の新コンテナターミナル（BTP、Embraport）が運営開始。コンテナ取扱い能力が約30%増に
- コンテナ船の大型化傾向が進んだ

## 2014年展望

- コンテナ貨物の輸出入量は2013年を若干上回るものと期待
- 港湾の浚渫作業、新規ターミナルの第2フェーズが稼動となればフレキシビリティが増大するものと期待
- 荷動き量は2014年以降も引続き増加傾向を見込んでおり、引続き大型船化が進む

サントス港を中心に、船型大型化とそれを受け入れるターミナル設備や港湾整備が進められる一方、今後増加していく輸出入貨の取扱いを効率的に行うべく、港湾アクセスを含めた周辺施設の改善が急務。

# 航空貨物業界

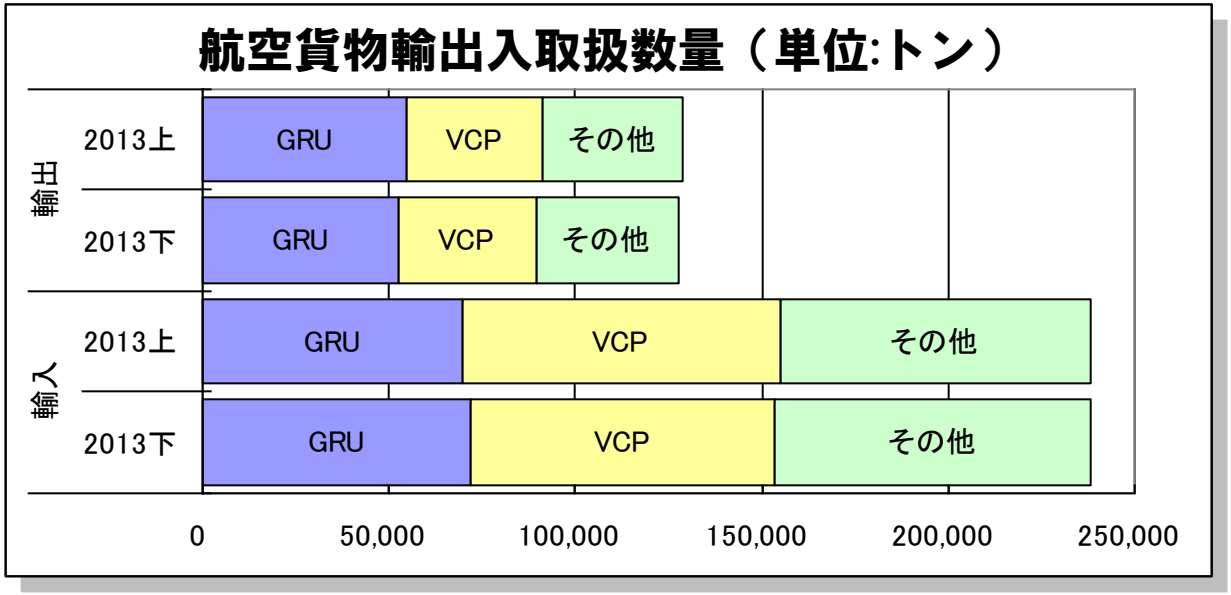
## 2013年回顧

- ワールドカップ需要に伴う輸入増が期待されたが、一部家電を除き、目に見えるような物量増は無かった

## 2014年展望

- ワールドカップ需要は見込まれるものの全体物量は横ばいの見通し

## 空港の民営化が進み、インフラの改善とリードタイムの短縮を期待する




**民営化された空港**

- ＶＣＰ
- ＧＲＵ
- ＢＳＢ
- ＧＩＧ
- ＣＮＦ

# 航空旅客業界

## 2013年回顧

- 提供座席数減少の一方、旅客数は前年を超え、引き続き堅調。旅客単価は2010年以降 毎年8%程度上昇。（燃料費,税金等の反映）
- 新規乗入れ、増便等の効果もあり、旅客数は堅調に推移した。
- フライトオペレーションの改善（効率的に発着できるよう管制機能強化）により、対前年 3.6% 発着便数を増加。
- 中東路線の新規開設、北米路線の増便、新規路線開設等が行われた。

## 2014年展望

- W杯期間は1500便増便する計画。旅客単価はW杯効果もあり前年以上に上昇する見込み。
- W杯の海外からの流動が不透明。W杯期間中はビジネス流動が落込む。
- GRUAPO第3ターミナルの完成により、便数の２０％増加が期待される。サービス面の向上も期待、
- 機材の大型化等や増便等の検討されている。

検討すべき課題は「空港=市内間アクセスの改善」
「国内線=国際線の乗継利便性の向上」

# 旅行業界

## 2013年回顧

- 国内線売上：2012年の9%増
- 国際線売上：2012年の13％増
- 引き続きビジネス旅行による売上が伸びを占める
- ビジネス客の増加によりホテルの稼働率が上昇し売上が対2012年の21%増

## 2014年展望

- ワールドカップ開催により、エアライン（国内線、国際線）のビジネス利用は大幅に下がると予想
- ホテルもワールドカップ試合開催地での稼働率が上がる傾向にあるが、ビジネス利用は低下と予想

ビジネス旅行客が継続的に増えており、旅行関連業界は全て好調。

ワールドカップの一時的な影響もあるがこの傾向は継続する様子。

# 旅行業界

## ワールドカップ関連トピック

- エアライン、ホテルともにレジャー旅行利用が増加
  ビジネス旅行利用は7割減の予想
- Wカップ関連で200万人の雇用創出計画がある。
  但し、人材育成が間に合うか不明。
- ワールドカップ期間中の旅客運賃が高騰する。
  各航空会社は試合期間中増便を行う計画を発表。
- ホテルに関してFIFAが開催地のブロックしていたが、
  一部の客室を開放。
  各開催地で20～50％の客室がリリースされた。
  料金設定は現状、不明。

# 通信業界

2013年回顧

- 通信インフラへの設備投資が進まず、回線の状況は依然悪い。

2014年展望

- ブラジル国内の4キャリアの再編が進むものと思われる。
- Smartphone利用の高まりにより、よりリッチなデータサービスへのニーズが拡大するため、各種アプリケーションの導入が予想される。

**通信インフラへの投資が鈍化。脆弱なインフラ環境が継続。**

FIFA WORLD CUP Brasil

## ワールドカップ関連トピック

- ワールドカップ開催エリア、会場については、WiFi等、通信インフラの増強が行われる予定である。
- 各通信キャリアの設備投資が進んでいないので、ワールドカップを機にブラジルの通信インフラの脆弱が露呈される可能性が大である。

# ＩＴ業界

## 2013年回顧

- 工場建設案件、オフィス新設案件の需要増加
- 既存企業においてはＩＴ投資の抑制が見られ、成長はやや、鈍化。
- ＳＰＥＤ（公共簿記システム）関連のシステム導入対応が引続き増加
- アウトソーシングサービス（ＩＴＯ、ＢＰＯ）の需要増加

## 2014年展望

- ワールドカップ、オリンピックに向けたＩＴインフラ投資拡大の期待が高まる
- 特に、政府系や製造業からの積極的なＩＴ投資が見込まれる
- ＥＲＰ（ＳＡＰ・Ｏｒａｃｌｅ等）導入案件の増加
- ＳＰＥＤ（公共簿記システム）のＥ－ＳＯＣＩＡＬの対応増加
- アウトソーシングサービスの需要は引き続き堅調

**ＩＴインフラの充実、優秀なＩＴ人材の確保が大きな課題**

# 講評

福嶌教輝
在サンパウロ日本国総領事/
ブラジル日本商工会議所名誉顧問

# Comentário do
# Cônsul Geral do Japão em São Paulo/
# Conselheiro de Honra da
# Câmara de Com. e Ind. Japonesa do Brasil

Noriteru Fukushima

# コメント

小林和昭
在ブラジル日本国大使館
参事官

Comentário do
Conselheiro da
Embaixada do Japão no Brasil

Kazuaki Kobayashi

# 閉会の辞

## 上野　秀雄　総務委員長

# ENCERRAMENTO

## Presidente da Comissão de Coordenação Geral:

## Hideo  Ueno